

研究紀要 655

令和2年度
研究紀要

児童生徒に関する意識調査

令和3年1月

盛岡市教育研究所

《研究の概要》

当研究所では、昭和 52 年度から「児童生徒の意識」「保護者の意識」「教員の意識」の 3 つのテーマについて 3 年間で 1 サイクルとして調査してきた。日本の若者の自己肯定感が国際比較で低いことが大きな課題として浮かび上がり、「自己有用感」を育むことが求められていることを受け、平成 29 年度の「児童生徒の意識調査」では、従前の調査を見直し「自己有用感」に焦点をあてた調査を実施した。今年度は、引き続き「自己有用感」についての調査を実施し、前回調査結果と比較しながらその変容を探り、これまでの成果と課題を明らかにし、更なる取組の充実に寄与することを目的としている。

また、本年度は新型コロナウイルス感染症防止のために教育活動が大きく制約を受ける中で、各校が様々な工夫を重ねて対応している。そのことが、児童生徒の意識に及ぼす影響を探るという観点からも特別な意味をもつ調査となった。

1 調査期間

令和 2 年 5 月 25 日（月）～6 月 19 日（金）

2 調査対象

市内 42 小学校の 5 年生児童 及び 市内 23 中学校の 2 年生生徒

3 調査方法

アンケート調査（マークシート方式）

4 調査結果の概要

<小学校 5 年生>

【家族】と【友だち・学級】については前回調査と大きく変わらない結果となっている。【家族】の〔関係性〕と〔存在感〕の肯定的回答は 90%前後の高い比率となっており、多くの子どもたちが家族からの厚い愛情を感じ取っていることがうかがえる。一方で、否定的な回答が数%あり、その子どもたちの家庭の背景も念頭に入れた対応が求められる。【担任・先生】に着目すると、〔貢献〕と〔関係性〕の肯定的回答率が 4 ポイント向上し否定的回答率は低下している。新型コロナウイルス感染症防止のため教育活動が大きく制限される中であって、教職員が安心安全を最優先にしながら教育活動を進めようと取り組んでいることが児童生徒に伝わったことを示す結果とも捉えられる。

<中学校 2 年生>

【担任・先生】の各要素が 5～8 ポイント【家族】の各要素が 3～7 ポイント高まり、否定的回答は減少している。総体的に自己有用感が高まっていると捉えることができる。新型コロナウイルス感染症防止のため学校の教育活動が大きく制限される中であって教職員が安心安全を最優先にしながら、子どもたちのために取り組んでいることが伝わっていることを示す結果とも捉えられる。

また、小中学校共に〔承認〕や〔貢献〕の肯定的回答率が他の要素と比べて低くなっており、「認めてほしい」「ほめてほしい」「役に立ちたい」という気持ちの表れと捉えられる。心身の発達段階に応じた個々の成長や努力に目を向け、認めたり励ましたりする機会を増やしていくことで自己有用感が一層高まることが期待できるだろう。

キーワード

自己有用感 存在感 貢献 承認 関係性

目 次

I	調査の概要	1~5
1	調査の主題	1
2	調査の趣旨	1
3	調査期間	1
4	調査対象	1
5	日程	1
6	調査方法	1
7	調査研究の構想	2
8	質問の構成	4
9	調査対象校と対象者数	5
II	調査結果の概要と考察	6~23
	Z-①【友だち・学級】〔関係性〕	6
	Z-②【担任・先生】〔関係性〕	8
	Z-③【家族】〔関係性〕	10
	悩み	12
	A-①【友だち・学級】〔存在感〕	13
	A-②【担任・先生】〔存在感〕	14
	A-③【家族】〔存在感〕	15
	B-①【友だち・学級】〔貢献〕	17
	B-②【担任・先生】〔貢献〕	18
	B-③【家族】〔貢献〕	19
	C-①【友だち・学級】〔承認〕	20
	C-②【担任・先生】〔承認〕	21
	C-③【家族】〔承認〕	22
III	分析と考察	24~36
	1-① 小学校【友だち・学級】	25
	1-② 小学校【担任・先生】	26
	1-③ 小学校【家族】	27
	2-① 中学校【友だち・学級】	28
	2-② 中学校【担任・先生】	29
	2-③ 中学校【家族】	30
	3 場面相互の比較	31
	4 本年度の小学校と中学校の比較	33
	5 前回の小学校と今回の中学校の比較（同一児童生徒の追跡）	35
IV	学校／学級別類型	37~40
V	実践事例	41~47
VI	まとめ	48
	おわりに	49
	参考文献	49
	<資料>	資料1~8
	調査用紙	資料1~4
	集計	資料5~8

I 調査の概要

1 調査の主題

「児童生徒に関する意識調査」

2 調査の趣旨

当研究所では、子どもたちのよりよい生活と望ましい学習環境の在り方を追究することを目的として、昭和52年度以降、3年間で1サイクルとして「児童生徒の生活や学習への意識」「児童生徒についての保護者の意識」「教員の意識」の3つのテーマについて調査してきた。長期間にわたって調査を継続することで、その時々における児童生徒・保護者・教員の意識だけでなく、時代の趨勢をも読み取ることができ、今後の教育の方向性を見定めるうえでの重要な基礎資料となっている。

平成29年度は、児童生徒の自己有用感について「通常学級に在籍する小学校5年生と中学校2年生の児童生徒」及び「特別支援学級に在籍する小学校5・6年生と中学校1・2年生の児童生徒」を対象に、アンケート調査と分析を行った。自己有用感を〔存在感〕〔貢献〕〔承認〕の3つの要素とその基盤となる〔関係性〕について、児童生徒を取り巻く【友だち・学級】【担任・先生】【家族】について質問し、その傾向を捉えた。その中で、多くの児童生徒が学級に居心地の良さを感じていることや、担任との関係性は良好であるが、「悩んだときに相談できる」のプラス回答が低いこと。全ての項目で小5より中2のプラス回答が減少していること等の実態を把握することができた。そして、自己肯定感を高めるべく盛岡市として各種の教育施策を進めてきた。

本年度はその結果を踏まえ、再び児童生徒への「自己有用感」に関するアンケートを実施し、その変容を捉えることを通して市内児童生徒の自己有用感に係る実態や課題を明らかにすることにより、各小中学校の学校経営の充実に資する資料を提供できるものとする。また、当研究所の今後の公開講座や各種研修会の内容の改善の参考資料にもなるものとする。更に、本年度の調査期間は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校の諸活動を大きく制限せざるを得ない時期と重なっている。そのような状況下での児童生徒の意識という視点からも貴重な資料となるものと思われる。

3 調査期間

令和2年5月25日（月）～6月19日（金）

4 調査対象

小学校：市内小学校の5年生（特別支援学級を含む）

中学校：市内中学校の2年生（特別支援学級を含む）

5 日 程

4月～	研究計画作成、文献等で調査内容や項目の吟味
5月	調査用紙の作成、調査実施
6月	調査実施、調査用紙回収
7月～9月	集計・学校毎のデータを作成・送付
10月～11月	分析・考察・実践事例収集
12月～1月	研究紀要刊行、研究発表大会発表

6 調査方法

アンケート調査…紙媒体（マークシート方式）による

7 調査研究の構想

(1) 自己有用感について

自己有用感…自分と他者との関係を、自他共に肯定的に受け入れられることで生まれる、自己に対する肯定的な評価（文部科学省国立教育政策研究所）

自己肯定感…自尊感情と同義で、自らのあり方を積極的に評価できる感情

※ 自己有用感は、「他者の役に立った」「他者に喜んでもらった」など、相手の存在なしには生まれてこない点で「自尊感情」や「自己肯定感」とは異なる。

※ 子どもたちに見られる「人と関わりたいという意欲の低下」は、人間関係の希薄化を生んだりルールを破ったりするなど、生徒指導上の問題につながるおそれもある。その効果的な解決策として「自己有用感を育む」ことが注目されている。

※ 自己有用感の獲得が自尊感情の獲得にもつながる。



※ 他者の存在を前提としない自己評価は、社会性に結びつくとは限らない。「自己有用感」に裏付けられた「自尊感情」が大切。(国立教育政策研究所 生徒指導リーフ)

自己有用感を高め、自分自身を肯定的に捉える意識や自信をもつことは、心身ともに明るく健康によりよく生きていくための心理的な基盤となる。また、学習への主体的な取組や向社会的な行動は、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」にも通ずると言われている。

なお、「有用」という表現は、言葉の使い方によっては個人の尊厳にも関わるような表現となることもある。本調査における「自己有用感」の「有用」とは、他者や集団から見て「役に立つ」「役に立たない」といった、機能的な「有用度」を表すものではなく、本人が他者や集団との関わりの中で自分自身の価値についてどう感じているかという実感を示す感覚として用いている。

(2) 自己有用感の要素（栃木県総合教育センター）

A〔存在感〕…他者や集団の中で、自分は価値ある存在であるという実感。自己有用感の中心的要素。

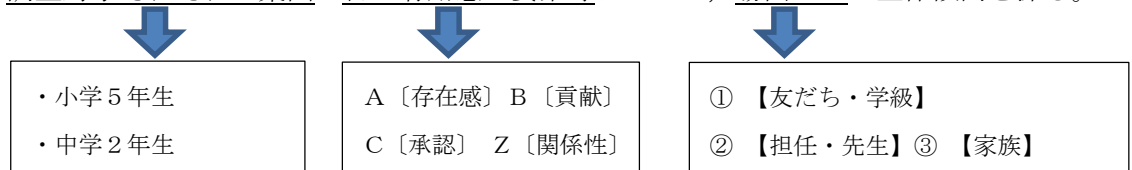
B〔貢献〕…他者や集団に対して、自分が役に立つ行動をしているという状況。

C〔承認〕…他者や集団から、自分の行動や存在が認められているという状況。

Z〔関係性〕…要素そのものではないが、自己有用感の獲得につながる重要なもの。他者や集団との関係の状況を示す。

(3) 調査研究の構成

ア 調査対象それぞれの集団の自己有用感の要素等について、場面ごとの全体傾向を探る。



イ 小5，中2，それぞれの、場面ごとの自己有用感の状況を探る。

① 小5児童の、「学級に対する自己有用感」「担任に対する自己有用感」「家族に対する自

己有用感」の状況と平成 29 年度からの経年変化についてグラフで比較。

- ② 中 2 生徒の、「学級に対する自己有用感」「担任に対する自己有用感」「家族に対する自己有用感」の状況と平成 29 年度からの経年変化についてグラフで比較。

ウ 調査結果が良好な学校（学級）の取組事例を収集し紹介する。

（４）調査結果の学校へのフィードバック

ア 市全体・各学校の前回結果と今回の結果の比較

（各質問項目に加え、全体傾向を一目で把握できるようチャートグラフ化する。）

イ 市全体と各学級の結果との比較

ウ 調査結果の概要や自己有用感の高い児童生徒が多く在籍する学校・学級の効果的と思われる取組の紹介

エ 各校の自己有用感の低い児童生徒の状況についての情報提供

8 質問の構成

《実施時期》令和2年5～6月 《対 象》盛岡市内小学校5年生及び中学校2年生 《方 法》マークシート方式

自己有用感を〔A存在感〕〔B貢献〕〔C承認〕とそれを支える〔Z関係性〕の観点から、児童生徒を取り巻く【①友だち・学級】【②担任・先生】【③家族】のそれぞれについて質問し、その状況を把握した。

回答の選択肢：①とてもあてはまる ②少しあてはまる ③どちらともいえない ④あまりあてはまらない ⑤まったくあてはまらない

肯定的回答

否定的回答

	① 友だち・学級	② 担任・先生	③ 家族
Z 関係性	<ul style="list-style-type: none"> ・学級は安心できる (1)-1 ・学級の友だちは支えてくれる (1)-2 ・話しかけてくれる友だちがいる (1)-3 ・悩みを話せる友だちがいる (1)-4 ・休み時間が楽しみだ (1)-5 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任の先生と一緒にいると安心する (3)-1 ・担任の先生は支えてくれる (3)-2 ・担任の先生は話しかけてくれる (3)-3 ・担任の先生に悩みを相談できる (3)-4 	<ul style="list-style-type: none"> ・家は安心できるところだ (3)-5 ・家族は支えてくれる (3)-6 ・家族とよくおしゃべりをする (3)-7 ・家族に悩みを相談できる (3)-8
	※ 休み時間の過ごし方 (願い) (2)		
	※ 私には今なやんでいることがある→その内容 (4) (5) (6)		
A 存在感	<ul style="list-style-type: none"> ・学級の友だちは、発表を聞いてくれる (7)-1 ・休んだとき学級の友だちは心配してくれる (7)-2 ・私は「学級の大切な一員」だ (7)-3 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任の先生は私の話を聞いてくれる (7)-4 ・休んだとき担任の先生は心配してくれる (7)-5 ・私は担任の先生にとって「大切な生徒」だ (7)-6 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族は私の話を聞いてくれる (7)-7 ・学校を休んだら家族は心配してくれる (7)-8 ・私は「家族の大切な一員」だ (7)-9
B 貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・私は学級のためになる仕事をしている (8)-1 ・私は学級の皆が納得する意見を言うことがある (8)-2 	<ul style="list-style-type: none"> ・私は担任の先生に対して協力的な態度をとっている (8)-3 ・私は担任の先生が納得する意見を言うことがある (8)-4 	<ul style="list-style-type: none"> ・私は家族の役に立つ仕事をしている (8)-5 ・私は家族が納得する意見を言うことがある (8)-6
C 承認	<ul style="list-style-type: none"> ・私は学級の人から「ありがとう」と言われることがある (8)-7 ・私は学級の人からほめられることがある (8)-8 	<ul style="list-style-type: none"> ・私は担任の先生から「ありがとう」と言われることがある (8)-9 ・私は担任の先生からほめられることがある (8)-10 	<ul style="list-style-type: none"> ・私は家族から「ありがとう」と言われることがある (8)-11 ・私は家族からほめられることがある (8)-12

9 調査対象校と対象者数

令和2年度 盛岡市内小中学校学級数／児童生徒数（小5・中2）

小学校

	学校名	学級数	通常 学級	特別 支援	合計
1	仁王	2	66	1	67
2	城南	2	54	4	58
3	桜城	2	56	1	57
4	厨川	2	62	5	67
5	仙北	3	120	3	123
6	杜陵	1	35	0	35
7	山岸	3	98	4	102
8	大慈寺	1	26	1	27
9	米内	1	15	1	16
10	土淵	2	69	0	69
11	中野	3	103	0	103
12	本宮	3	112	3	115
13	青山	3	97	5	102
14	北厨川	1	37	2	39
15	河北	1	24	3	27
16	上田	2	69	0	69
17	山王	1	22	0	22
18	緑が丘	3	108	2	110
19	太田	1	21	0	21
20	太田東	2	44	1	45
21	繫	1	3	0	3
22	城北	3	89	3	92
23	大新	3	97	2	99
24	松園	1	38	6	44
25	月が丘	2	47	3	50
26	高松	2	60	3	63
27	東松園	1	35	0	35
28	見前	3	77	5	82
29	飯岡	2	48	1	49
30	羽場	1	30	0	30
31	永井	2	58	2	60
32	手代森	2	42	3	45
33	津志田	4	129	11	140
34	見前南	2	46	2	48
35	都南東	1	27	1	28
36	北松園	2	43	0	43
37	玉山	1	6	0	6
38	渋民	2	44	1	45
39	生出	1	8	0	8
40	巻堀	1	11	0	11
41	好摩	1	25	2	27
42	向中野	4	126	1	127
	計	81	2327	82	2409

中学校

	学校名	学級数	通常 学級	特別 支援	合計
1	下橋	3	84	6	90
2	下小路	5	188	8	196
3	厨川	5	181	7	188
4	上田	4	124	3	127
5	河南	4	129	3	132
6	仙北	7	242	2	244
7	大宮	5	175	3	178
8	米内	1	17	0	17
9	土淵	2	72	0	72
10	黒石野	4	148	4	152
11	北杜分校	1	3	0	3
12	城西	3	107	0	107
13	城東	2	76	0	76
14	北陵	5	176	9	185
15	松園	3	85	7	92
16	見前	5	185	7	192
17	飯岡	2	48	1	49
18	乙部	2	64	1	65
19	見前南	4	147	1	148
20	北松園	2	44	2	46
21	玉山	1	9	0	9
22	渋民	2	49	0	49
23	巻堀	1	37	0	37
	計	73	2390	64	2527

令和2年5月1日 現在

※ 特別支援学級の児童生徒は、通常の学級に含めて集計する。

Ⅱ 調査結果の概要と考察

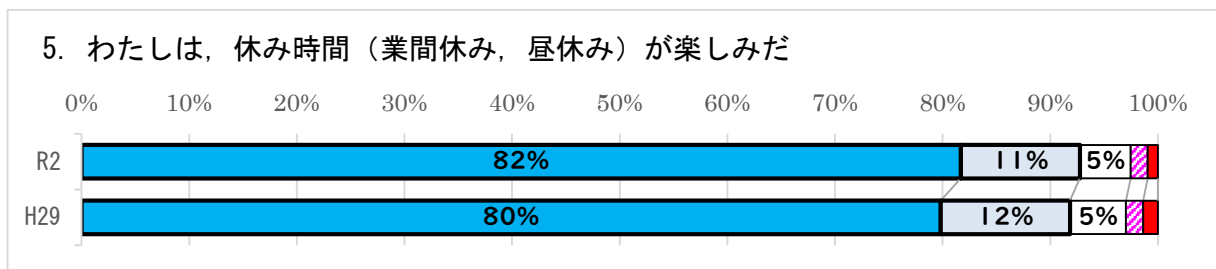
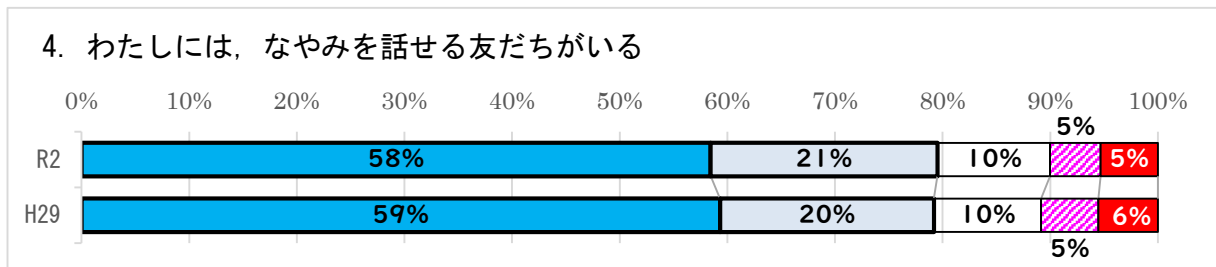
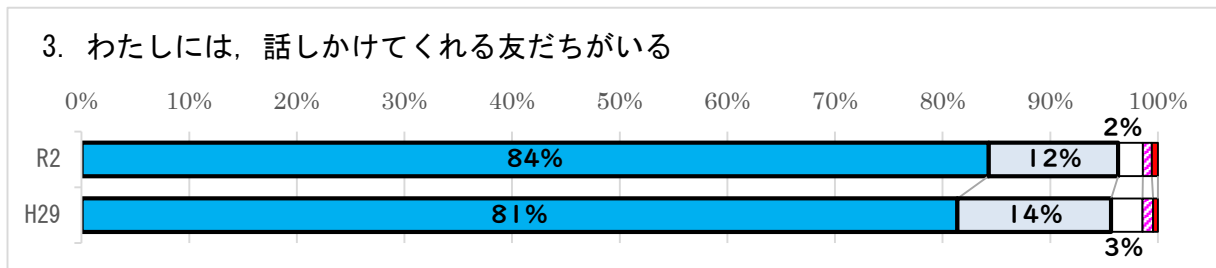
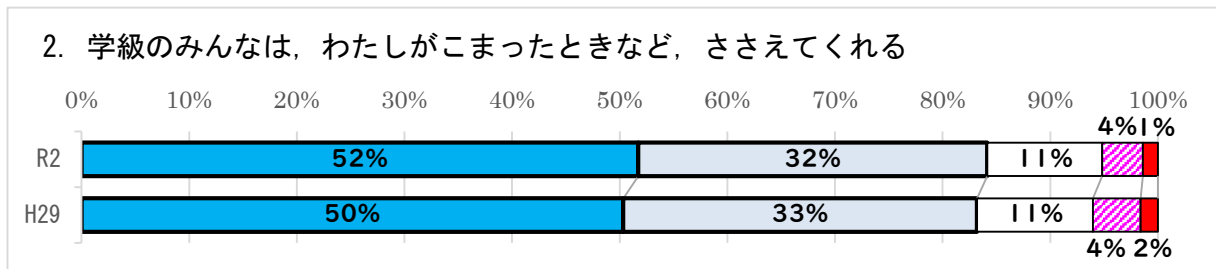
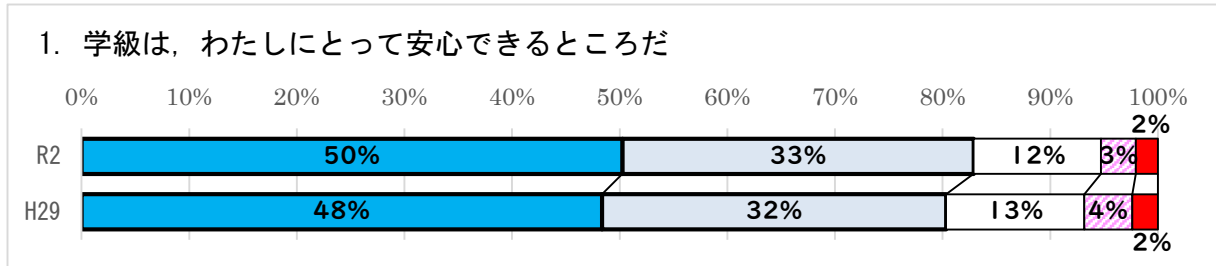
1 市内全体の回答比率と前回比較

総回答数 小学校：2309 中学校：2348

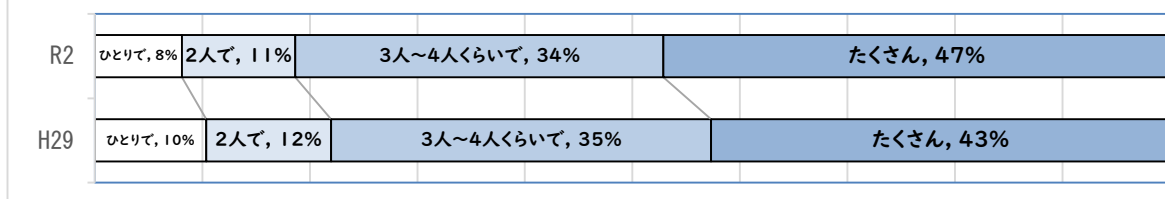
■ とてもあてはまる ■ 少しあてはまる ■ どちらともいえない ■ あまりあてはまらない ■ 全くあてはまらない

Z-①【友だち・学級】〔関係性〕

小学校

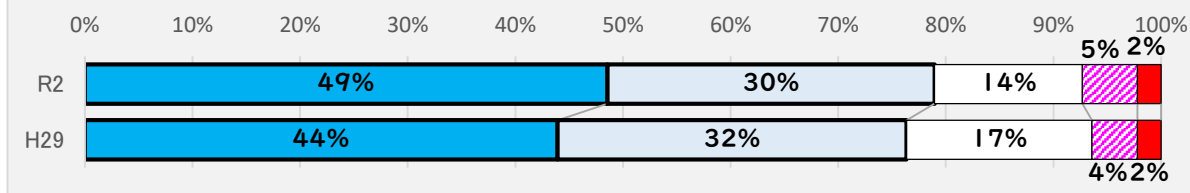


(2) 休み時間のすごし方について、自分の考えに近いものはどれですか。

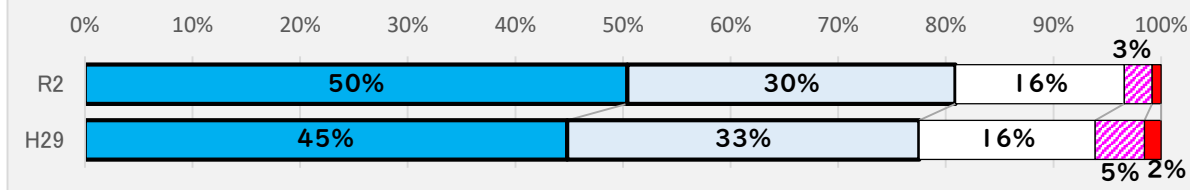


中学校

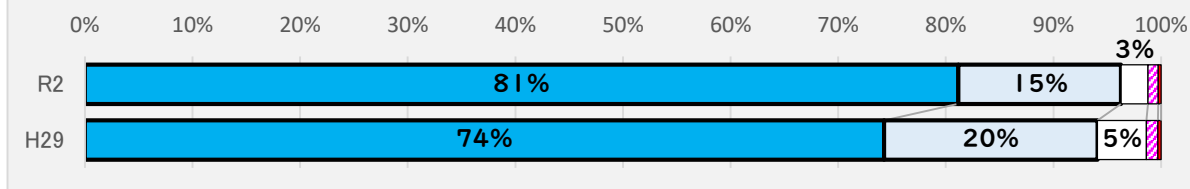
1. 学級は、わたしにとって安心できるところだ



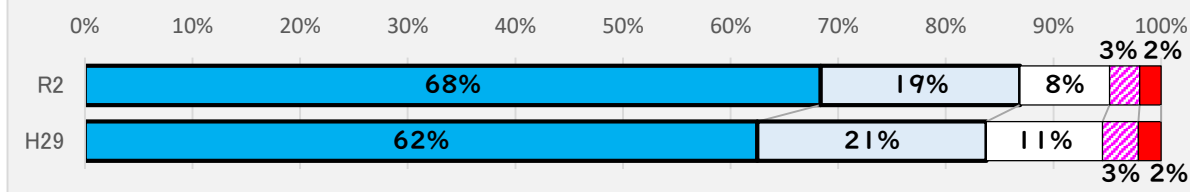
2. 学級のみんなは、わたしが困ったときなど、支えてくれる



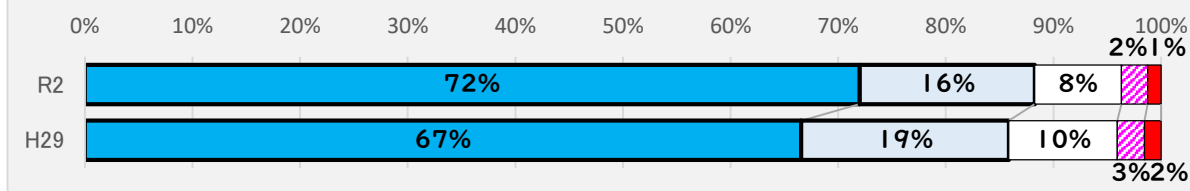
3. わたしには、話しかけてくれる友だちがいる



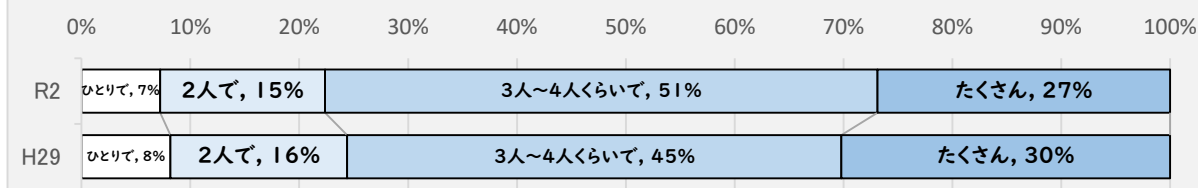
4. わたしには、悩みを話せる友だちがいる



5. わたしは、休み時間(業間休み, 昼休み)が楽しみだ



(2) 休み時間の過ごし方について、自分の考えに近いものはどれですか。



＝考察＝

児童生徒の【友だち・学級】との〔関係性〕についての設問である。〔関係性〕は、自分の存在を価値あるものとして受け止める自己有用感そのものではないが、他者や集団との関係の状況を示すものであり、自己有用感の獲得につながる土台のような役割を果たす要素である。

「1. 学級は、わたしにとって安心できるところだ」の設問では、小学校83%、中学校79%が肯定的回答であり、前回調査より僅かではあるが上昇している。「2. 学級のみんなは、わたしが困ったときなど、支えてくれる」は、小学校84%、中学校80%が肯定的回答であり、やはり僅かながら上昇がみられる。生活や学習の場となる学級が概ね安心・安全な場となっていることがうかがえる。一方で、減少はしてはいるものの否定的回答が4～5%見られ、学級に馴染めない子どもがいることを示している。

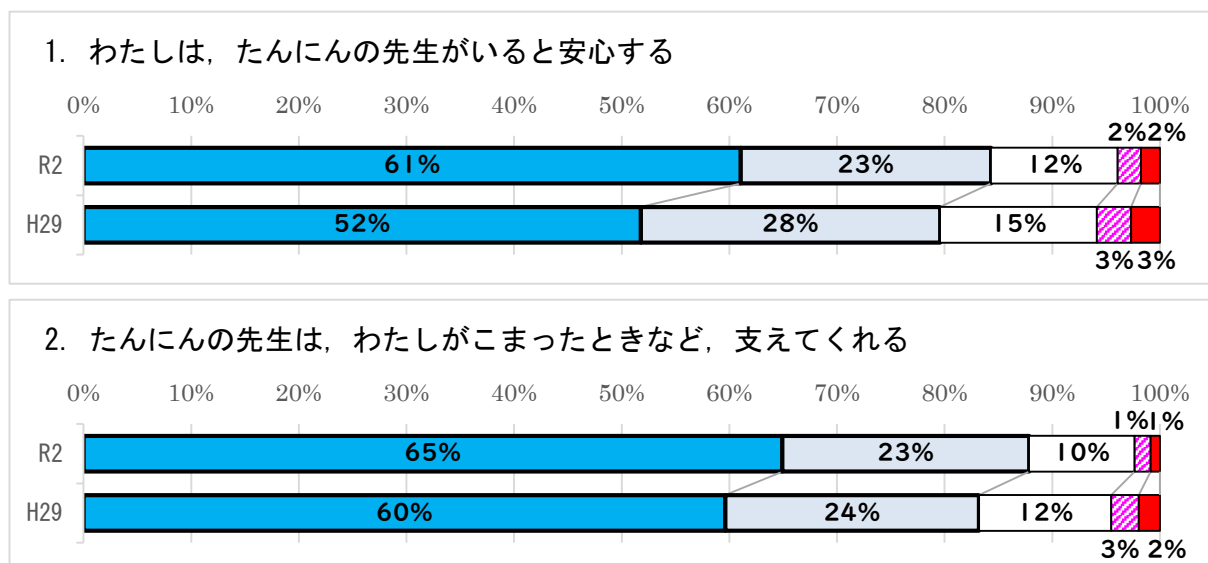
「3. わたしには、話しかけてくれる友だちがいる」「5. わたしは、休み時間（業間休み、昼休み）が楽しみだ」は、肯定的回答が特に期待される設問であり、良好な結果となっているが、否定的回答の児童生徒がわずかながら見られる。前設問の結果と同様に、個別の支援が求められる。学校不適応やいじめ、人間関係のトラブル、学校不信等の大きな問題に発展する可能性もあり、状況に応じた個別の支援や、それを支える校内体制の整備が求められる。各校においては、別途配布している個別の否定的回答状況の資料も活用願いたい。

「4. わたしには、悩みを話せる友だちがいる」では、小学校79%、中学校87%が肯定的回答である。否定的回答に目を向けると、小学校10%、中学校5%となっている。思春期を迎えた中学生にとっては、悩みを打ち明けられる友だちの存在が大きくなっている。

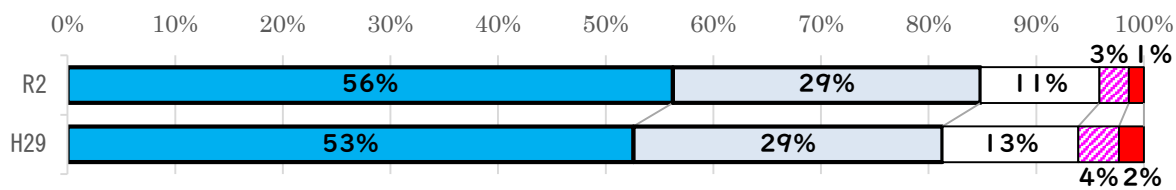
「(2) 休み時間の過ごし方について、自分の考えに近いものはどれですか。」では、前回調査と同様の回答傾向を示してはいるが、「ひとりで好きなことをして過ごしたい」の回答が小中共に若干減少する等、全体としては、より多くの友だちとの関わりを求める方向に変化している。前回調査の分析では、友だちとの関わりを苦手として避ける児童生徒が増加していくことを危惧していたが、増加はみられていない。しかし、他者との関わりが減少していく昨今の社会情勢の中で今後も注目していきたい。

Z—②【担任・先生】〔関係性〕

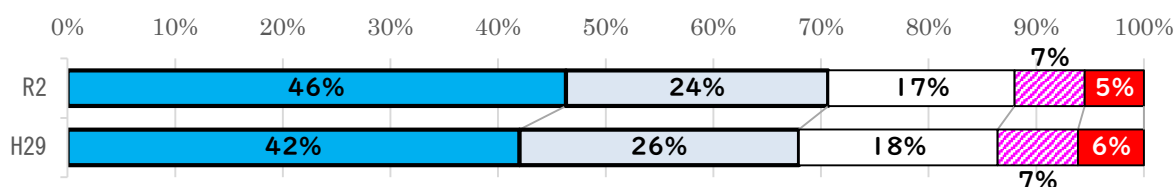
小学校



3. たんにんの先生は、わたしに話しかけてくれる

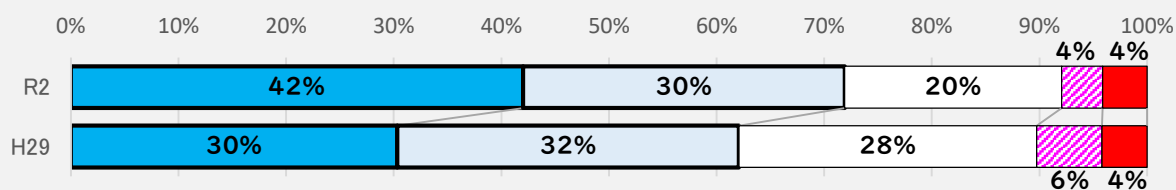


4. なやんだとき、たんにんの先生に相談できる

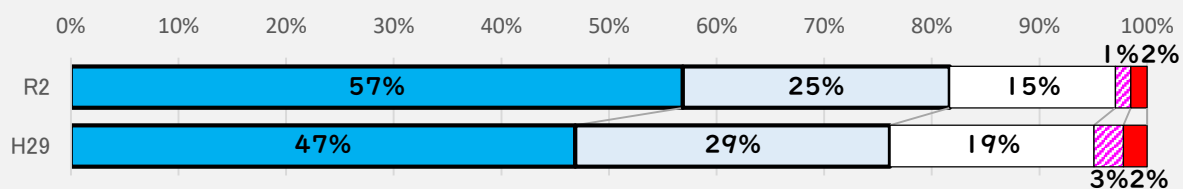


中学校

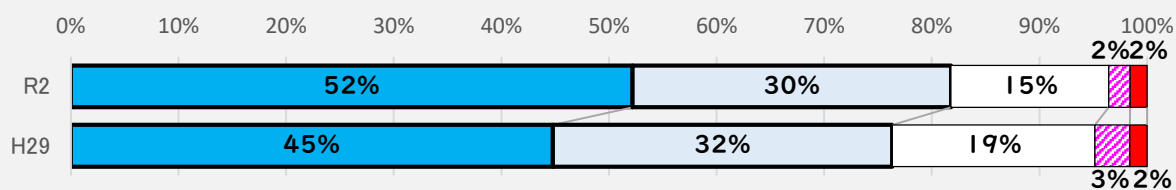
1. わたしは、担任の先生がいると安心する



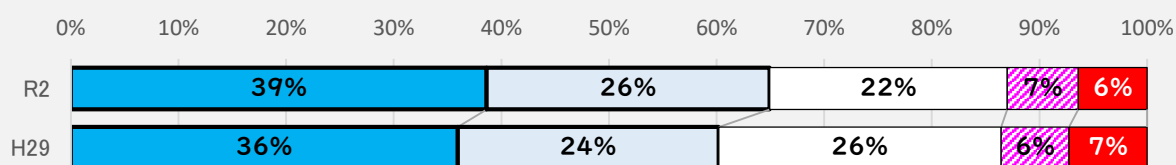
2. 担任の先生は、わたしが困ったときなど、支えてくれる



3. 担任の先生は、わたしに話しかけてくれる



4. なやんだとき、担任の先生に相談できる



＝考察＝

【担任・先生】との「関係性」についての設問である。ここでも全ての設問において肯定的回答が増加、否定的回答が減少しており、良好な方向に変化している。今回は、新型コロナウ

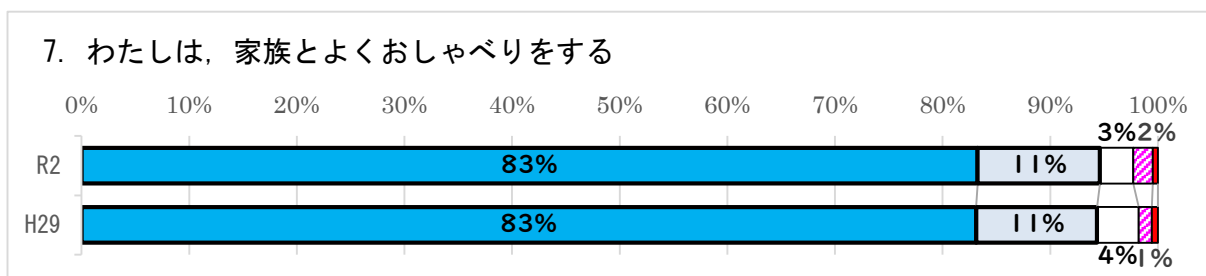
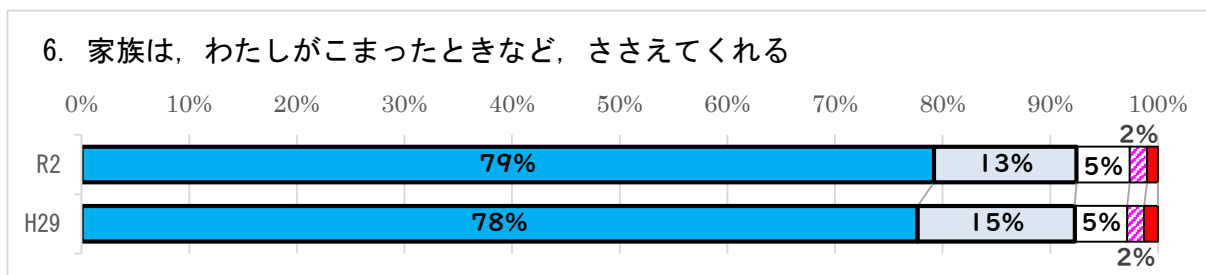
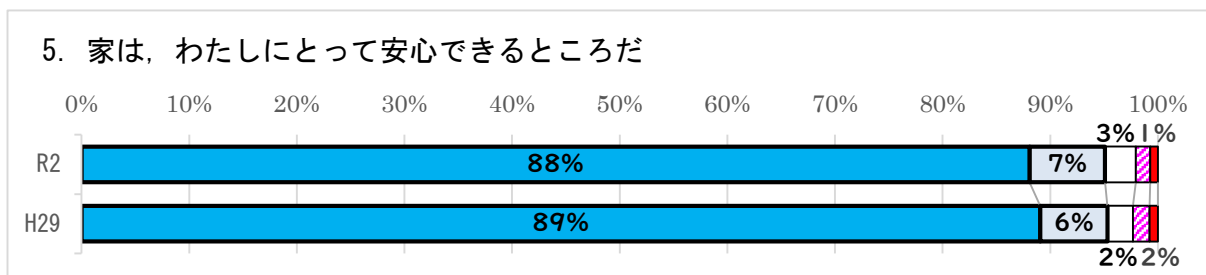
ウイルス感染症防止のための対策が求められ、教育活動が様々な制約を受ける中での調査であった。中でも調査を実施した6月は、事態の収束が見通せず先行きが不透明で、毎年実施してきた行事が中止や縮小となった時期であった。そのような中で、児童生徒の安心・安全を第一に取り組んできた先生の姿を見ての回答である。未曾有の事態で様々な制約を受ける中、先生との〔関係性〕が良好な結果となっていることは、先生の姿勢が児童生徒に伝わっていると捉えることができるだろう。

「1. わたしは、担任の先生がいると安心する」は、小学校 84%，中学校 72%が肯定的回答であり、いずれも前回調査より大きく上昇している。「2. 担任の先生は、わたしが困ったときなど、支えてくれる」は、小学校 88%，中学校 82%。「3. 担任の先生は、わたしに話しかけてくれる」は、小学校 85%，中学校 82%が肯定的回答であり、いずれも前回調査より 5 ポイント程増加している。

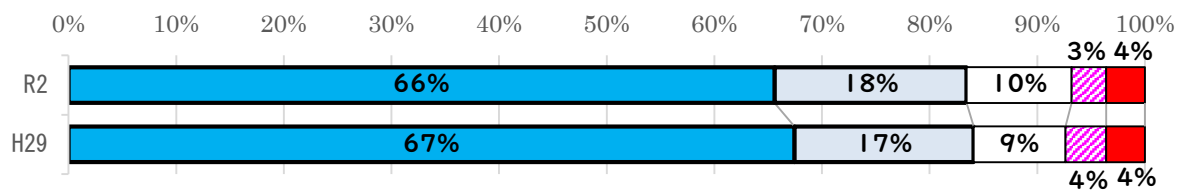
「4. なやんだとき、担任の先生に相談できる」は、前回調査でも他の設問に比べて低い結果であったが、その傾向は今回調査でも同様である。しかし、小学校中学校ともに肯定的回答が増加している。様々な場面で、子どもたちに寄り添おうとする教師の姿勢を子どもたちが受け止めた結果と捉えたい。今後も引き続き子どもたちが「安心」「支えてくれる」「話しかけてくれる」「相談しやすい」教師との〔関係性〕の向上に努めていく必要があるだろう。

Z—③【家族】〔関係性〕

小学校

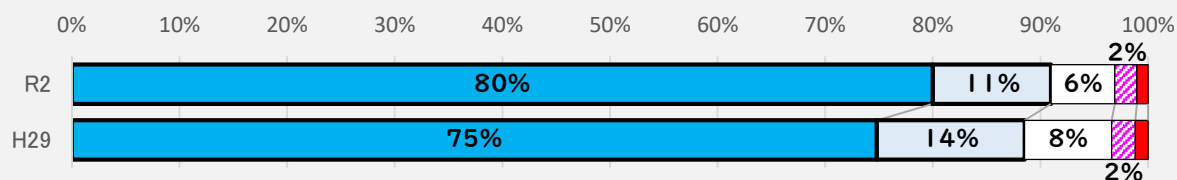


8. なやんだとき、家族に相談できる

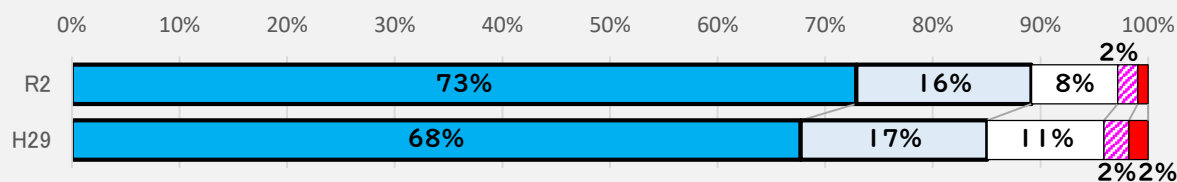


中学校

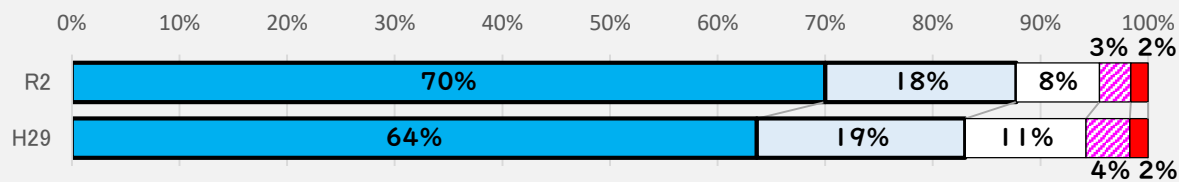
5. 家は、わたしにとって安心できる場所だ



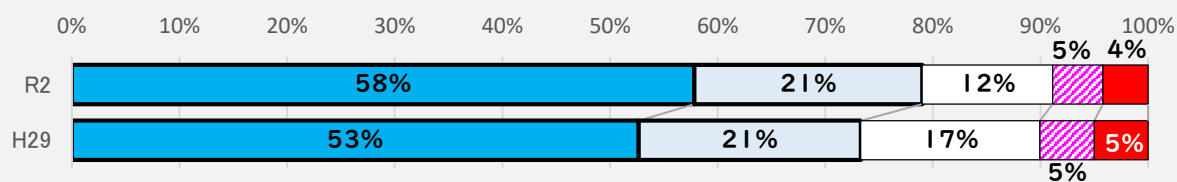
6. 家族は、わたしが困ったときなど、支えてくれる



7. わたしは、家族とよくおしゃべりをする



8. なやんだとき、家族に相談できる



＝考察＝

【家族】との「関係性」に関する設問である。

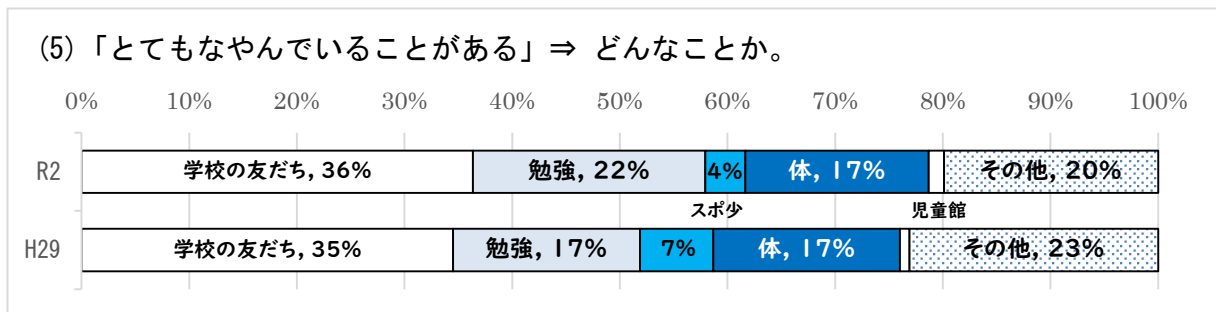
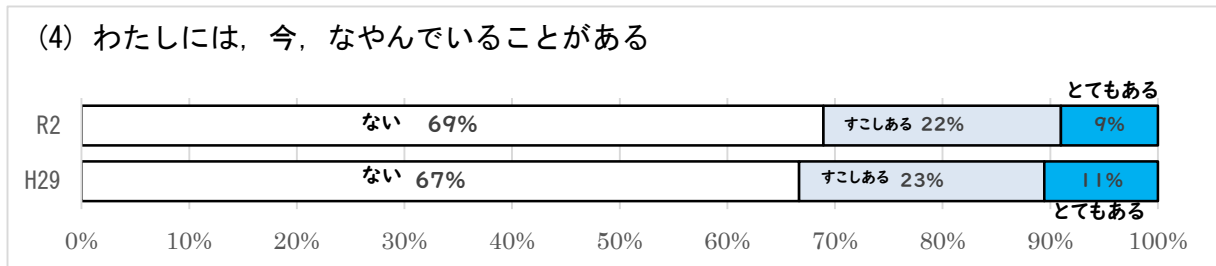
「5. 家は、わたしにとって安心できる場所だ」は、肯定的回答率が小学校 95%、中学校 91%となっており、多くの子どもたちにとって家庭が安心できる場であることを示している。自己有用感を高める上で最も重要な基盤であることは言うまでもない。

小学校ではいずれの設問も前回調査と同様に肯定的回答率が高く「相談できる」以外は 95%前後と高い数値となっている。「相談できる」は【担任・先生】でも他の設問に比べて低い肯定的回答率であったが、同様の傾向を示している。

中学校は、全ての設問で肯定的回答率がわずかながら上昇しており、否定的回答率も数%とわずかながら減少又は横ばいとなっている。このことから、家庭との関係性は前回より若干改善していると捉えることができる。「相談できる」は、79%が肯定的回答と前回調査より5ポイント増加し、否定的回答は9%と前回調査より1ポイント減少している。

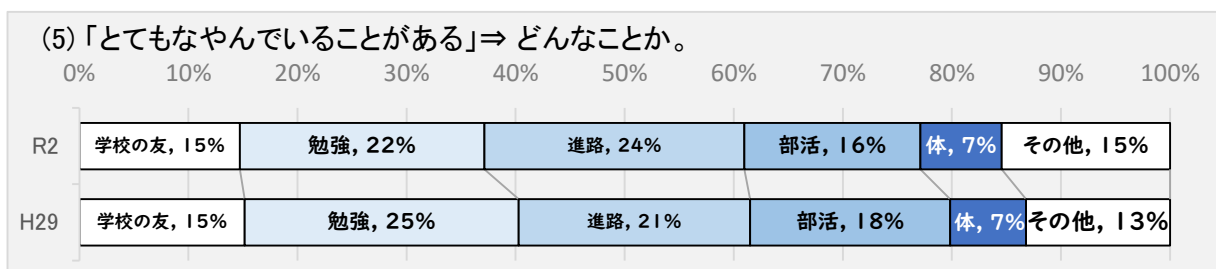
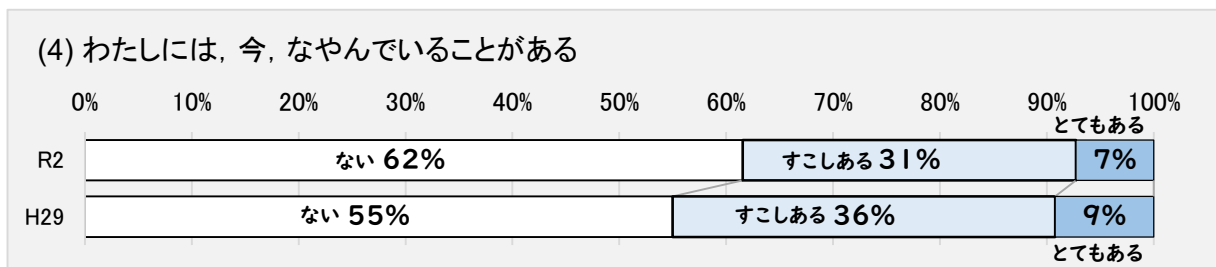
「悩み」

小学校



「その他」の自由記述では、様々な悩みについて具体的な記載があった。

中学校



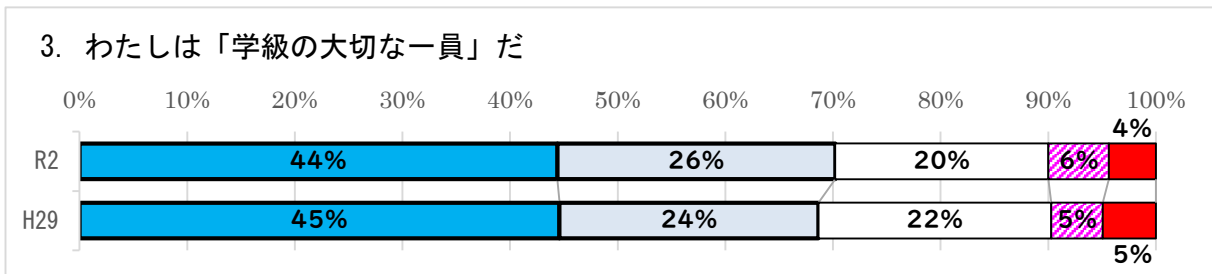
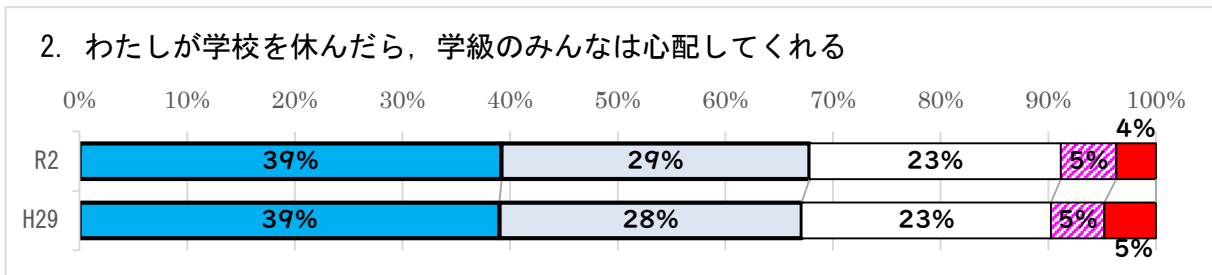
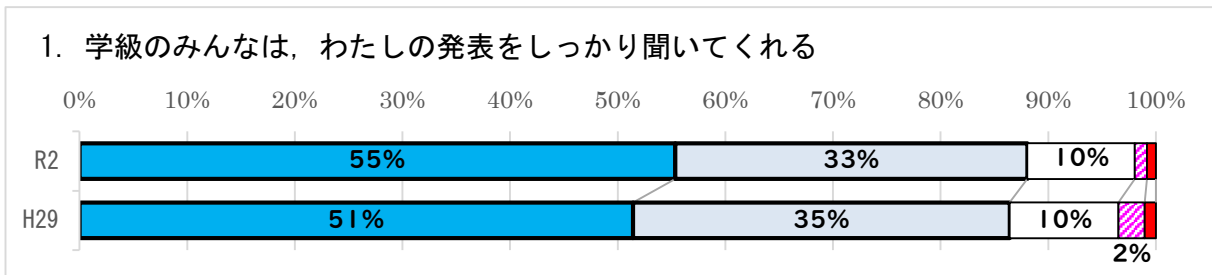
「その他」の自由記述では、様々な悩みについて具体的な記載があった。

＝考察＝

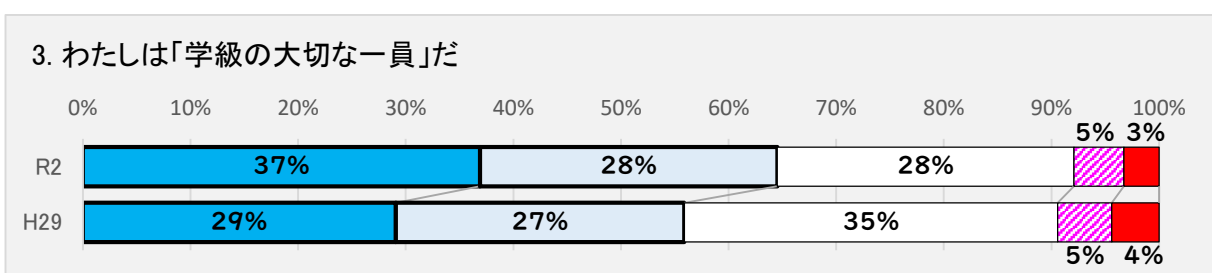
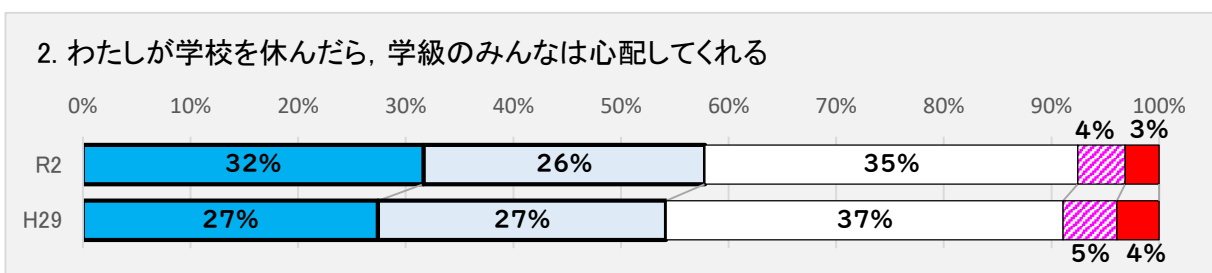
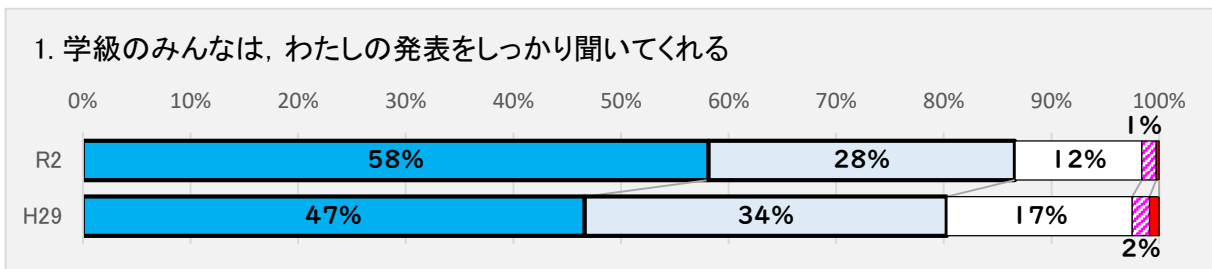
「悩み」に関する設問である。ここで注目しなければならないのは「とてもなやんでいることがある」との小学校9%、中学校7%の回答であろう。悩みの内容は、多様である。前回よりやや減少してはいるものの、自分で抱えきれない悩みを抱えている児童生徒のサインを見逃さず、必要な支援を引き続き行っていく必要がある。

A—①【友だち・学級】〔存在感〕

小学校



中学校



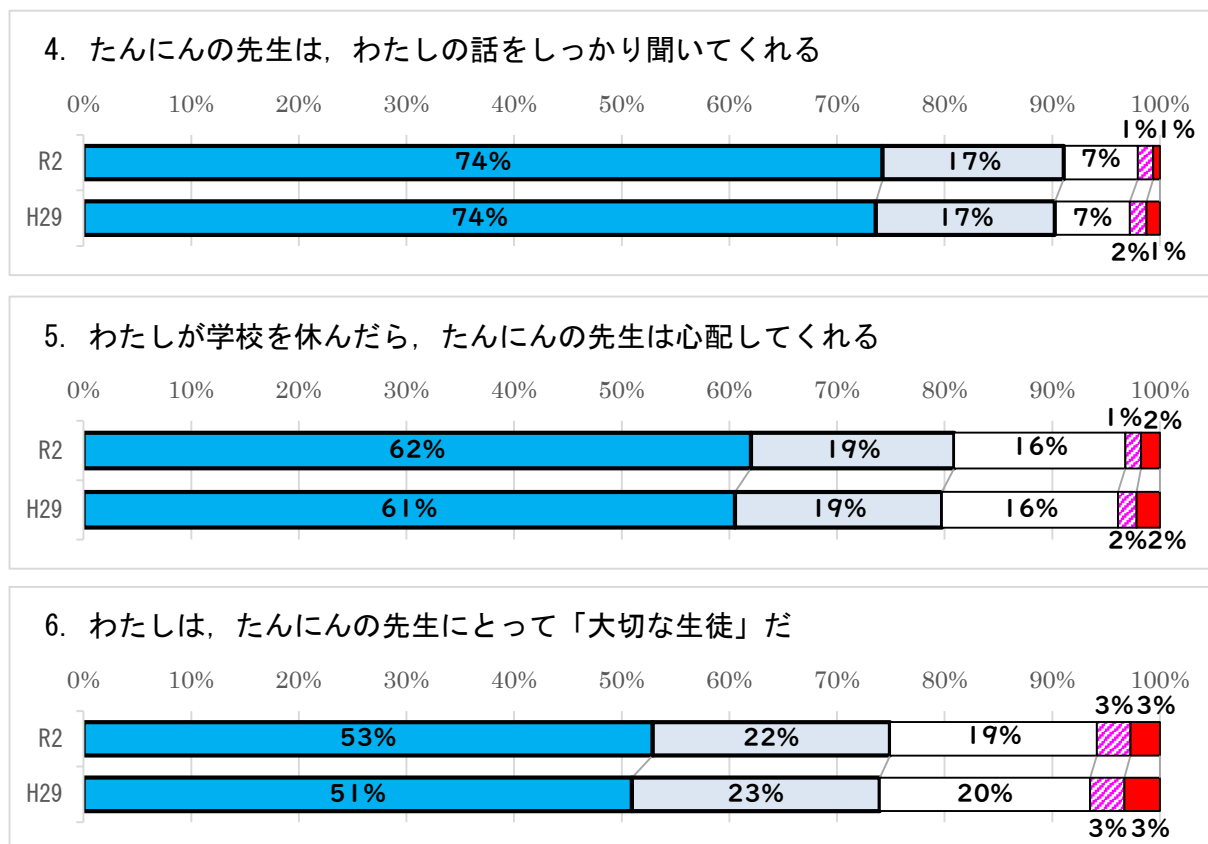
＝考察＝

「学級にとって自分が価値ある存在である」という意識についての設問である。

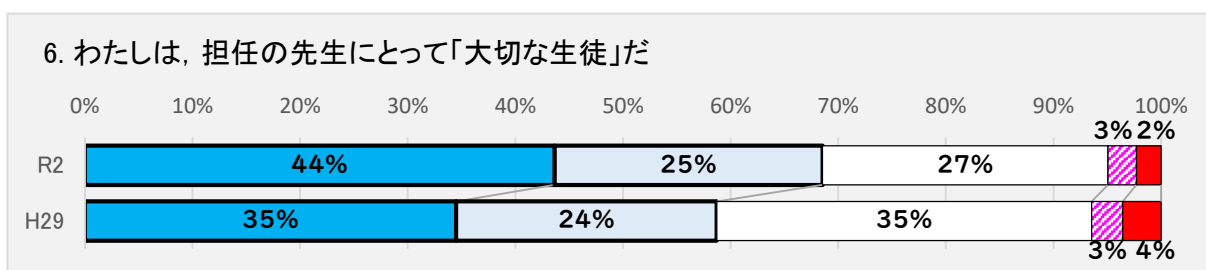
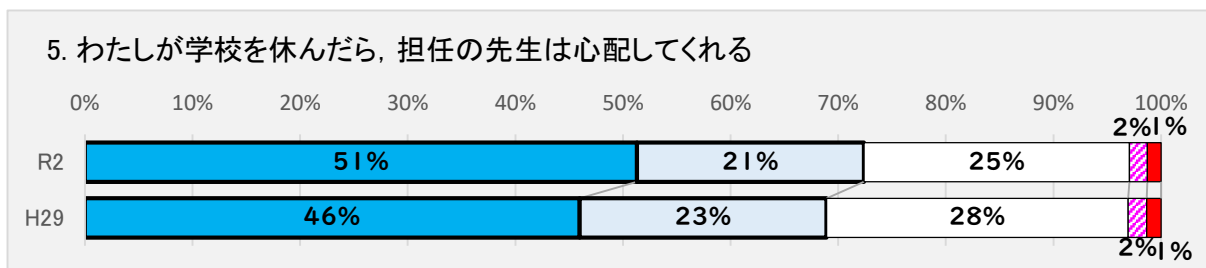
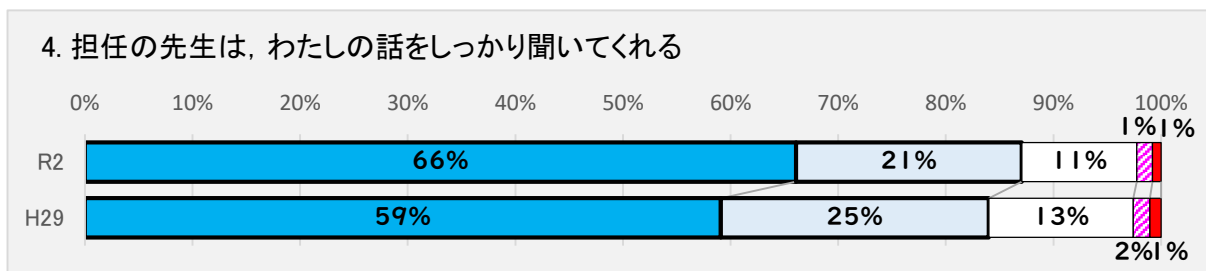
ここでも全ての設問で前回調査からの向上が見られる。「1. 学級のみんなは、わたしの発表をしっかりと聞いてくれる」は、前回調査では肯定的回答率が小学校 86%，中学校 81%と小中で5ポイントの開きが見られたが、今回調査では小学校 88%，中学校 86%に向上してその差も縮小している。また、中学校の「とてもあてはまる」の回答が9ポイント向上していることは注目に値する。授業中に互いに意見や発表を聞くことは、対話的な学習を進める上でも重要なことである。授業をはじめとする様々な場面で児童生徒が自分の考えを発表する機会が設定され、それを互いに聞き合う場が機能していなければ肯定的回答は増加しない。その意味で教員の指導の成果と捉えることができる。「2. わたしが学校を休んだら、学級のみんなは心配してくれる」は、小学校 68%，中学校 58%が肯定的回答であった。否定的回答に目を向けると小学校 9%，中学校 7%と結果が逆転する。孤立感を感じている児童生徒が小中学校共に一定数存在することを示している。また、中学校は「どちらともいえない」が35%と他の設問に比べて高い比率となっている。「3. わたしは「学級の大切な一員」だ」は小学校 70%，中学校 65%が肯定的回答であり、小学校は7割に達した。児童生徒が互いを尊重し合う融和的な学級づくりを推進することで更なる向上が期待できるだろう。

A—②【担任・先生】〔存在感〕

小学校



中学校



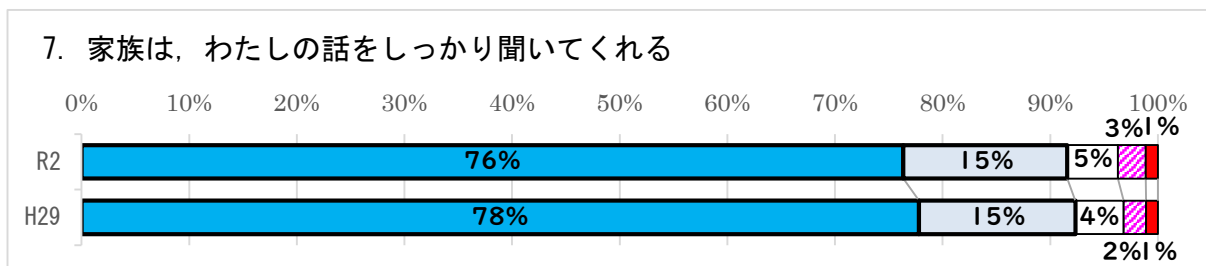
＝考察＝

「担任にとって自分は価値ある存在である」という意識についての設問である。

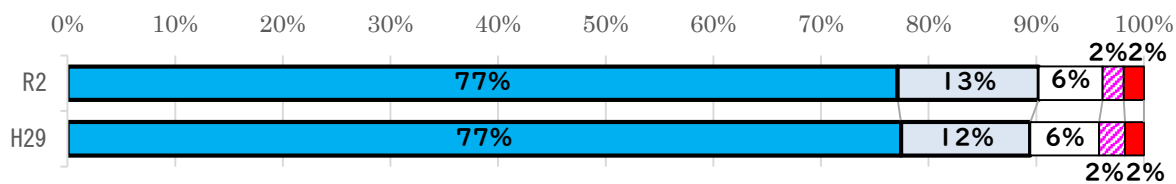
「4. 担任の先生は、わたしの話をしっかり聞いてくれる」では、小学校 91%、中学校 87% が肯定的回答であり、否定的回答は小中共に 2% である。担任が日頃から生徒の話しにとってもよく耳を傾けていることが反映している。「5. わたしが学校を休んだら、担任の先生は心配してくれる」は小学校 81%、中学校 72% が肯定的回答、「6. わたしは、担任の先生にとって「大切な生徒」だ」は小学校 75%、中学校 69% が肯定的回答であった。市全体としては、多くの児童生徒が担任から「価値ある存在」として尊重されていると感じ取っているとと言えるだろう。しかし、数%ながら否定的な児童生徒がある。自己肯定感を高めるためにも、子ども一人一人に目を配り尊重する姿勢がより一層求められる。

A—③【家族】〔存在感〕

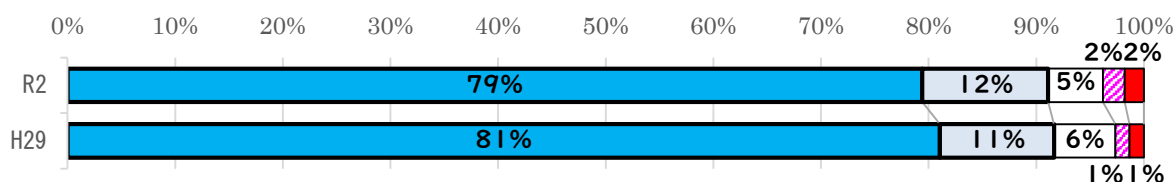
小学校



8. わたしが学校を休んだら、家族は心配してくれる

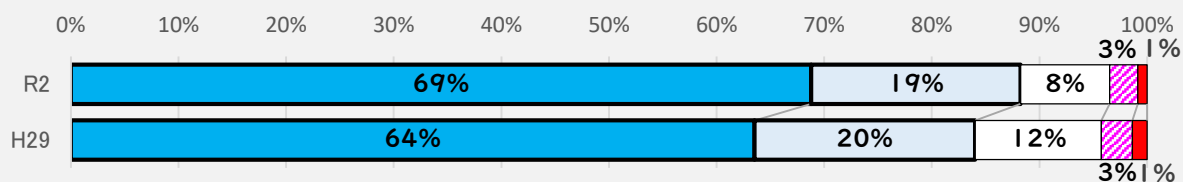


9. わたしは「家族の大切な一員」だ

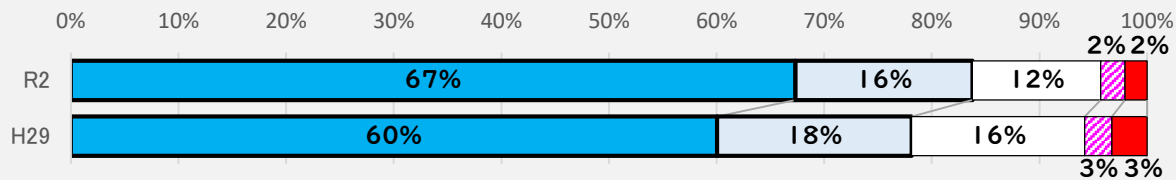


中学校

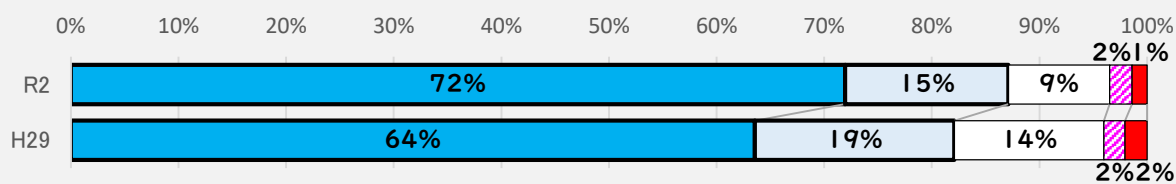
7. 家族は、わたしの話をしっかり聞いてくれる



8. わたしが学校を休んだら、家族は心配してくれる



9. わたしは「家族の大切な一員」だ



＝考察＝

「家族にとって自分が価値ある存在である」という意識に関する設問である。

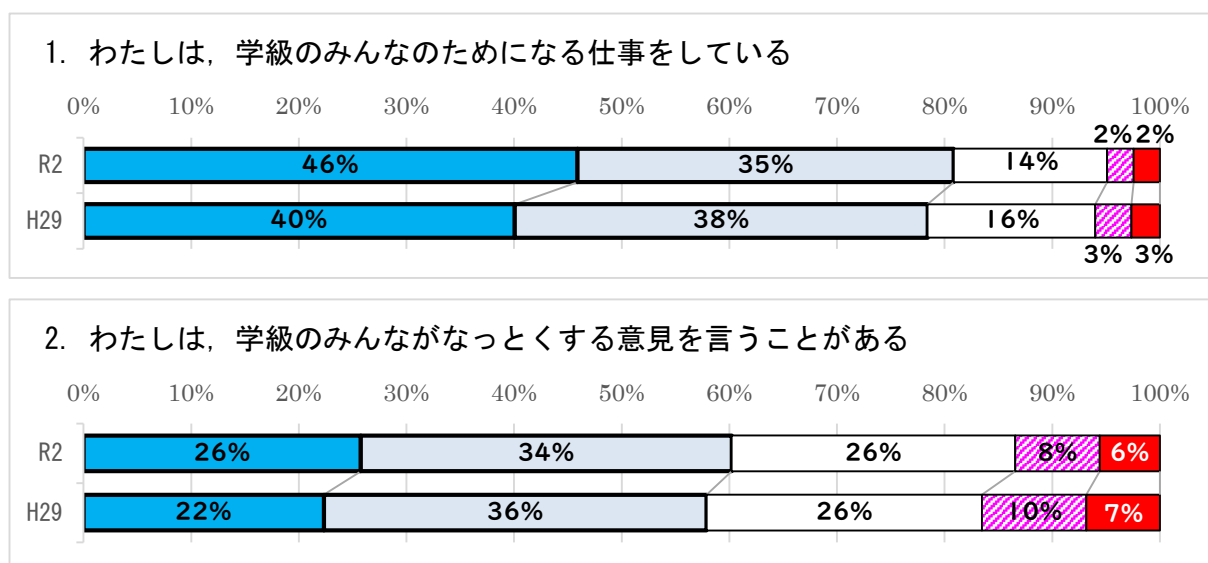
【友だち・学級】【担任・先生】と比較して肯定的回答率が高く、90%前後となっており、両親をはじめとする家族から愛情一杯に育てられ、家庭が子どもたちにとっての基盤となっていることがうかがわれる結果である。自己の存在を価値あるものと捉える最も根本となるものであり、自己有用感を高める上でも大きな意味をもつことは言うまでもない。小学校は前回に引き続き90%を超える肯定的回答率であり、中でも「とてもあてはまる」の積極的肯定が70%台後半と高くなっている。中学校は、肯定的回答率が前回調査から4～5ポイント上昇している。今回の調査では、中学校が多くの設定で前回調査から上昇しているが、その

背景として【家庭】の〔存在感〕の高まりが影響していることも推察される。それが、単年度に限ったものなのか継続的なものなのか、今後の調査を見ていく必要がありそうである。

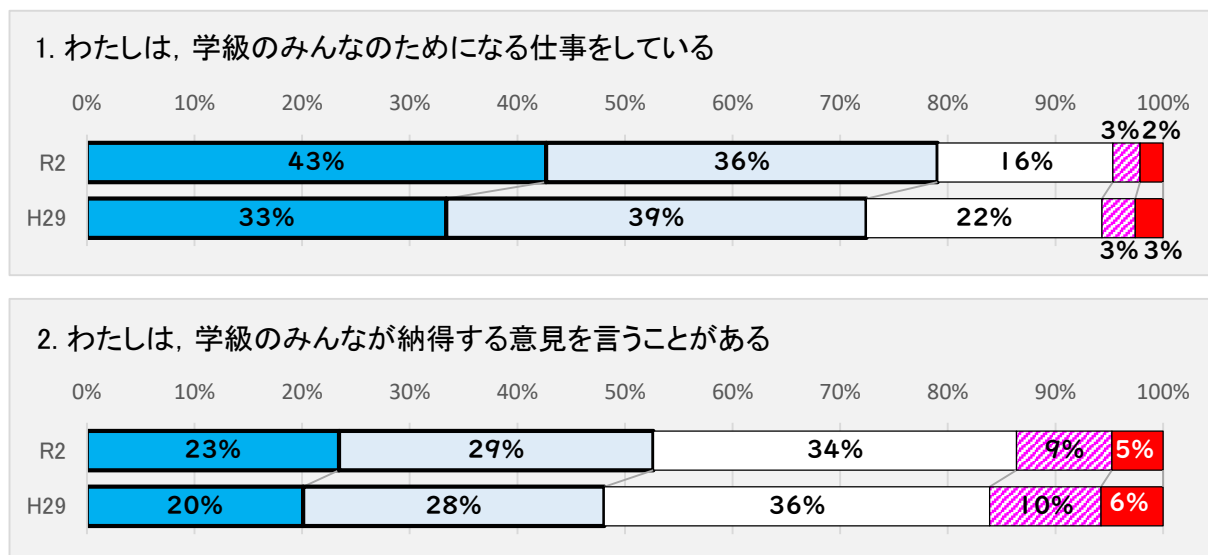
前回調査と同様に3～4%の否定的回答がある。また、この設問に関しては「どちらともいえない」という回答も気付きである。それを含めると、【家庭】の〔存在感〕に満たされないものを感じている児童生徒が1割程度いるということになる。また、新型コロナウイルス感染症拡大により経済面をはじめ深刻な影響を受ける家庭が増えていることも気付きである。児童生徒の背景に様々な状況があることに今後も十分に注意を払っていく必要があるだろう。

B—①【友だち・学級】〔貢献〕

小学校



中学校



=考察=

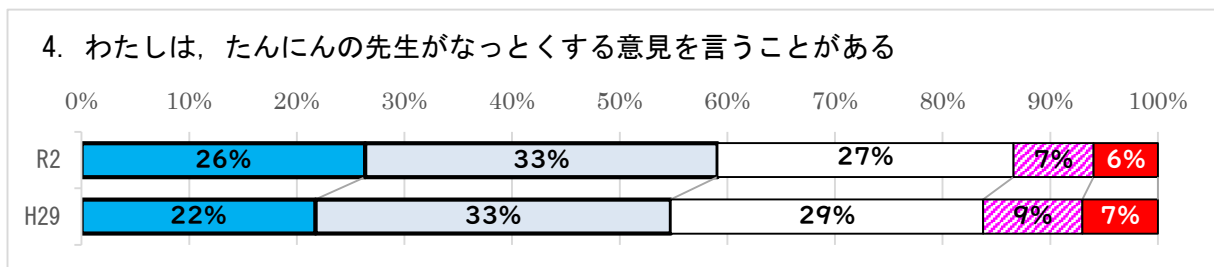
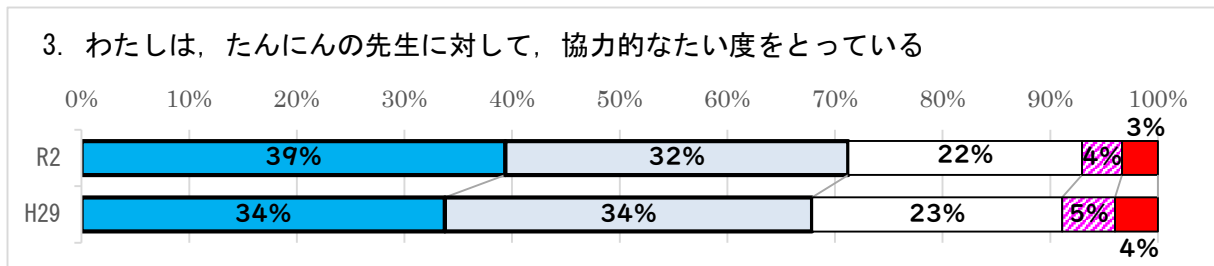
「学級に対して役に立つ行動をしているか」という意識についての設問である。

「1. わたしは、学級のみみんなのためになる仕事をしている」では、小学校81%、中学校79%が肯定的回答をしており、前回調査より上昇している。学級の組織作りや係活動等の工夫により一人一人に役割を与えることや、協力的な関係作り等、学級経営の取組の成果と捉えること

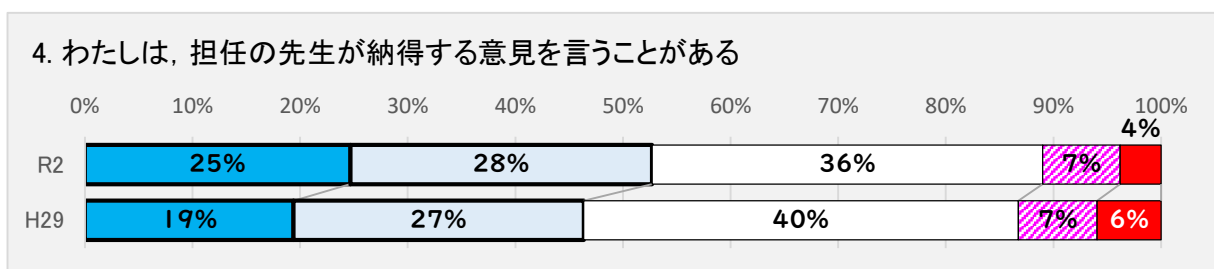
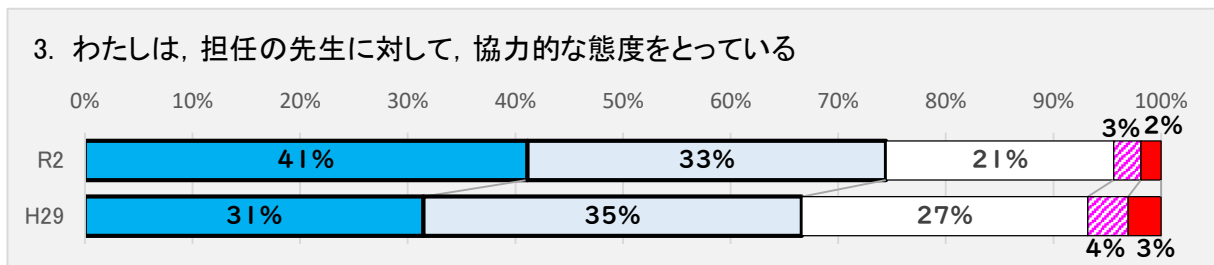
ができる。「2. わたしは、学級のみんが納得する意見を言うことがある」では、小学校 60%、中学校 52%が肯定的回答であった。この設問は、「納得する意見を言う」という文言が捉えにくいこともあってか、「どちらともいえない」が 30%前後と大きな割合となり、肯定的回答率が低くなっているものの、前回調査からは上昇している。子どもたちが互いの意見を尊重し合う学級風土づくりが引き続き求められるだろう。

B—②【担任・先生】〔貢献〕

小学校



中学校



＝考察＝

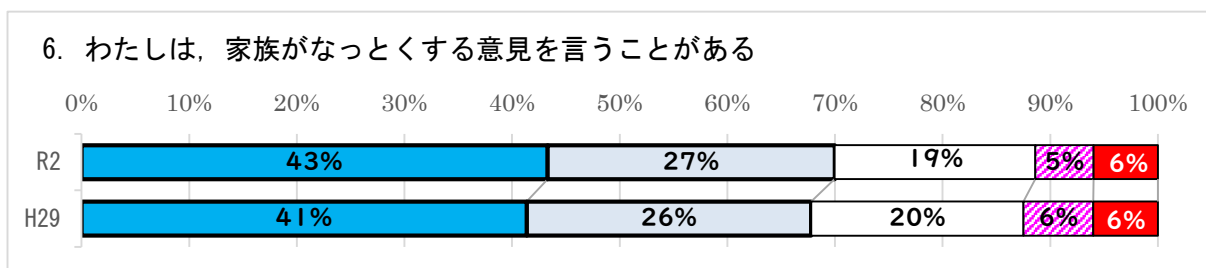
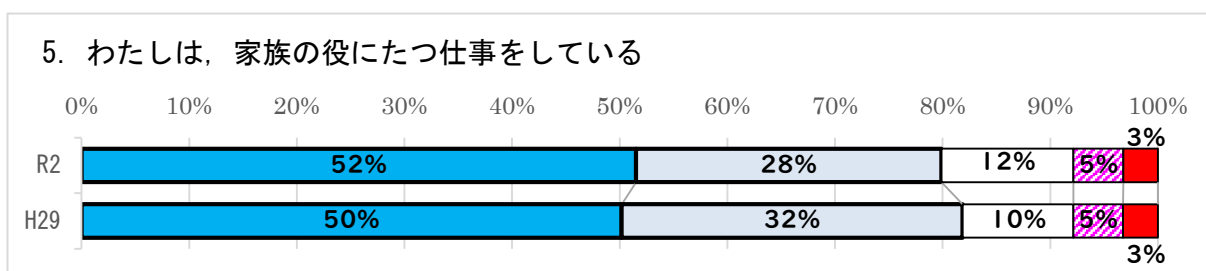
「担任に対して役に立つ行動をしているか」という意識についての設問である。

「3. わたしは、担任の先生に対して、協力的な態度をとっている」では、小学校 71%、中学校 74%が肯定的回答であり、小学校より中学校の方が若干高くなっていることが特徴的である。担任に協力しようとする子どもたちが増えていることは望ましいことである。一方で否定的回答が小学校 7%、中学校 5%と小学校が高い結果となっている。担任に対して協力的ではないと考えている児童が一定数いることを示すものであり、一部の担任が指導に困難をきた

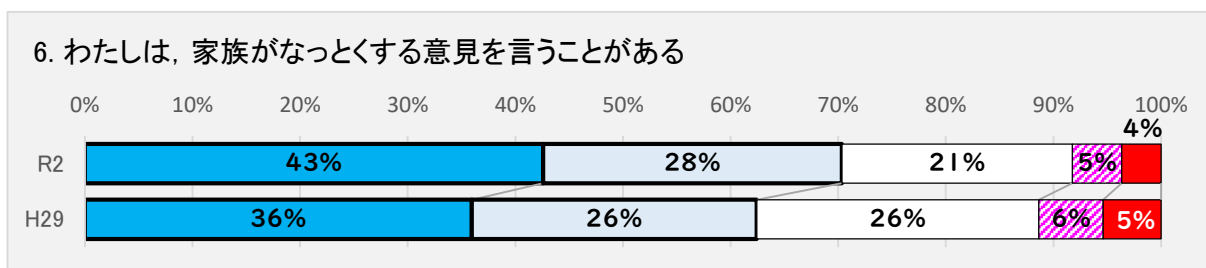
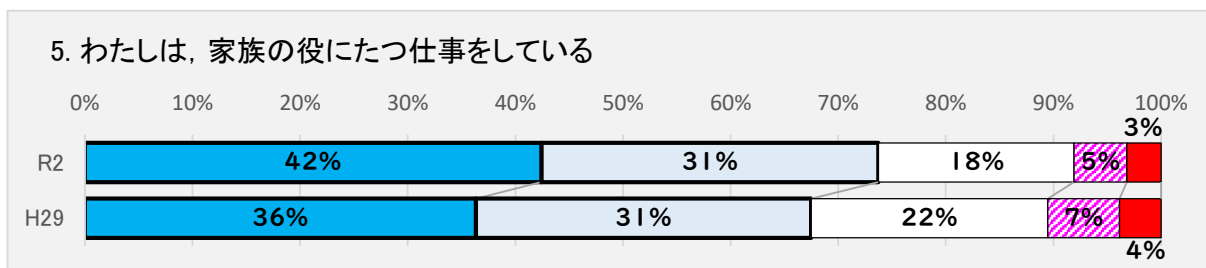
していることが危惧される。また、中学校の「担任に協力的」の中には、進路に関わって調査書いわゆる内申への影響を意識しているという側面も考えられるが、信頼からの自発的な協力を広げる努力が今後も必要である。「4. わたしは、担任の先生が納得する意見を言うことができる」は、小学校 59%、中学校 53%が肯定的回答と他の設問に比べて低いものの、前回調査より小学校で 4 ポイント、中学校で 7 ポイントそれぞれ増加している。児童生徒の声に耳を傾け、尊重する傾向が表れている。「どちらともいえない」が 3割前後と多いのは、設問の文言が具体的に捉えにくいことが影響している側面もあったものと思われる。

B—③【家族】〔貢献〕

小学校



中学校



＝考察＝

「家族の役に立つ行動をしているか」という意識についての設問である。

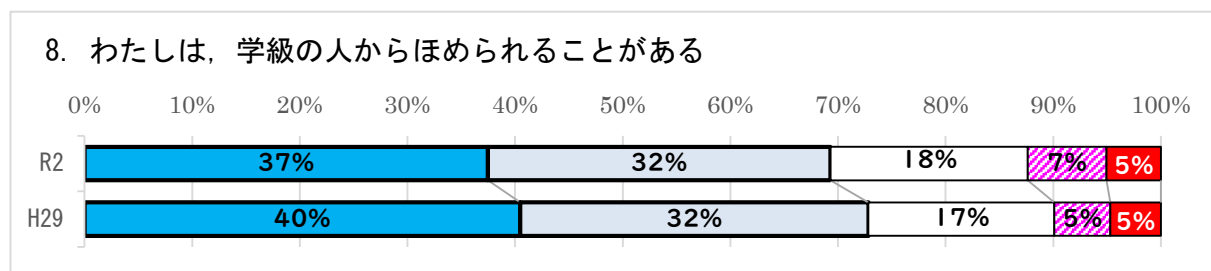
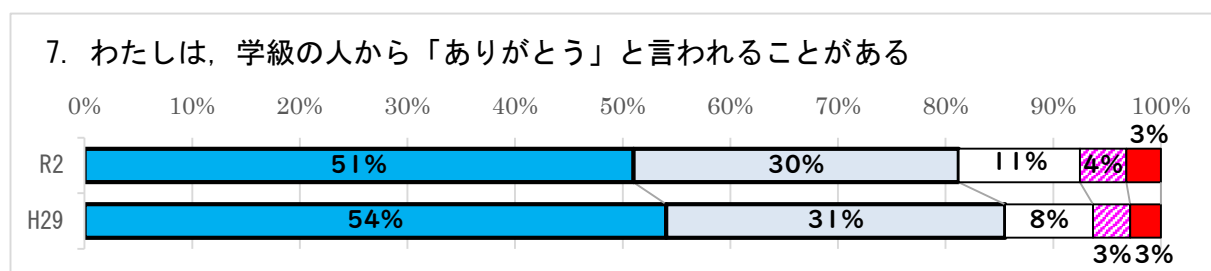
「5. わたしは、家族の役にたつ仕事をしている」は小学校 80%、中学校 73%が肯定的回答である。概ね高い結果であり、子どもたちが家庭で一定の役割を担い、手伝い等をしている様子がうかがわれる。家庭でのしつけの成果の表れと思われる。前回調査の小学校 5 年生が 3 年

後の今回調査では中学校2年生となる。そのことを念頭に否定的回答率に目を向けると、「あまりあてはまらない」5%、「まったくあてはまらない」3%は双方の結果が全く同じとなっている。家庭内の状況は小学校5年生から中学校2年生になっても変わりにくいということを示しているのではないか。

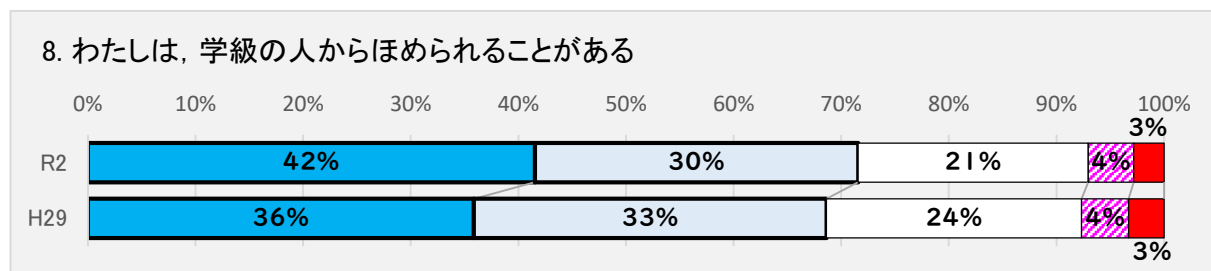
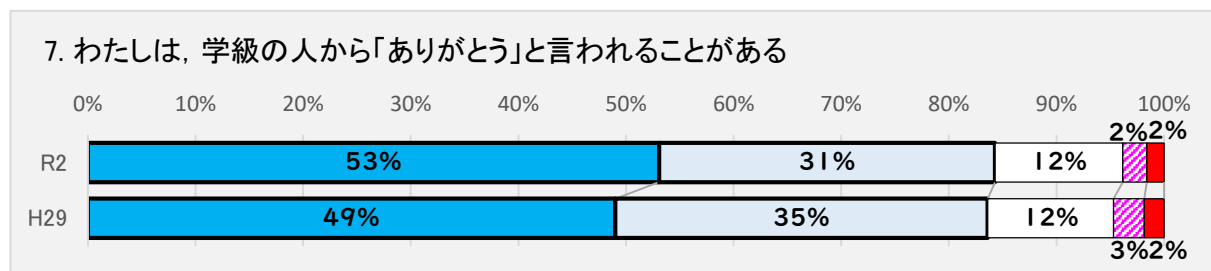
「6. わたしは、家族が納得する意見を言うことがある」では、肯定的回答が小学校70% 中学校71%となっている。子どもの意見に耳を傾け認めようとする家族の姿が浮かんでくる結果である。【担任・先生】の場合と同様に「納得する意見」のイメージが掴みにくい設問であるものの、【担任・先生】と比べて小学校で11%、中学校で17%高い結果となっており、子どもたちの話しに家族が耳を傾け、尊重している様子が見えてくる。

C—①【友だち・学級】〔承認〕

小学校



中学校



= 考察 =

「学級集団から自分の行動や存在を認められているか」という意識についての設問である。「7. わたしは、学級の人から「ありがとう」と言われることがある」では、肯定的回答が小

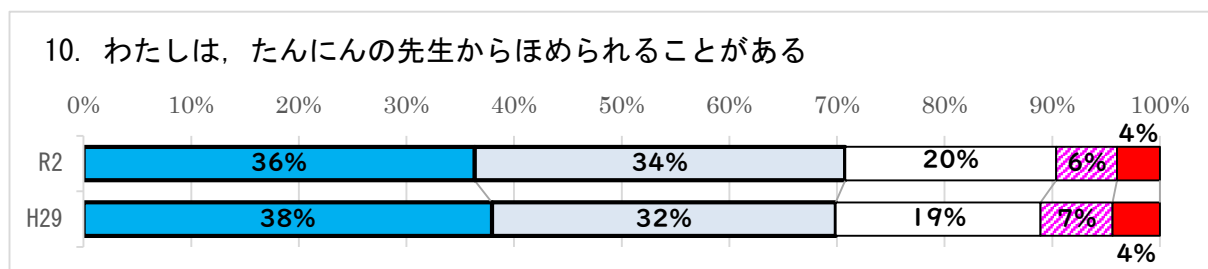
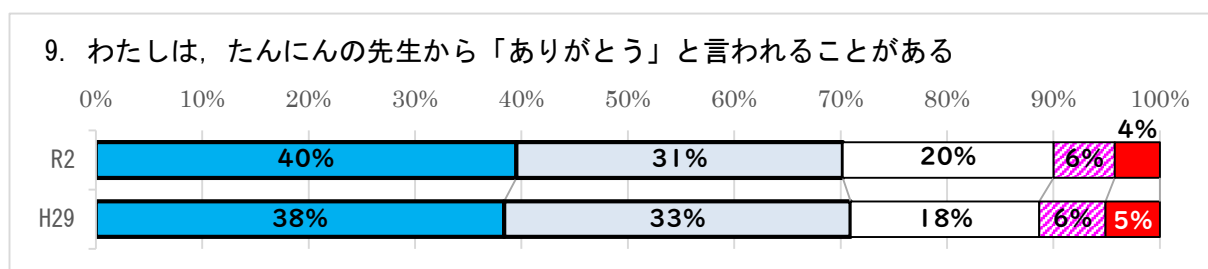
学校 81%，中学校 84%である。小学校が前回調査より 4 ポイント低下していることが気がかりである。中学校はほぼ変わらず，前回調査の小学校 5 年生の結果から 1 ポイント低下したのみである。

「8. わたしは，学級の人からほめられることがある」は，肯定的回答が小学校 69%，中学校 72%であり，こちらも小学校が前回調査より 3 ポイント低下し，中学校は 3 ポイント上昇している。

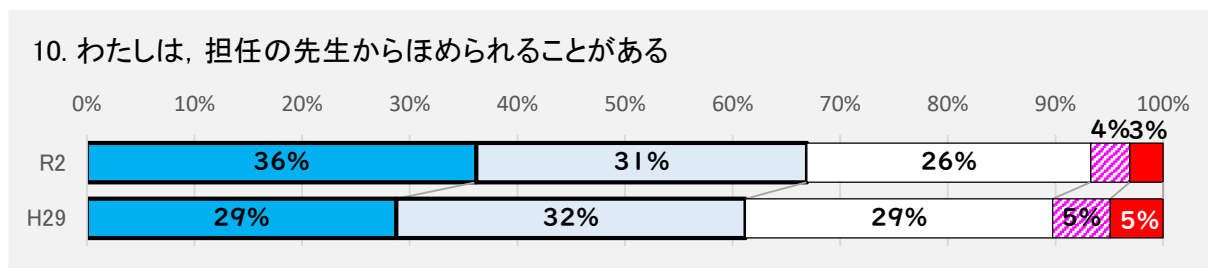
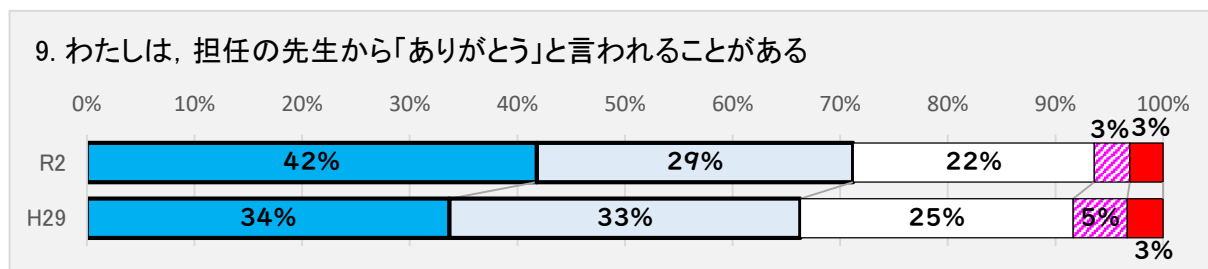
子どもたち同士の関わり方は，インターネットやスマートフォンの利用拡大と共に年々変化している。学校でも子どもたちが相互に認め合い尊重し合う関係づくりを推進する取組が引き続き必要となるだろう。

C—②【担任・先生】〔承認〕

小学校



中学校



= 考察 =

「担任から自分の行動や存在を認められているか」という意識についての設問である。

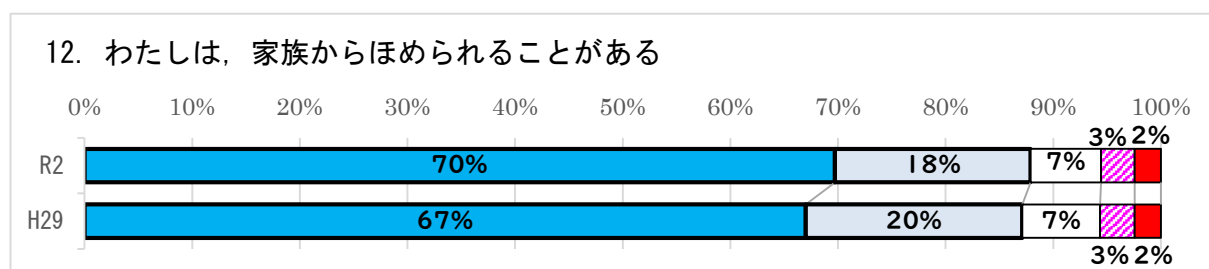
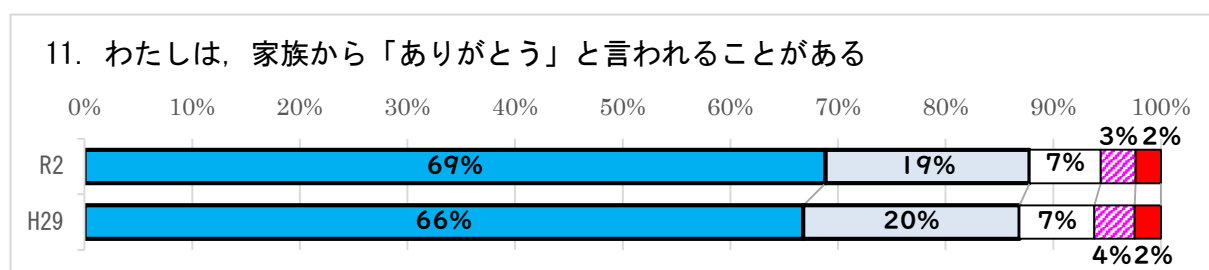
「9. わたしは，担任の先生から「ありがとう」と言われることがある」では，小学校，中学

校共に71%が肯定的回答である。否定的回答は小学校10%、中学校6%であり、小学校では1割が担任から「ありがとう」とあまり言われたい、まったく言われたいと回答している。「10. わたしは、担任の先生からほめられることがある」は、小学校70%、中学校67%が肯定的回答であり、否定的回答は小学校11%、中学校7%となっている。小学校では1割を超える児童が担任の先生からあまりほめられない、まったくほめられないと感じている。

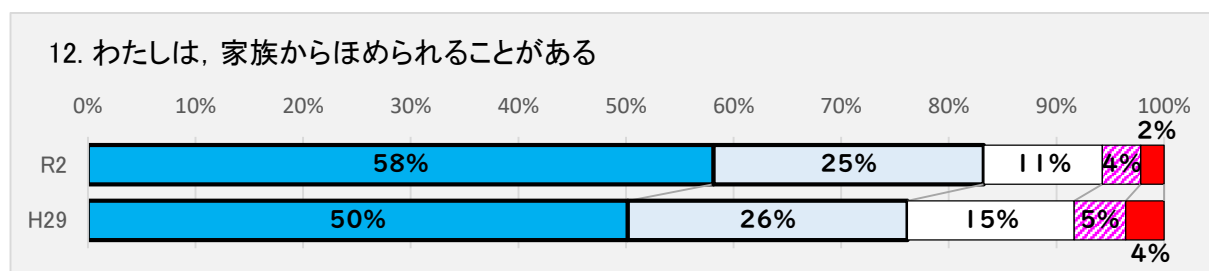
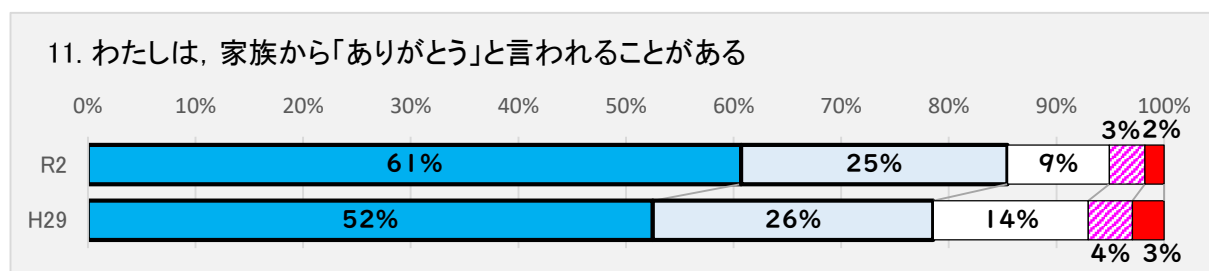
学級では、ほめられる子は常にほめられ、叱られる子は常に叱られることになりがちで、叱られ役となった子どもは自分が認められていないと感じることになる。それを解決するためには、その子なりの頑張りや、成長を認めて評価する言葉がけが求められる。特に家庭環境の差や、個々の発達の差、軽度発達障がい等の様々な事情を抱えた子どもと一緒に生活する公立学校においては、簡単なことではないが、必要性は高まっていると考えられる。個に応じる目をもつことが尚一層求められるであろう。

C—③【家族】〔承認〕

小学校



中学校



＝考察＝

「家族から自分の行動や存在を認められているか」という意識についての設問である。

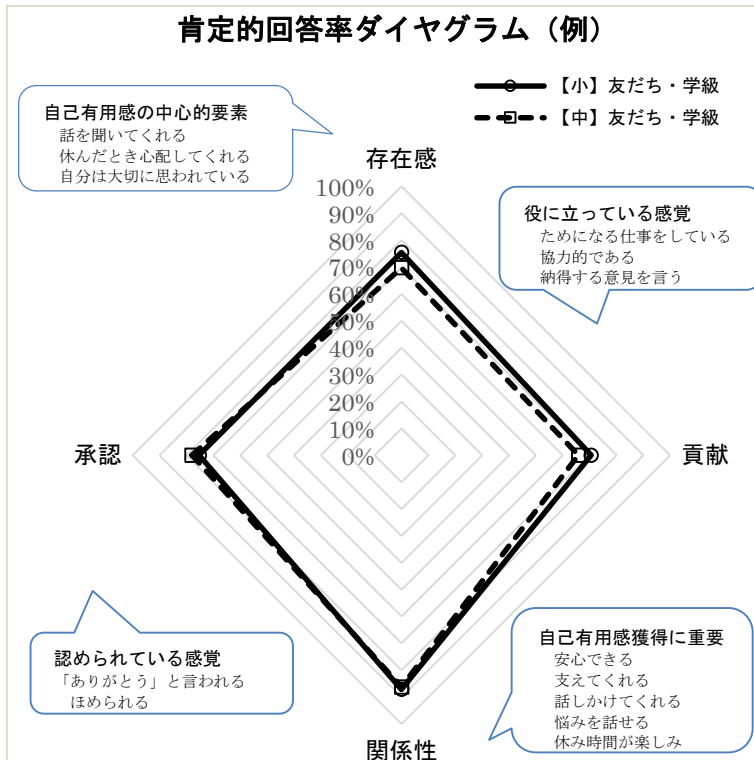
「11. わたしは、家族から「ありがとう」と言われることがある」では、小学校 88%、中学校 86%が肯定的回答と高い回答率であり、同様に「12. わたしは、家族からほめられることがある」は、小学校 88%、中学校 83%が肯定的回答と高い回答率である。このことから、多くの子どもたちが家族から「認められている」「承認されている」という意識をもって暮らしていることがうかがわれる。また、前回調査より、小学校で1～2ポイント、中学校で5～8ポイント上昇していることから、様々な社会情勢の中にあつて、家族からの承認は維持、向上していると捉えることができ、大変心強い結果である。

一方で、否定的回答が小学校 5%、中学校 5～6%見られる。家族から「ありがとう」と言われたり、ほめられたりすることがあまりない児童生徒が比率は少ないにしても、人数にすると市内で小中共に 130 人程度いることになる。中には「少々のことではほめない」という教育方針の家庭もあるかもしれないが、家庭への子育てに関する啓発やネグレクト等の虐待への注意が引き続き必要と思われる。

Ⅲ 分析と考察

アンケートの結果から、盛岡市内小学校5年生、中学校2年生の自己有用感の要素等について、【友だち・学級】【担任・先生】【家族】の場面ごとに前回調査と比較しながら傾向を探ってきたが、その全体像を把握するためにダイヤグラムを作成した。〔存在感〕〔貢献〕〔承認〕〔関係性〕の4つの要素の状況を俯瞰し、自己有用感の全体像を視覚的に把握することができる。そのダイヤグラムを見ながら、分析と考察を進めたい。

回答率ダイヤグラムの見方

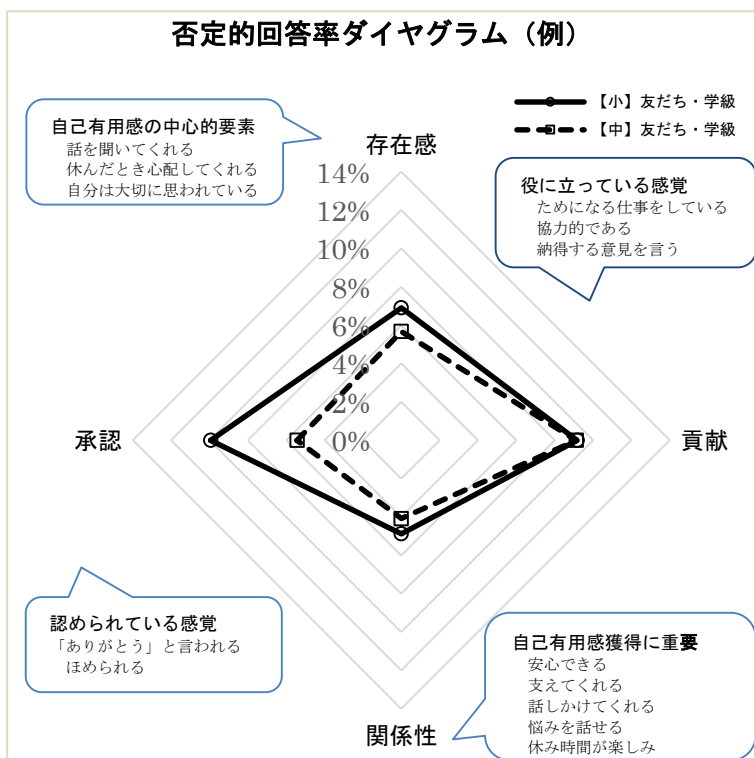


《肯定的回答率ダイヤグラム》

4つの要素に関する各設問に対し「とてもあてはまる」「少しあてはまる」と肯定的な回答の比率を示す。

軸は、中心を0% 外側を最大100%と設定している。

四角形が外側程良好であり、自己有用感が高いことを示す。



《否定的回答率ダイヤグラム》

4つの要素に関する各設問に対し「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」と否定的な回答の比率を示す。

軸は、中心を0%、外側を最大14%と設定している。(少ない数値の差異に着目する必要性から、拡大して表示)

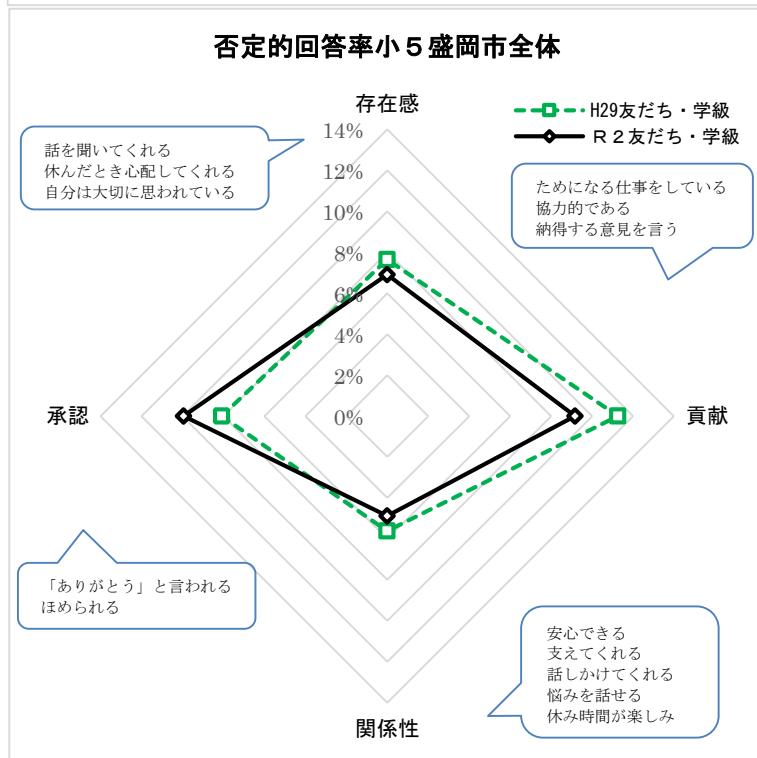
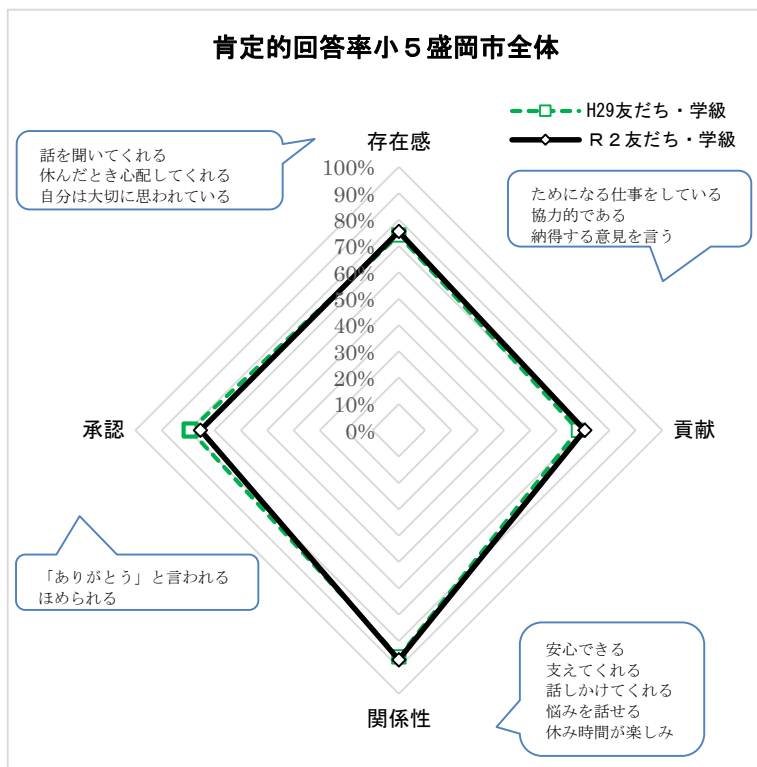
- ①四角形が小さい程良好（否定的回答が少ない）となる。
- ②拡大表示されている。
の2点に留意が必要である。

1-① 小学校【友だち・学級】

肯定的/否定的回答率 前回比較

【友だち・学級】	肯定的回答率 R2/H29		否定的回答率 R2/H29	
〔存在感〕	75% (+1)	74%	7% (-1)	8%
〔貢献〕	71% (+3) ↑	68%	9% (-2)	11%
〔承認〕	75% (-4) ↓	79%	10% (+2)	8%
〔関係性〕	87% (+1)	86%	5% (-1)	6%

カッコ内はH29との比較増減 矢印↑ ↓は3ポイント以上の増減



＝考察＝

小学校5年生の【友だち・学級】についてのグラフである。肯定的回答率の前回比較では、〔貢献〕が3ポイント上昇し、〔承認〕が4ポイント減少しているものの、全体としては大きな変化は見られなかった。特に関係性は87%と9割に近い数値を示しており良好な学級の友だちとの関係の中で、安心して学校生活を送っている様子うかがわれる。

否定的回答率に目を向けると、承認が2ポイント増加し10%となっており約1割の児童が友だちから「ありがとう」と言われたり、ほめられることがない（どちらかというとな）と回答している。

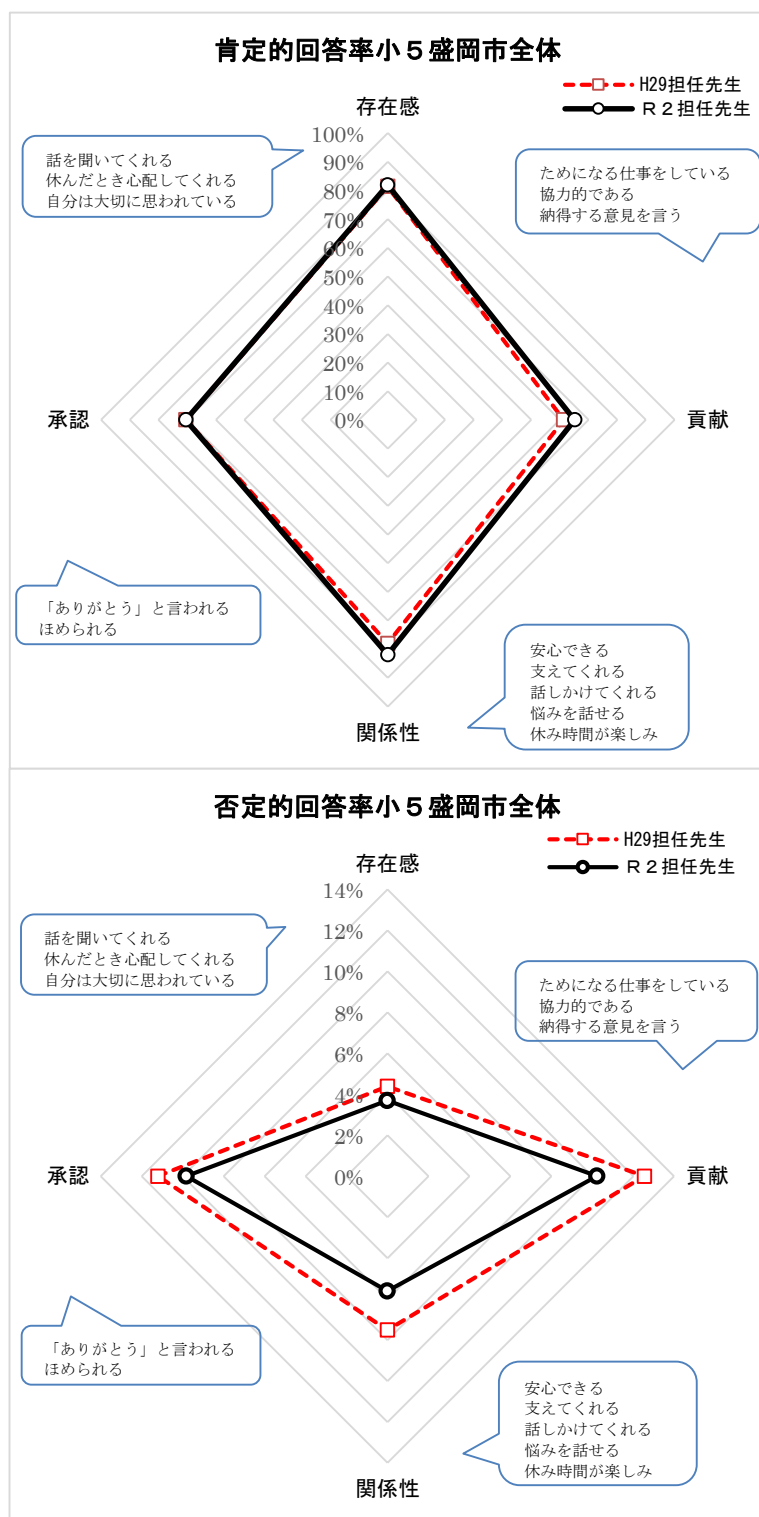
〔関係性〕〔貢献〕〔存在感〕の要素については若干減少しており、否定的回答率は全体としては縮小傾向がうかがわれ、望ましい変化と言える。学級単位では数名の児童数となるが、互いの存在を尊重し合える、受容的な人間関係の構築に向けた指導が引き続き求められる。

1-② 小学校【担任・先生】

肯定的/否定的回答率 前回比較

【担任・先生】	肯定的回答率 R2/H29		否定的回答率 R2/H29	
〔存在感〕	82% (+1)	81%	4% (±0)	4%
〔貢献〕	65% (+4) ↑	61%	10% (-3) ↓	13%
〔承認〕	70% (±0)	70%	10% (-1)	11%
〔関係性〕	82% (+4) ↑	78%	6% (-2)	8%

カッコ内はH29との比較増減 矢印↑ ↓は3ポイント以上の増減



＝考察＝

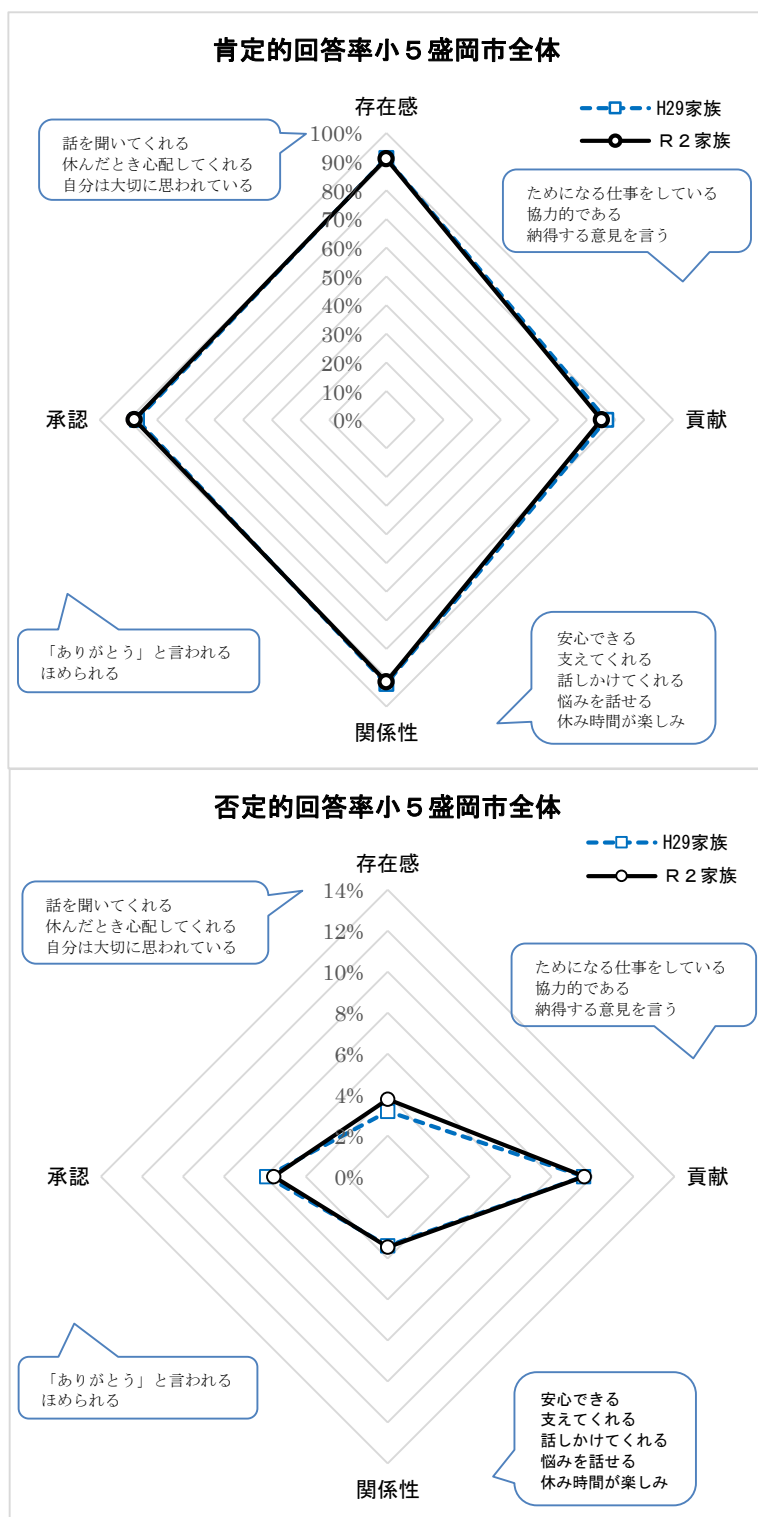
【担任・先生】の肯定的回答率は、〔貢献〕と〔関係性〕が4ポイント、〔存在感〕が1ポイント増加し、〔承認〕は増減がなく、前回調査と同等、或はわずかな改善が見られる。一方、否定的回答率は、〔貢献〕が3ポイント減少する等、全ての要素で減少している。先生方が一人一人の子どもに目を配り、心を通わせながら対応していることが表れている。新型コロナウイルス感染症防止のため、学校の教育活動が大きく制限される中において、先生方が安心安全を最優先にしなが、より良い教育活動を進めようとしていることが子どもたちに伝わっていることを示す結果とも言える。ただ、数値で比較すると、肯定的回答率の〔承認〕と〔貢献〕が、他の要素と比較して10ポイント以上低い結果となっている。設問の設定の仕方にもよるが、「もっとほめてほしい」「もっとありがとうと言われたい」「もっと役に立ちたい」という子どもたちの気持ちの表れと捉えることもできる。個々の発達段階に応じながら、自己肯定感を高める取組が引き続き求められる。

1-③ 小学校【家族】

肯定的/否定的回答率 前回比較

【家族】	肯定的回答率 R2/H29		否定的回答率 R2/H29	
〔存在感〕	91% (±0)	91%	4% (+1)	3%
〔貢献〕	75% (-2)	77%	10% (±0)	10%
〔承認〕	88% (-1)	87%	6% (±0)	6%
〔関係性〕	91% (-1)	92%	3% (±0)	3%

カッコ内はH29との比較増減 矢印↑ ↓は3ポイント以上の増減



＝考察＝

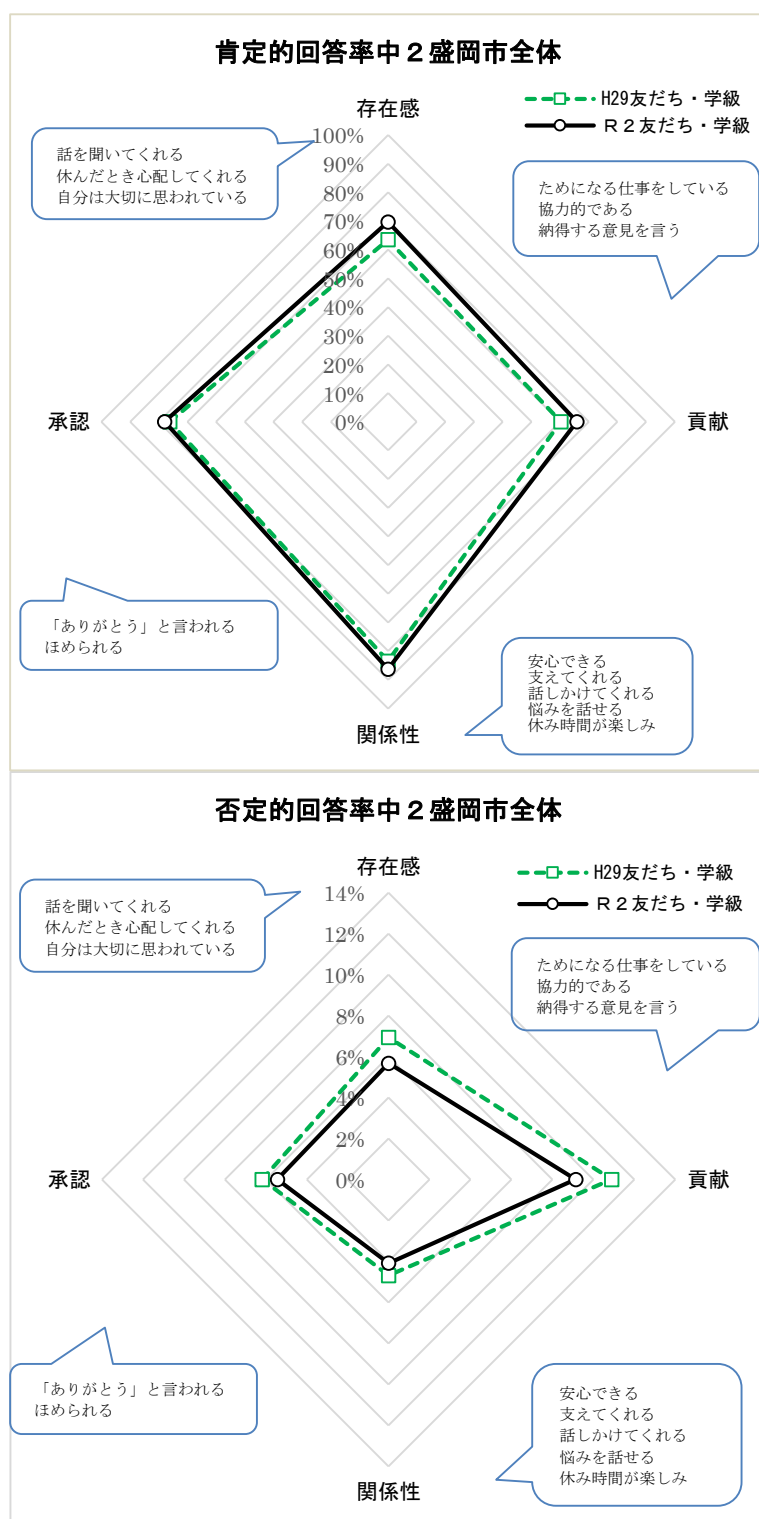
【家族】については、前回調査とほぼ変わらない結果となっている。【家族】の〔関係性〕（安心する、支えてくれる、悩みを話せる）と〔存在感〕（話を聞いてくれる、心配してくれる、大切に思われている）の肯定的回答率は90%前後の高い比率となっており、多くの子どもたちが家族から厚い愛情を受けていることがうかがえる。一方で、否定的回答率では、〔貢献〕が10ポイントと約1割の児童が「(どちらかという)ためになっ ていない」「(どちらかという)協力的ではない」と考えており、家庭内での自己有用感もてない状況が見られる。役割を与え、それを価値づける家族内での関わり方について、保護者に啓発を行っていくことが引き続き必要と思われる。しかし、経済格差の拡大や児童虐待の増加等の昨今の社会情勢を鑑みると、3年前の前回調査とほぼ同じか、わずかな改善が見られるという今回の結果は心強い結果である。

2-① 中学校【友だち・学級】

肯定的/否定的回答率 前回比較

【友だち・学級】	肯定的回答率 R2/H29		否定的回答率 R2/H29	
〔存在感〕	70% (+7) ↑	63%	6%	6%
〔貢献〕	66% (+6) ↑	60%	9%	9%
〔承認〕	78% (+2)	76%	5%	5%
〔関係性〕	86% (+2)	84%	4%	4%

カッコ内は H29 との比較増減 矢印↑ ↓は 3ポイント以上の増減



＝考察＝

【友だち・学級】は、〔関係性〕〔存在感〕〔貢献〕の全ての要素で前回より肯定的回答率は増加、否定的回答率は減少している。

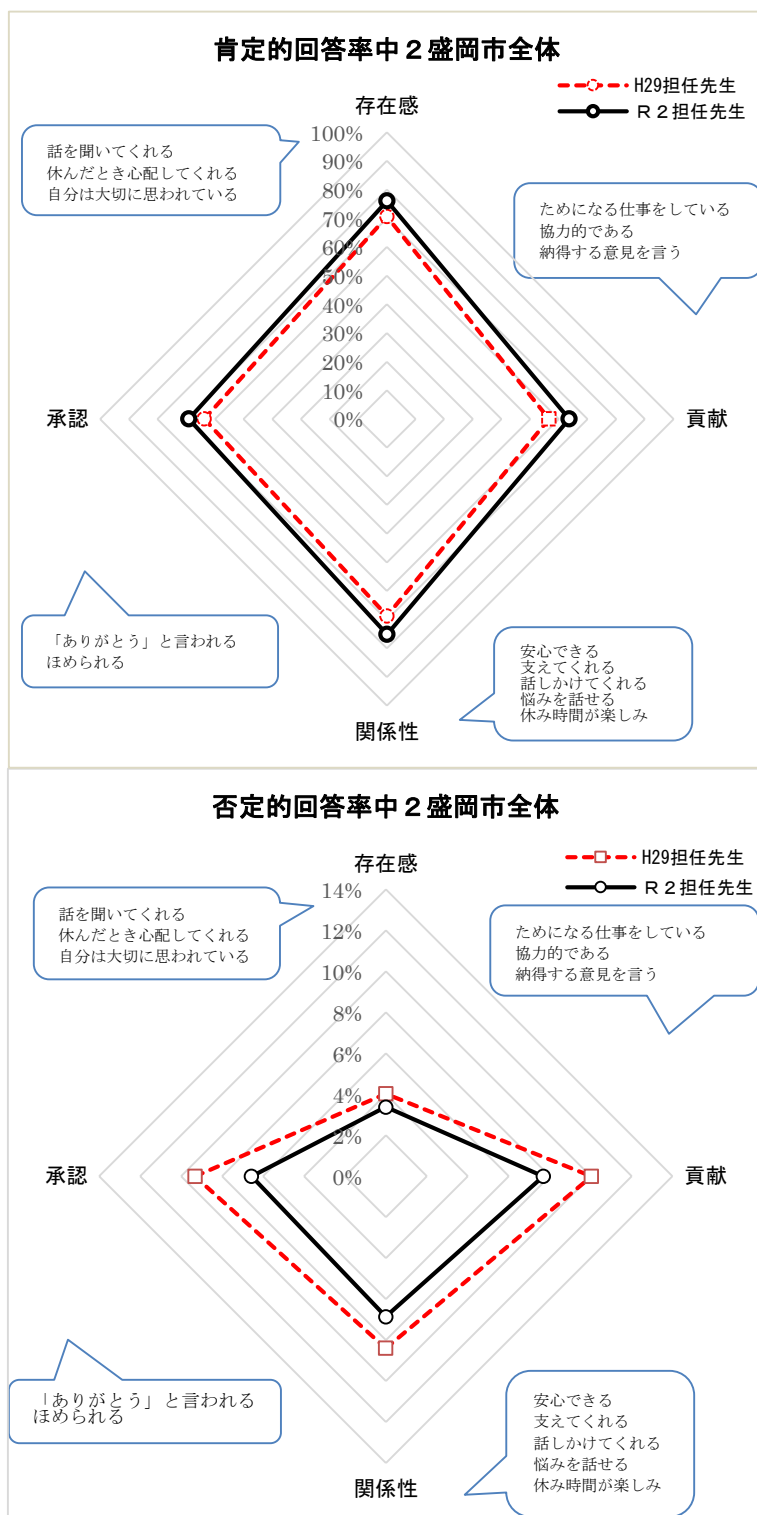
【友だち・学級】での自己有用感は全体としては高まっていると捉えることができる。要素の数値で比較すると、肯定的回答率の〔関係性〕86%、〔承認〕78%に対して〔貢献〕が66%、〔存在感〕が70%となっている。「もっと役に立ちたい」「協力したい」「ありがとうと言われたい」「ほめられたい」という気持ちの表れと捉えることができる。温かく受容的な雰囲気醸成すると共に、諸活動の意義を明確に意識させ、一人一人が自分の役割を責任をもって果たし、互いに声を掛け合うような学級経営が引き続き求められるだろう。

2-② 中学校【担任・先生】

肯定的/否定的回答率 前回比較

【担任・先生】	肯定的回答率 R2/H29	否定的回答率 R2/H29
〔存在感〕	76% (+5) ↑	3% (-1)
〔貢献〕	64% (+8) ↑	8% (-2)
〔承認〕	70% (+5) ↑	7% (-2)
〔関係性〕	75% (+6) ↑	7% (-1)

カッコ内は H29 との比較増減 矢印↑ ↓は 3ポイント以上の増減



＝考察＝

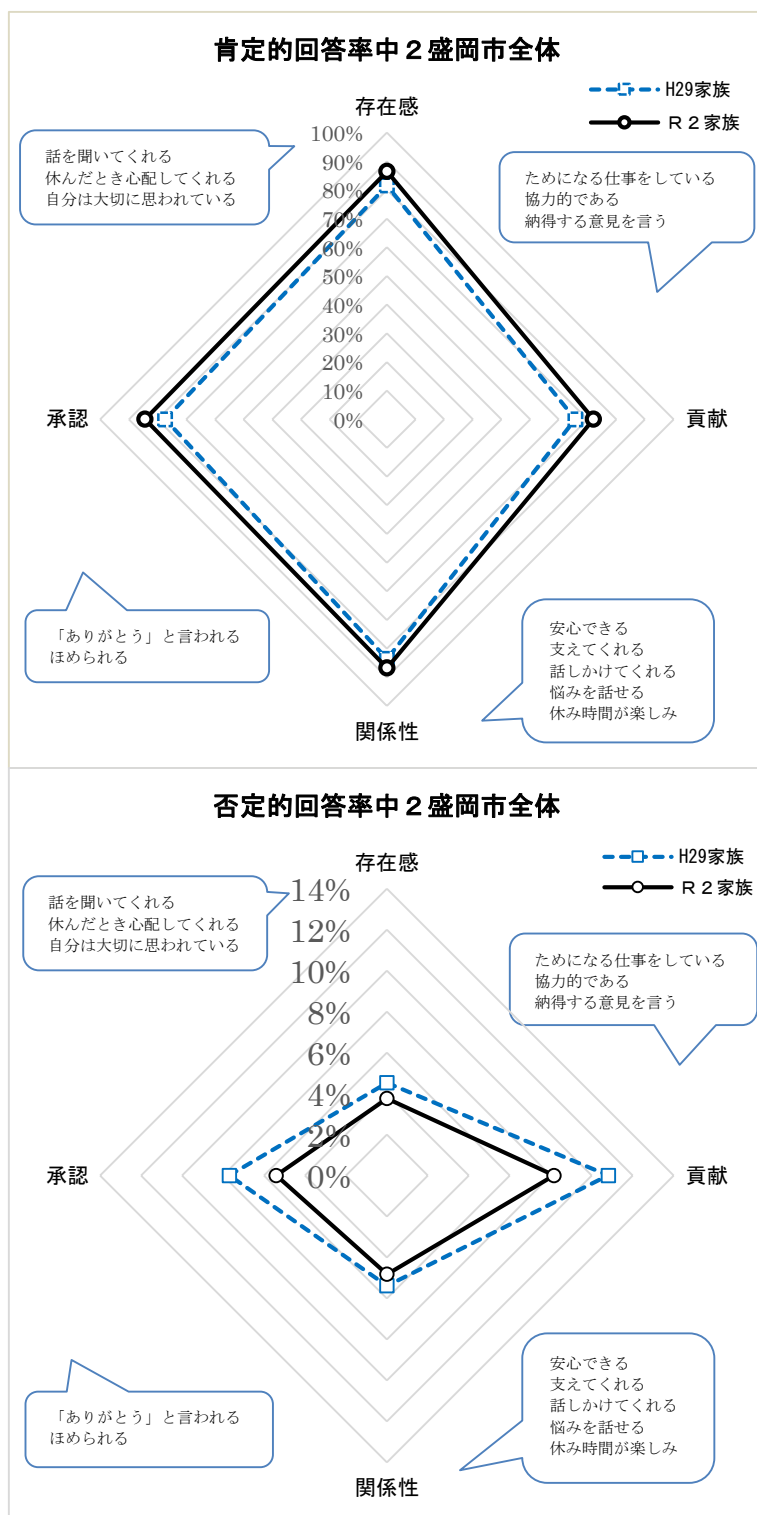
【担任・先生】は、全ての項目、〔関係性〕〔存在感〕〔貢献〕〔承認〕の全ての要素の肯定的回答率が 5 ポイント以上増加し、否定的回答率は 1～2 ポイントの減少がみられ、全般的に良好な変化が認められる。総体的に自己有用感が高まっていると捉えることができる。新型コロナウイルス感染症防止のため、学校の教育活動が大きく制限される中であって、先生方が安心安全を最優先にしながら、子どもたちのために取り組んでいることが伝わっている結果とも捉えられる。一方で、「ほめられる」「ありがとうと言われる」等の〔承認〕や〔貢献〕の肯定的回答率は 70%前後と数値としては他の要素と比べて低くなっている。設問が捉えにくいということもあったと思われるが、「もっとほめてほしい」という気持ちの表れと捉えることもできる。それぞれの成長の度合いに合わせて、認めたり励ましたりしていくことで、自己有用感が一層高まることが期待できる。また、否定的回答が多い生徒が、前回調査より減少している。一人一人に目を配り、丁寧な対応を進めてきた成果でもあろう。

2-③ 中学校【家族】

肯定的/否定的回答率 前回比較

【家族】	肯定的回答率 R2/H29		否定的回答率 R2/H29	
〔存在感〕	86% (+4) ↑	86%	4% (-1)	4%
〔貢献〕	72% (+6) ↑	72%	8% (-3) ↓	8%
〔承認〕	88% (+7) ↑	84%	5% (-3) ↓	5%
〔関係性〕	91% (+3) ↑	87%	5% (±0)	5%

カッコ内は H29 との比較増減 矢印↑ ↓は 3ポイント以上の増減



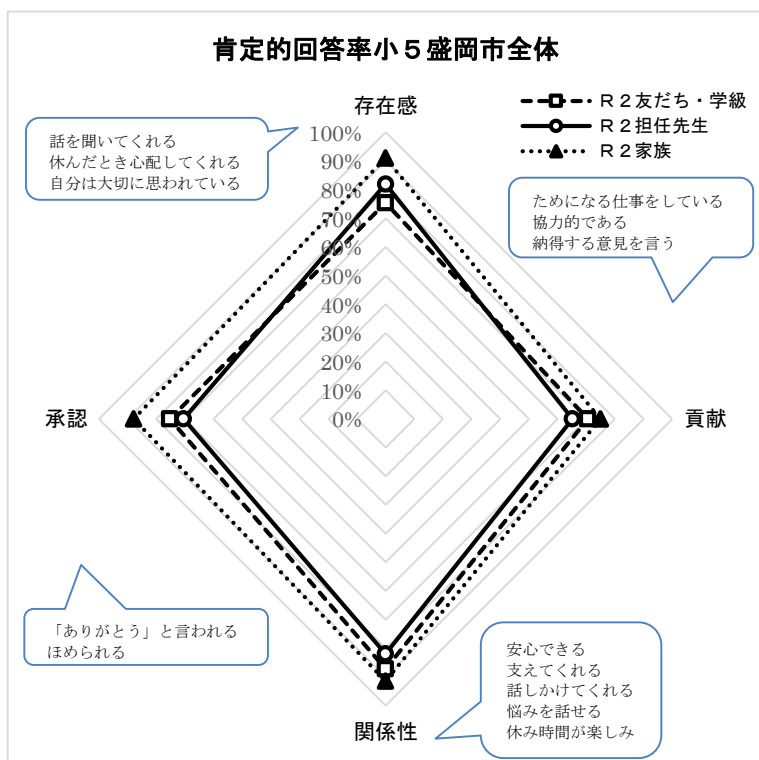
＝考察＝

【家族】も〔関係性〕〔存在感〕〔貢献〕〔承認〕の全ての要素で肯定的回答率が前回より 3～7 ポイント増加し、否定的回答率は 0～3 ポイント減少と良好な変化が表れている。多くの生徒が家庭で大切な存在として尊重され、安心感を感じながら、家族の一員としての役割を果たしていることがうかがわれる結果である。小学校と同様に、子どもの貧困や児童虐待の増加等の昨今の社会情勢の中でありながら、良好な結果となっていることは心強い。一方で、減少してはいるものの、否定的回答を寄せている生徒の個別の状況について、これまで以上に注視し、場合によっては関係機関との連携も含めた対応が求められると思われる。家族は生徒の自己有用感の基盤でもある。校報や P T A 活動、家庭教育学級等の機会を捉えて、生活習慣の確立や情報モラルについての啓発も進めていく必要があると思われる。

3 場面相互の比較

小学校

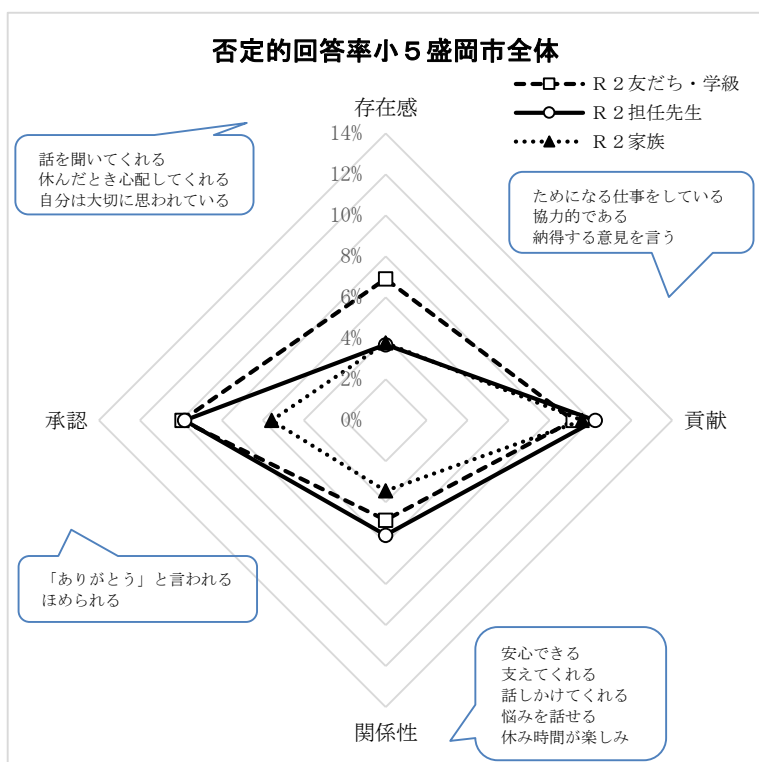
	肯定的回答率			否定的回答率		
	【友だち・学級】	【担任・先生】	【家族】	【友だち・学級】	【担任・先生】	【家族】
〔存在感〕	75%	82%	91%	7%	4%	4%
〔貢献〕	71%	65%	75%	9%	10%	10%
〔承認〕	75%	70%	88%	10%	10%	6%
〔関係性〕	87%	82%	91%	5%	6%	3%



＝考察＝

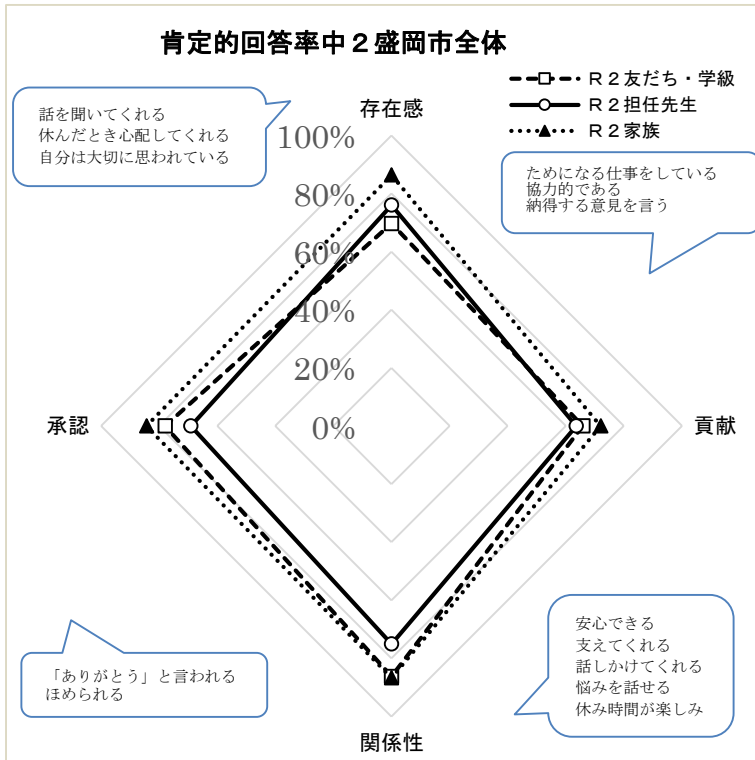
小学校5年生の【友だち・学級】
【担任・先生】【家族】3つの場面の
肯定的／否定的回答率の比較で
ある。

肯定的回答率では、【家族】が全
ての要素で一番外側にあり、その
やや内側に【友だち・学級】と【担
任・先生】が位置している。否定的
回答率では、家族が最も内側に
あり、児童にとって家族が一番安
心して自己有用感を感じることが
できる場であることを示している。
健全な結果と言えるだろう。〔存在
感〕は、【担任・教師】が【家族】
に続く回答率となっており、「話を
聞いてくれる」「心配してくれる」
「大切に思われている」と児童が
感じている様子が見られる。



中学校

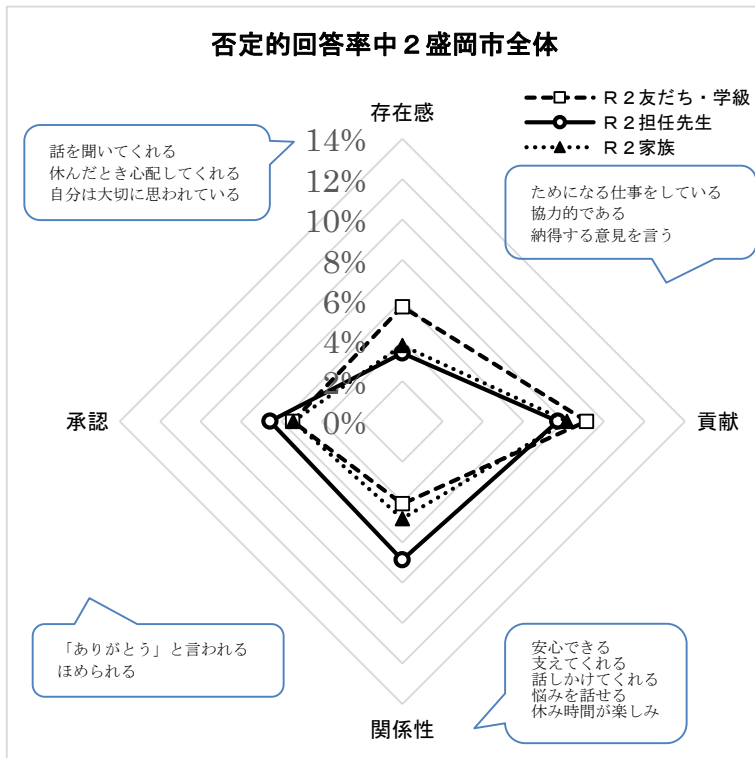
	肯定的回答率			否定的回答率		
	【友だち・学級】	【担任・先生】	【家 族】	【友だち・学級】	【担任・先生】	【家 族】
〔存在感〕	70%	76%	86%	6%	3%	4%
〔貢 献〕	66%	64%	72%	9%	8%	8%
〔承 認〕	78%	70%	84%	5%	7%	5%
〔関係性〕	86%	75%	87%	4%	7%	5%



＝考察＝

中学校 2 年生の肯定的回答率では、小学 5 校年生と同様に【家族】が最も外側にあり、生徒にとって【家族】がより所であり、自己有用感の基盤となっている様子がうかがわれる。〔関係性〕では【友だち・学級】が【家族】とほぼ同率となっている。中学生となり友人との関係性が大きくなっていることを示している。

否定的回答率では、【担任・先生】の〔存在感〕が他の要素と比較して最も低くなっており、先生方が生徒一人一人を大切に対応していることを反映した結果と思われる。また、〔関係性〕は他の要素と比較して最も高くなっている。「安心できる」「支えてくれる」「話しかけてくれる」存在としての先生に対する生徒の期待感の表れと捉えることができるだろう。

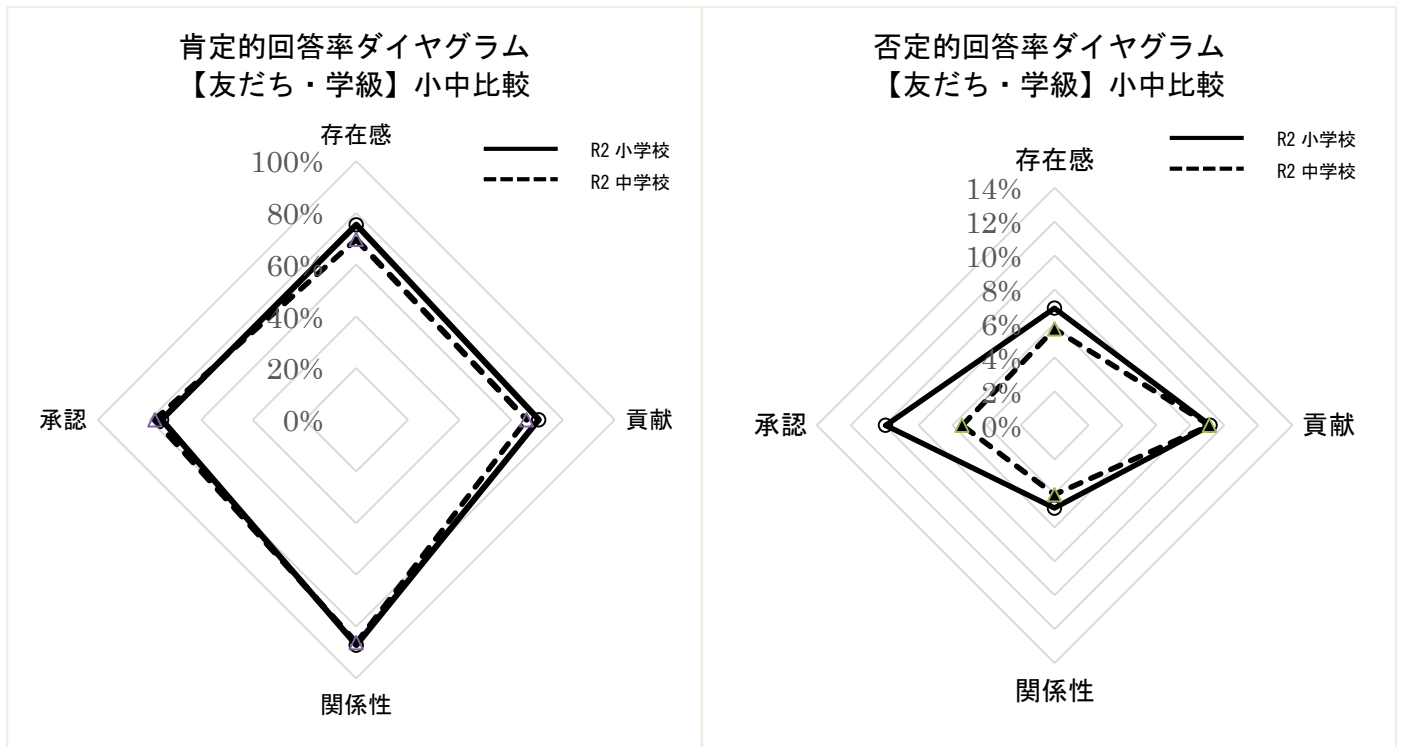


4 本年度の小学校と中学校の比較

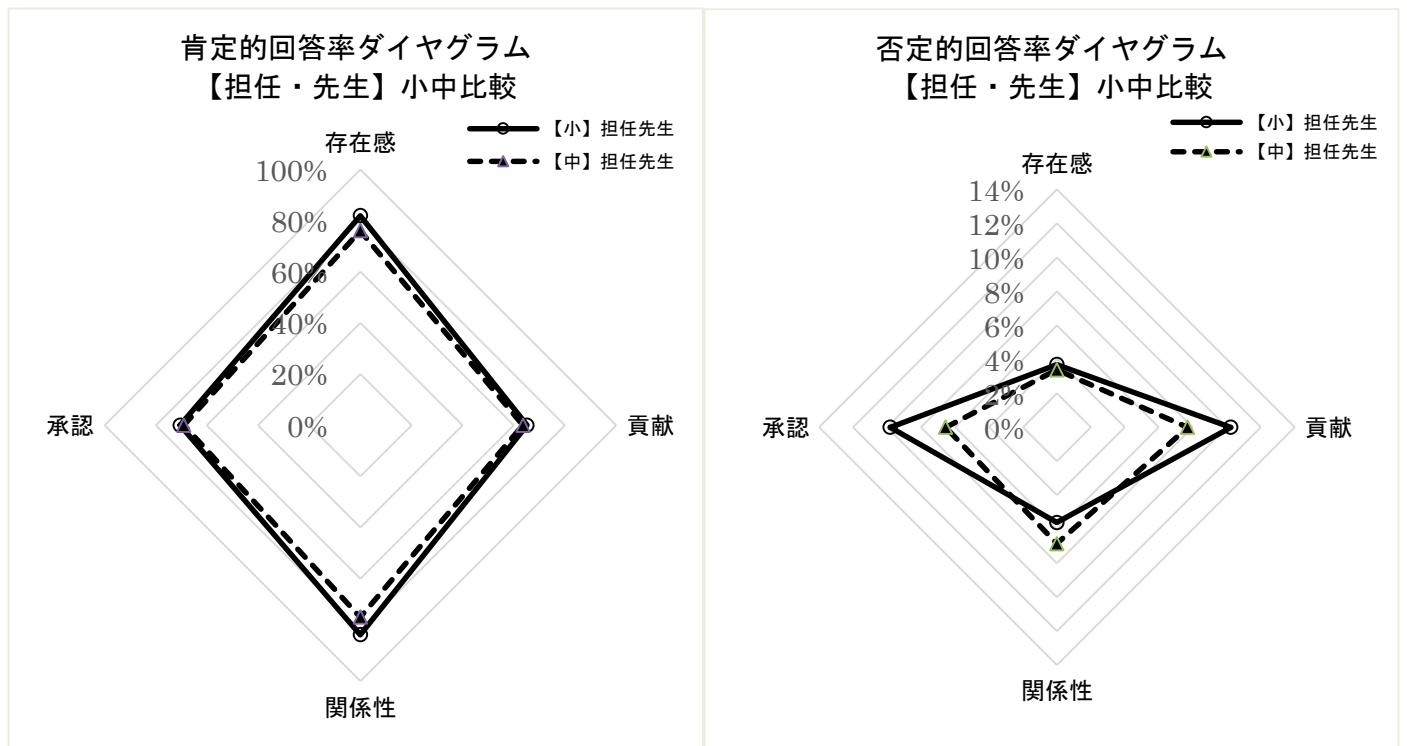
本年度の小学校5年生と中学校2年生の集計結果を場面毎に比較したグラフである。

肯定的回答率 否定的回答率	小学校 (R2)						中学校 (R2)					
	友だち・学級		担任・先生		家族		友だち・学級		担任・先生		家族	
[存在感]	75%	7%	82%	4%	91%	4%	70%	6%	76%	3%	86%	4%
[貢献]	71%	9%	65%	10%	75%	10%	66%	9%	64%	8%	72%	8%
[承認]	75%	10%	70%	10%	88%	6%	78%	5%	69%	7%	84%	5%
[関係性]	87%	5%	82%	6%	91%	3%	86%	4%	75%	7%	87%	5%

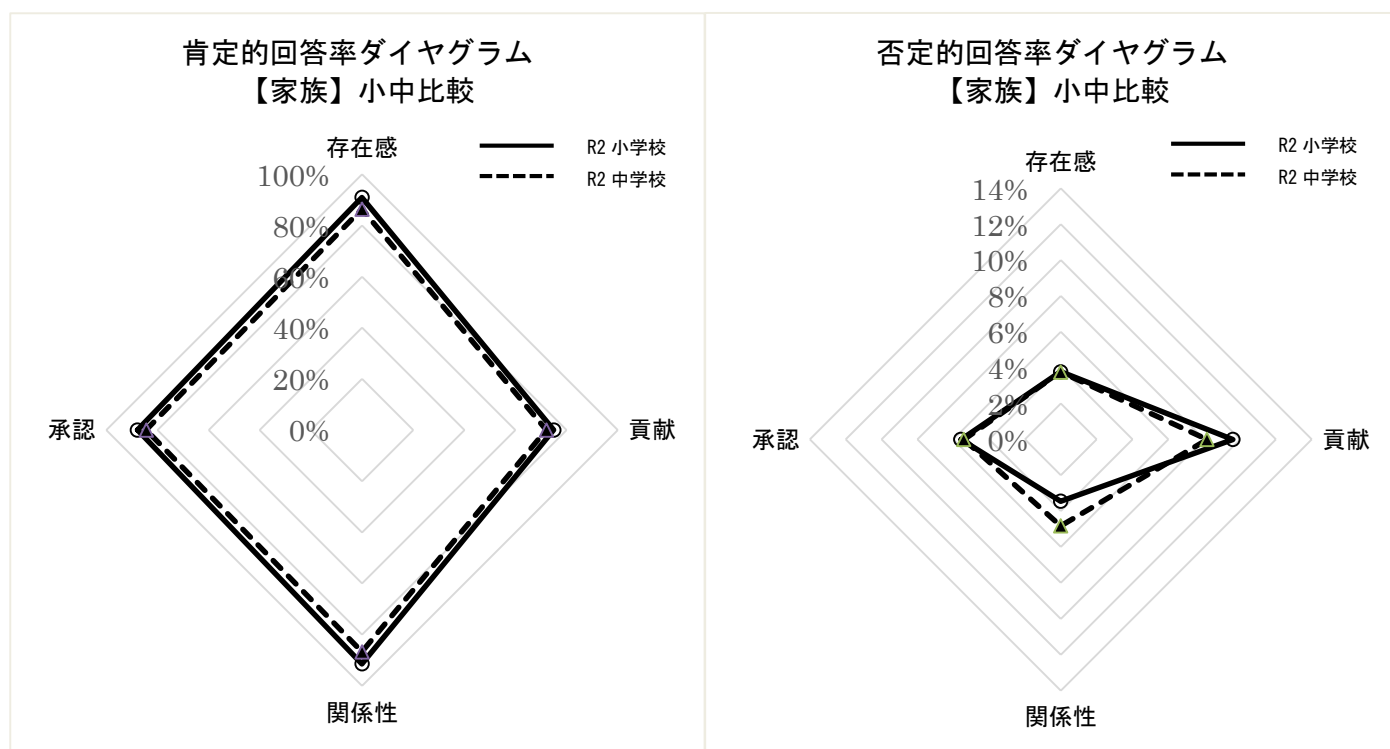
【友だち・学級】



【担任・先生】



【家族】



＝考察＝

はじめに申し述べておくが、全国的に様々な機関で自己肯定感（有用感を含む）についての調査が行われているが、いずれも学年を追って数値は低下しており、高校が最も低くなると言われている。これは、内面の成長により自己を客観的に捉える力が育っているためでもあり、単純に小学校と中学校を同列で比較してどちらが高いから良い、低いから悪いと論ずるべきものではないということを念頭に置きながら結果を見ていきたい。

肯定的回答率では、【友だち・学級】【担任・先生】【家族】の3つの場面ともに中学校で若干の減少は見られるものの、ほぼ同じ傾向を示している。全体としては小学校から中学校への移行が円滑に進められていることを示す結果と言える。市全体で、小中連携を推進してきたことの成果とも考えられる。

否定的回答率では、【友だち・学級】の〔承認〕が小学校 10%から中学校 5%と半減している。友だち同士で「ありがとう」と声を掛けられない、ほめられることが少ないと感じる生徒が減少していることは、子どもが互いに認め合うように成長していることを示している。【担任・先生】では、中学校で〔関係性〕が1ポイント増加しているものの、〔承認〕〔貢献〕が3ポイント減少している。先生に認められない、協力していないと感じる生徒が減少していることは望ましい変化と言える。

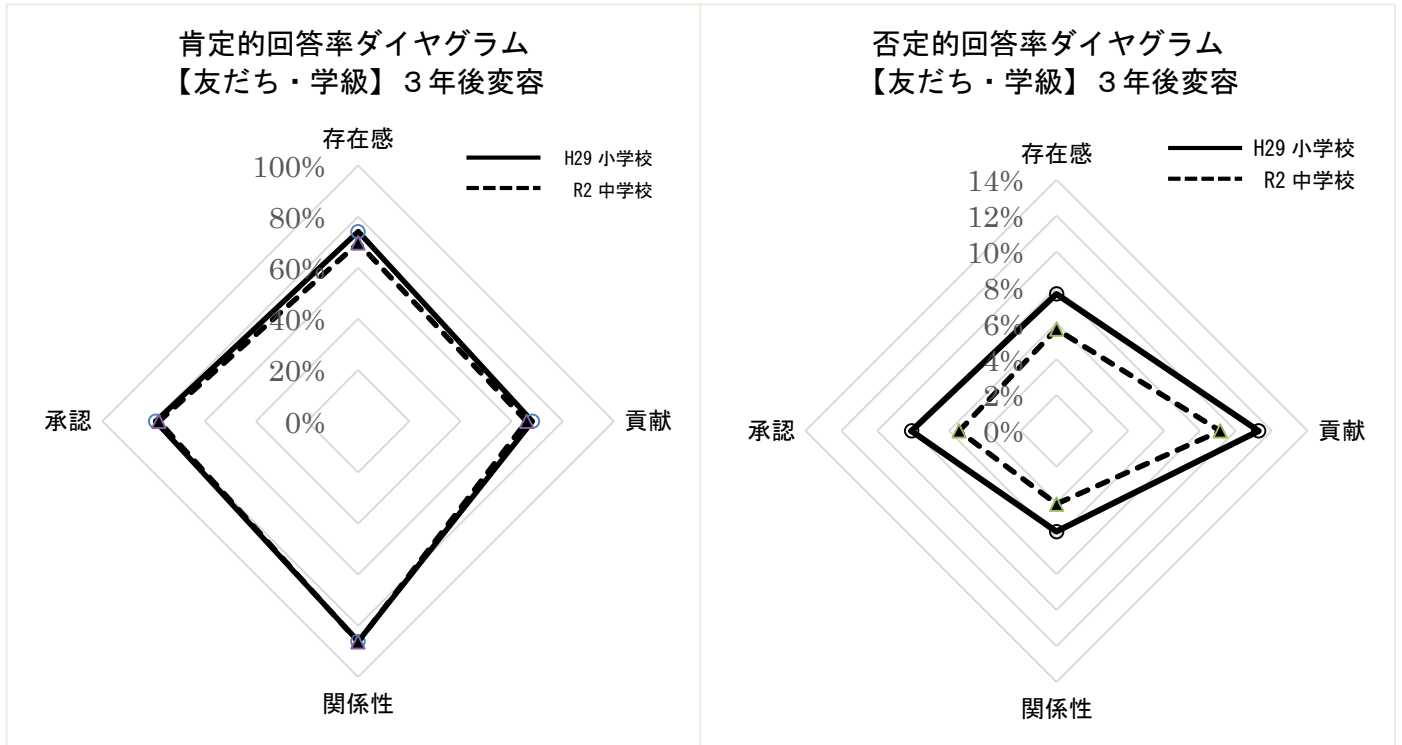
5 前回の小学校と今回の中学校の比較（同一児童生徒の追跡）

前回調査（H29）小学校5年生と今回調査（R2）中学校2年生の集計結果を比較した。

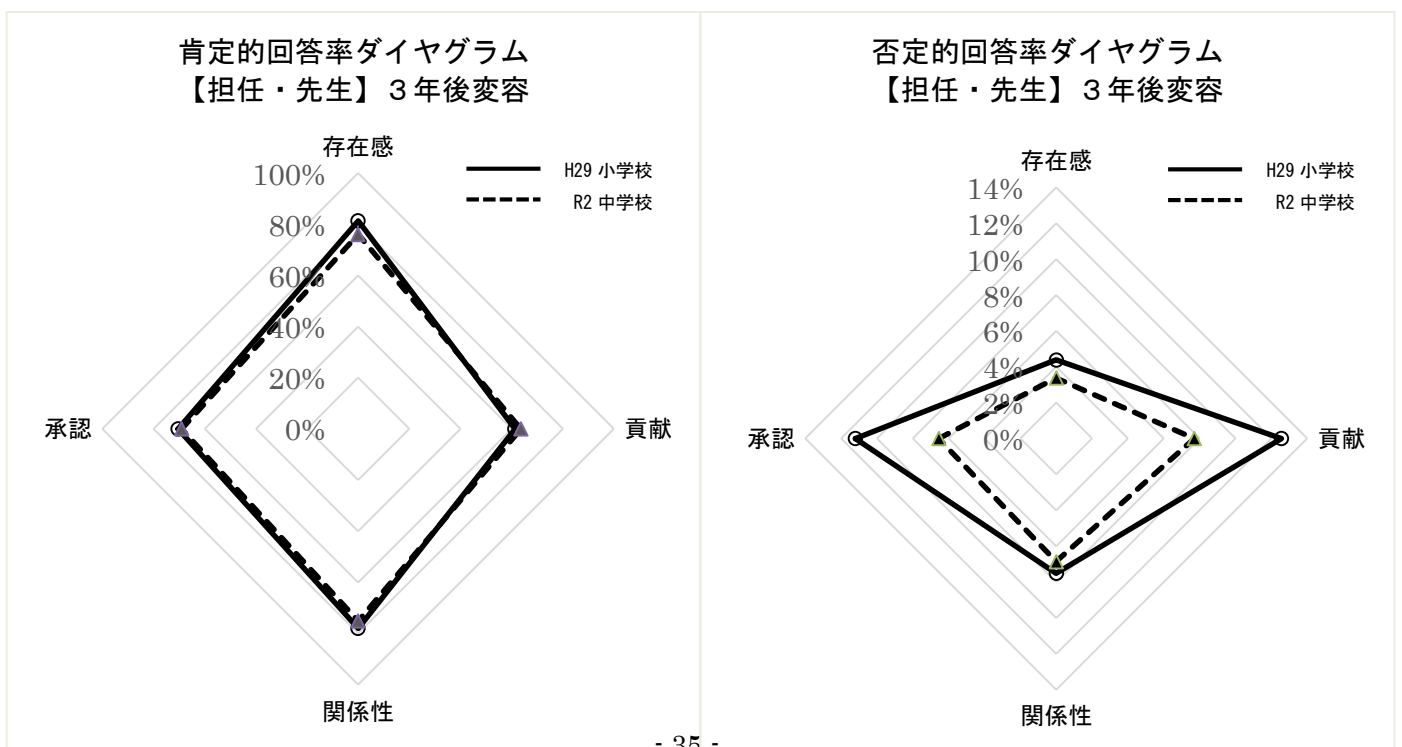
同じ子どもの3年後の変容について追跡した比較となる。

小5 (H29) 中2 (R2)	肯定的回答率						否定的回答率					
	友だち・学級		担任・先生		家族		友だち・学級		担任・先生		家族	
〔存在感〕	74%	70%	81%	76%	91%	86%	8%	6%	4%	3%	3%	4%
〔貢献〕	68%	66%	61%	64%	77%	72%	11%	9%	13%	8%	10%	8%
〔承認〕	79%	78%	70%	69%	87%	84%	8%	5%	11%	7%	6%	5%
〔関係性〕	86%	86%	78%	75%	92%	87%	6%	4%	8%	7%	3%	5%

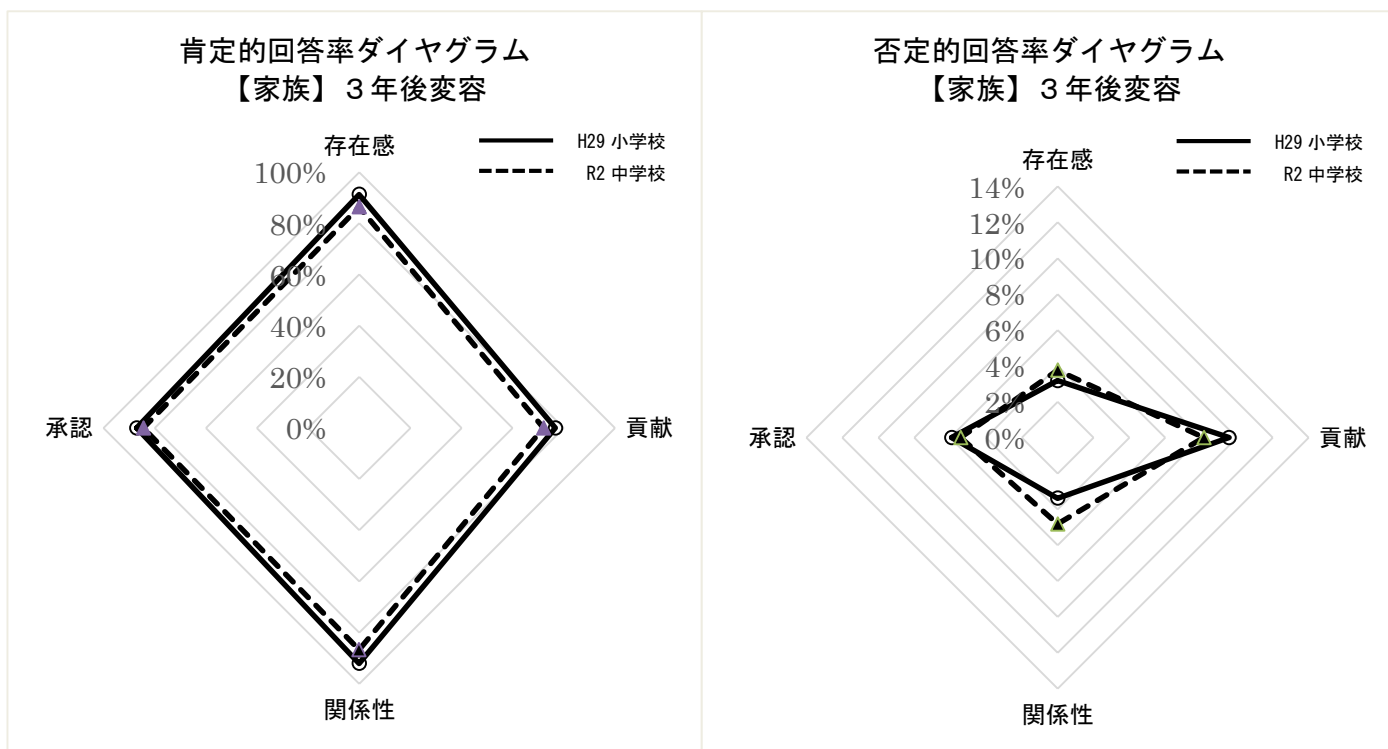
【友だち・学級】



【担任・先生】



【家族】



＝考察＝

H29 年度前回調査の小学校 5 年生と、R2 年度今回調査の中学校 2 年生，同一児童生徒を対象とする追跡比較である。前項でも述べたが，全国的に様々な機関で行われている自己肯定感(有用感を含む)についての調査では，いずれも学年を追って数値は低下しており，高校が最も低くなると言われている。これは，内面の成長により自己を客観的に捉える力が育っているためでもあり，単純に小学校と中学校を同列で比較してどちらが高いから良い，低いから悪いと論ずるべきものではないということを念頭に置いて結果を見ていきたい。

肯定的回答率では，【友だち・学級】【担任・先生】【家族】の3つの場面ともに中学校で若干の減少は見られるものの，ほぼ同じ傾向を示している。同じ調査対象の追跡では，市全体としては小学校から中学校への移行が円滑に進められていることを示す結果である。これまで小中連携を推進してきたことの成果の表れと言えるだろう。

否定的回答率に目を向けると，【友だち・学級】で全ての要素で 2～3 ポイント，【担任・先生】では，【貢献】で 5 ポイント【承認】で 4 ポイント中学校で減少している。【友だち・学級】との関わりが，学年が上がる中で互いに成長して人間関係が構築されているものと思われる。

【担任・先生】では，【承認】(「ありがとうと言われる」「ほめられる」)，【貢献】(「ためになる仕事をしている」「協力的である」「納得する意見を言う」)の否定的な回答はほぼ半減している。望ましい変化であり，自己有用感を高める指導が反映されている結果と捉えられる。

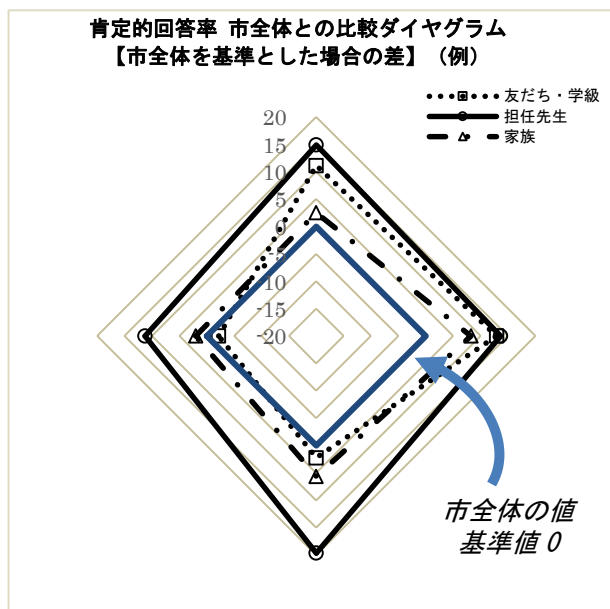
IV 学校／学級別類型

IV 学校（学年）／学級別類型

各校・各学級の現状把握と、自己有用感の育成に向けた取組に生かすため、アンケート結果から、盛岡市内小学校5年生、中学校2年生の学校（学年）別と学級別のダイアグラムを作成し、詳細なデータと共に各校に送付した。

その際、市全体の値（市平均）との比較によるダイアグラムも併記し、自校、学級の状況がより明確に把握できるようにした。

肯定的回答率 市全体との比較ダイアグラム【市全体を基準とした場合の差】の見方



軸の設定を市全体の回答率を基準値「0」、その基準値との差を最小 -20% ~ 最大 +20% とした。

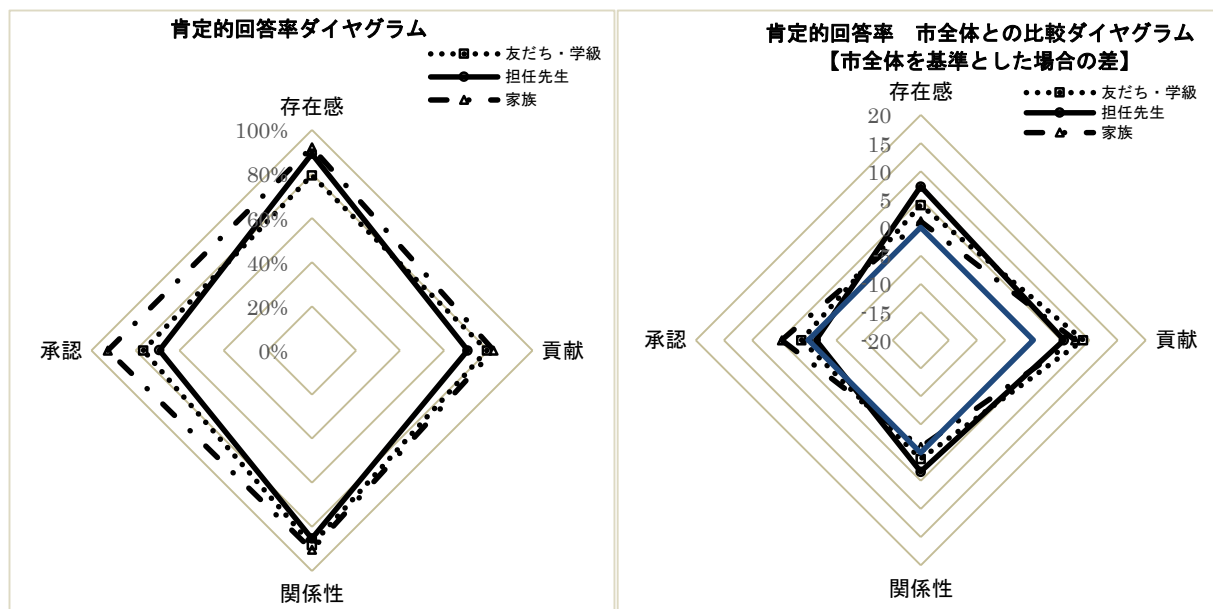
太線の正方形が市全体の値であり、外側なら市全体より値が大きく、内側なら市全体より値が小さい。

市全体との比較を一目で把握することができる。

※各校には「否定的回答率市全体との比較ダイアグラム」も送付している。

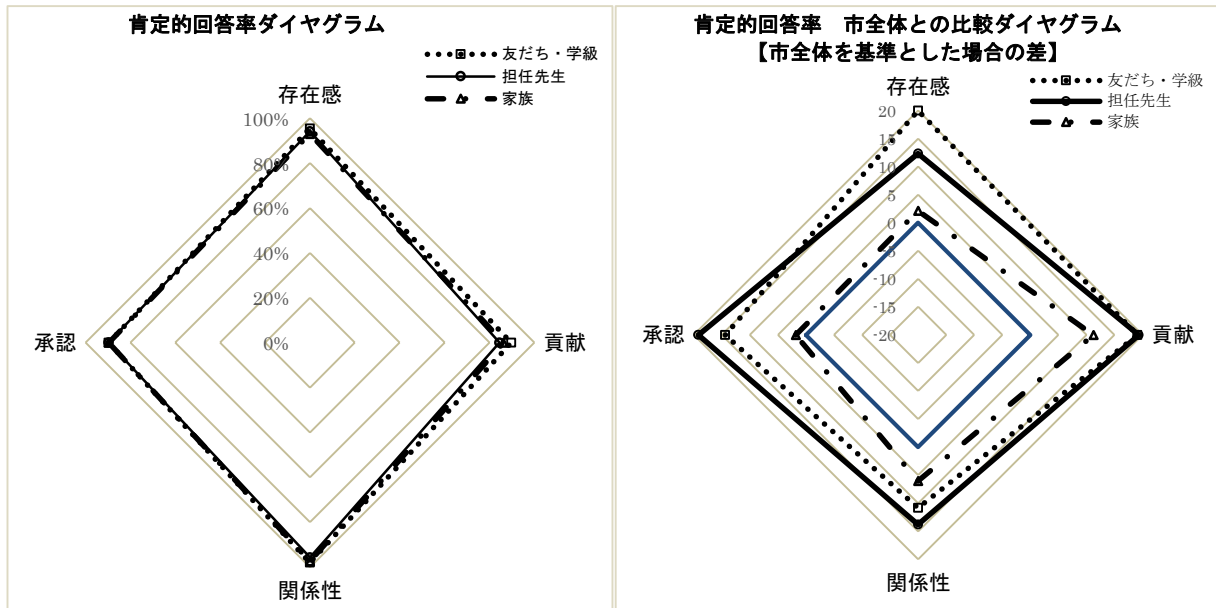
以下に特徴的な類型をいくつか紹介したい。右側が「市全体との比較ダイアグラム」である。

1 平均型（3つの場面、4つの要素が市全体の値に近く平均的）



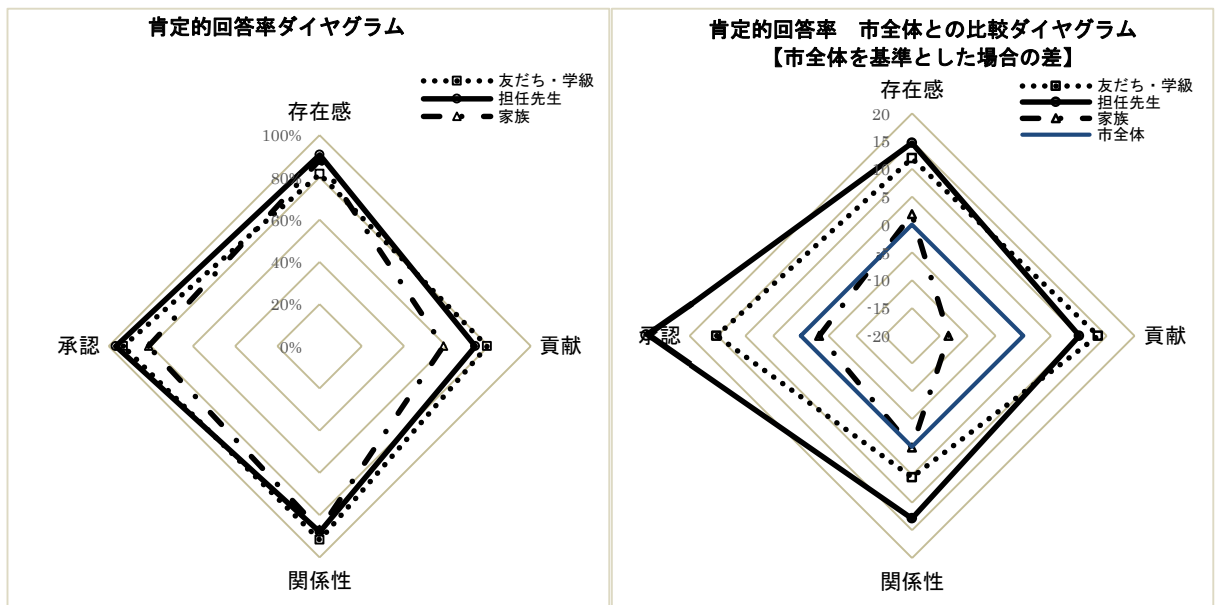
※ 【家族】の肯定的回答率が最も高くグラフの外側に位置し、【担任・先生】【友だち・学級】がその内側にあり、市全体の値と近い形である。その意味で、平均的な学級であるが、自己有用感を高める取組によって一層の改善が期待される。同じ学校でも学級によってグラフの形状は様々であった。学年を通して集計すると平均型となる学校はいくつかみられたが、単一の学級で平均型を示す例はむしろ稀であった。

2 全体高値型 (3つの場面, 4つの要素がいずれも肯定的回答率が高い)



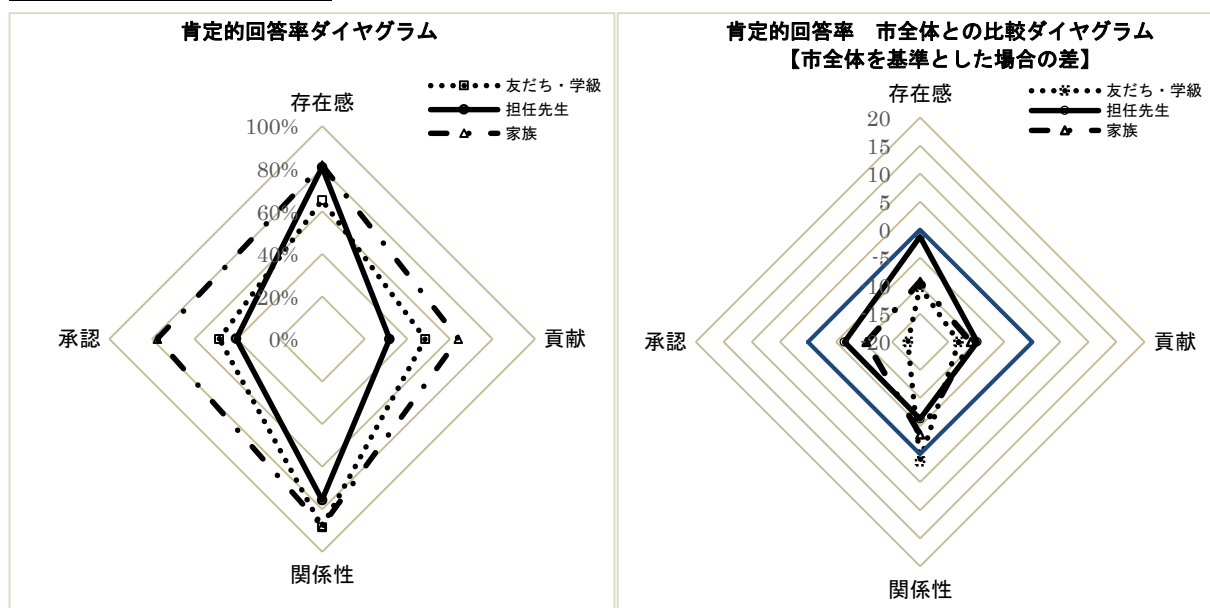
※ 【友だち・学級】【担任・先生】【家族】の3つの場面の肯定的回答率がいずれも90%前後と非常に高く、市全体との差のグラフでは、【担任・先生】【友だち・学級】が大きく外側となる。家庭でも学校でも周囲から認められ、大多数の児童生徒が自己有用感を十分に感じている学級である。

3 学校高値型 (【友だち・学級】【担任・先生】の肯定的回答率が高い)



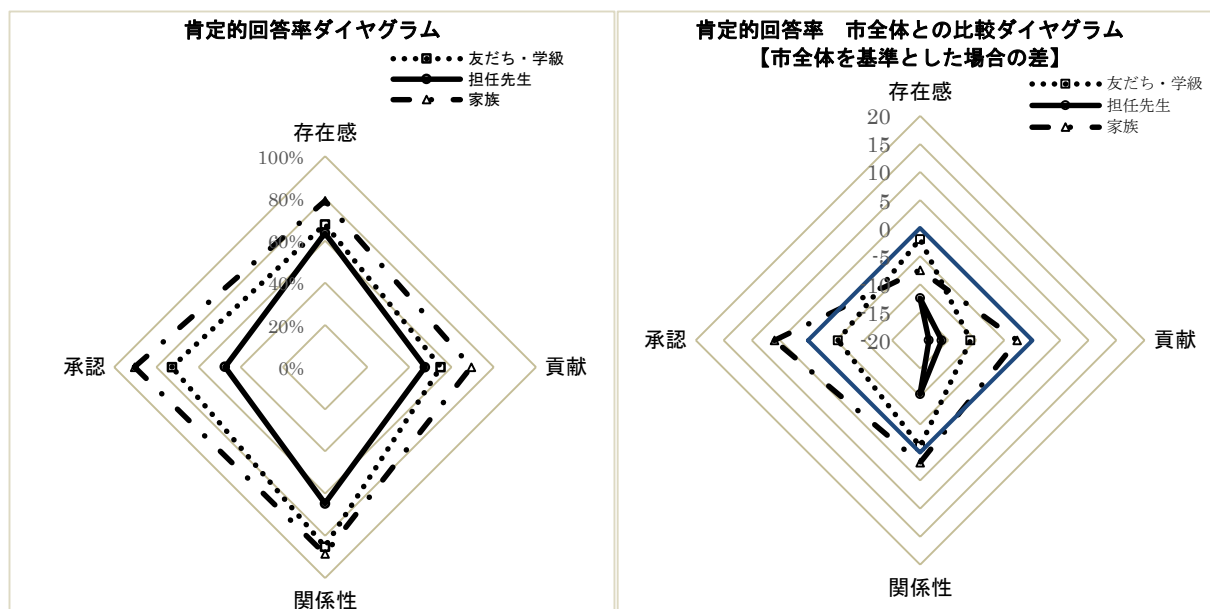
※ 【担任・先生】【友だち・学級】が【家族】を上回っており、学校生活で自己有用感を十分に感じており、【担任・先生】の様々な配慮が行き届いている様子が見えてくる。それに比べると、生活の基盤であり、自己有用感の基盤ともなっている【家族】の結果が伸び悩んでいることから、様々な家庭環境を抱えている子どもが多く在籍していることがうかがえる。【家庭】との連携や啓発が今後の課題となるであろう。

4 承認・貢献低値型 (〔承認〕〔貢献〕要素の肯定的回答率が低い)



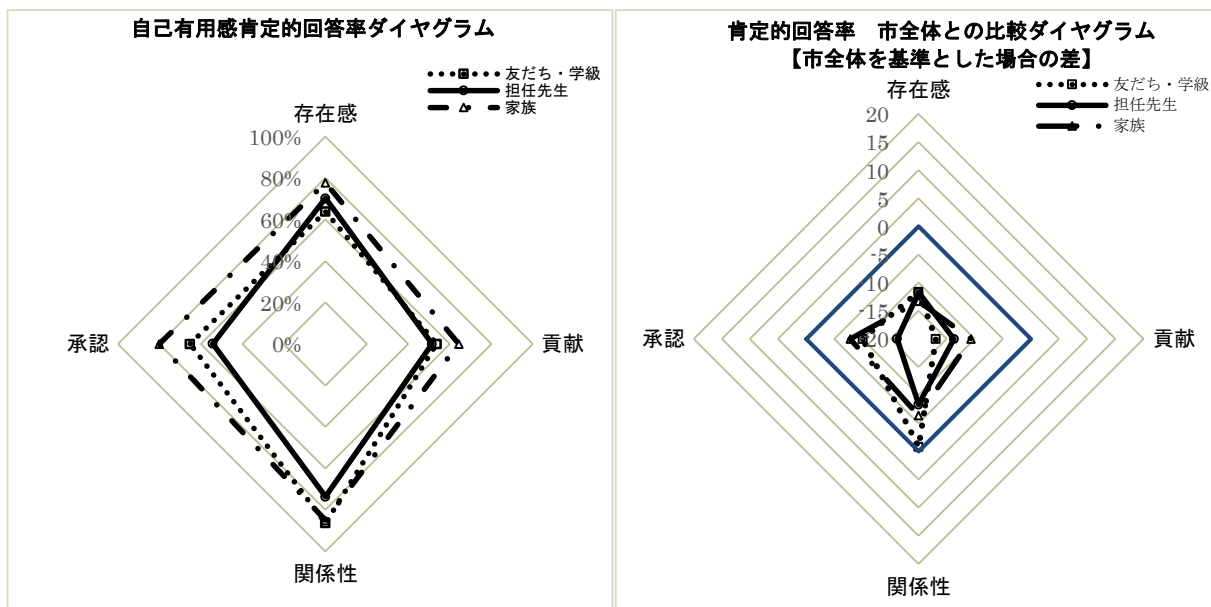
※ 【友だち・学級】【担任・先生】の〔承認〕と〔貢献〕が低い形である。〔承認〕：「ありがとうと伝える」「褒める」、〔貢献〕：「ためになる仕事をする」「協力する」「納得する意見を言う」が先生も子ども同士でも不足している。〔関係性〕〔存在感〕は低くはないので、改善に向けての下地はあると思われる。教師がより積極的に子どもたちの良さや成長を見つけて認めることにより自己有用感が大きく向上することが期待できるだろう。

5 先生低値型 (【担任・先生】の肯定的回答率が低い)



※ 【担任・先生】の肯定的回答率が低く、大きく内側に位置している。先生に対して多くの子どもが「もっと認めてほしい」等の強い期待を抱いているものと思われる。〔貢献〕が50%を下回っているということは、学級内に様々な課題を抱え、解決しかねていることも考えられる。担任と子どもたちの当事者だけでは解決しきれないことも考えられるので、状況を把握し、必要に応じて組織的なフォローアップが求められることもあるだろう。

6 全体低値型 (市全体の値と比べ全体的に肯定的回答率が低い)



※右側のグラフを見て判る通り、全ての設問において肯定的回答率が市全体と比べて低くなっている。自己肯定感の基盤となる【家族】も低いことから、家庭環境に様々な課題を抱えている子どもが多いことが読み取れる。【友だち・学級】【担任・先生】の肯定的回答率も要素によっては50%程度となっており、対応は相当難しい状況と思われる。そのような現状を校内で共有し、担任のメンタル面も含めたフォローアップが必要かもしれない。

＝考察＝

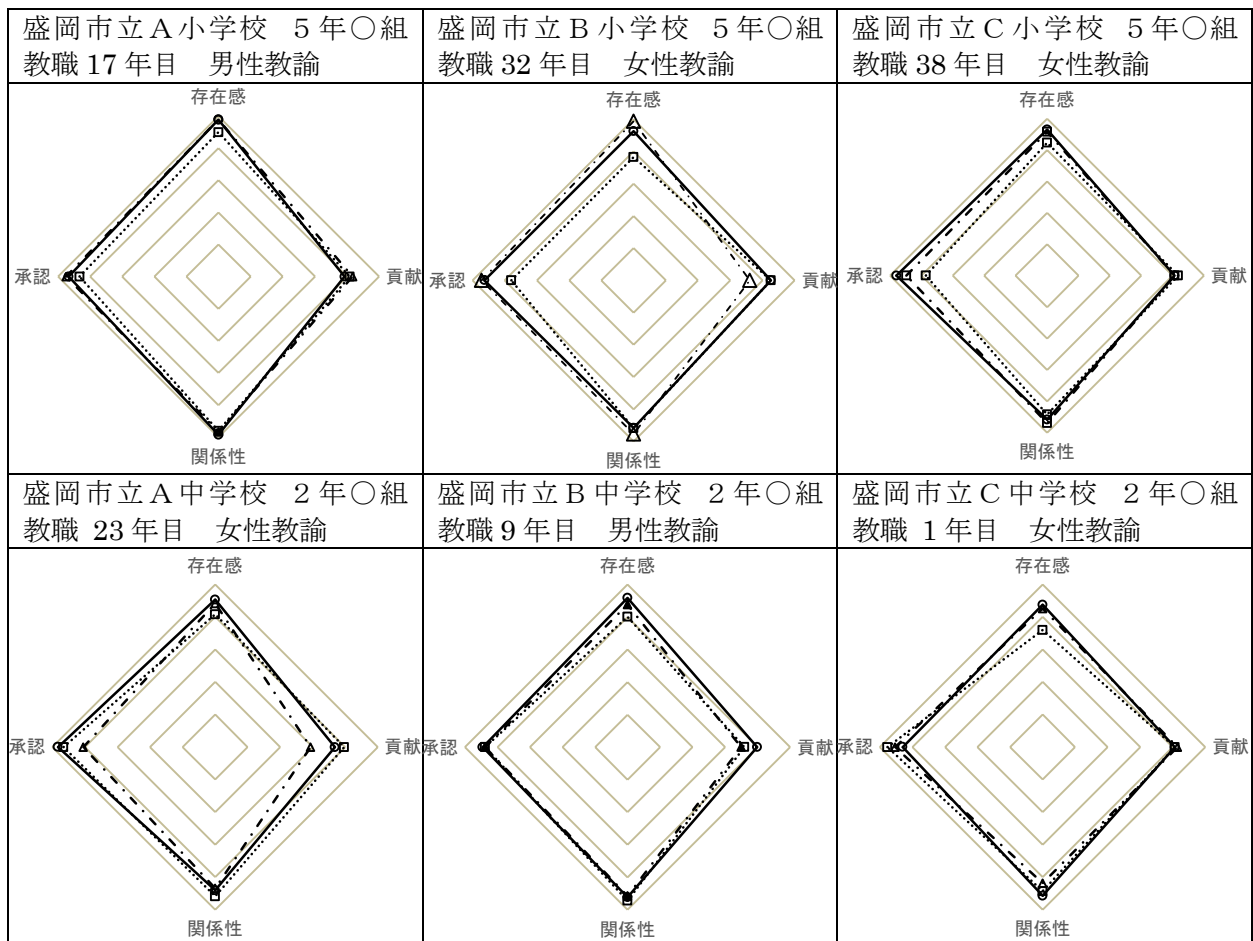
以上6種の類型を示したが、学級毎の集計結果は多様であり、同じ学校でも学級により様々な型を示していた。課題や必要な対応も異なるものと思われる。今回のデータも参考としながら、児童生徒の自己有用感を高める取組の一層の充実を図りたい。

V 实践事例

調査の集計結果から、【担任・先生】に関わる設問での肯定的回答率が特に高く、自己有用感を高めている学級について、効果的な指導事例を収集するために学校訪問を実施した。

- 1 ねらい 「児童生徒の意識調査～自己有用感」の集計結果から、【担任・先生】に関わる設問での肯定的回答率が特に高く、自己有用感を育んでいる学級について、授業参観及び担任へのインタビューを通して効果的な指導事例をまとめ、広く紹介し、生徒指導の充実を図る。
- 2 訪問日 令和2年10月19日（月）～27日（火）
- 3 訪問者 岩崎雅司 専門研究員
- 4 訪問校・担任・肯定的回答率ダイアグラム

【友だち・学級】……………□…………… 【担任・先生】——○—— 【家族】- - - - -△- - - - -



5 訪問の様子 次ページ以降参照

6 所感

選定された担任は、年齢・性別・経験年数は様々であったが、共通点として次の事を感じた。

- ① 子どもに寄り添い、愛情と情熱をもって指導にあたっていた。
- ② 子どもの立場に立ち、共感的に子どもを見ながら、語りかけ、指導していた。
- ③ 子どもの頑張りや、成長を見過ごさず、ほめたり認めたりすることを常に心がけていた。
- ④ 強く指導する際は、本人が納得するように簡潔にし、後にひきずらないことを心掛けていた。
- ⑤ 子どもたちとの出会いに心から感謝し、いつも「ありがとう」という言葉で伝えていた。

※ コロナ禍にあって、例年以上に子どもとじっくり向き合ったり、検温時に一人一人への声がけをしたり、新しい行事を企画したりと、その状況を活用している説明もあった。

事例1 盛岡市立A小学校 5年〇組

訪問日時：令和2年10月21日（水）15：00～16：00

校長より：

- 学校経営方針の学校像として「自己肯定感を高め、自らを切り拓く子どもを育てる学校」と自己肯定感を掲げ、「具体的取組」の「知」・「徳」に自己肯定感を高めることを明記して学校として取り組んでいる。
- 今回の意識調査アンケートの指標や質問項目を職員に示し、自己有用感を高める取組を進めるよう話した。できれば他の学年でも実施したいと考えている。
- 同じ学年内でも学級によって結果が異なっていた。
- 教諭は、7年目である。上から押しつけず、子どもの話しや言い分をよく聞いている。授業では、一人を見捨てないという姿勢をもって臨んでいる。

担任より：教職17年目 男性教諭

- 「やさしさあふれる学級」をテーマに取り組み、生活でも授業でも「やさしい人になろう」と話している。学年テーマは「スクラム&トライ」
- 授業中、考えているけど「間違っていたらどうしよう」と思っている子もいる、「優しい雰囲気を作っていこう。やさしさはどんな時でも必要だ」と話している。
- あたり前のことをやっているだけだが、一人一人の子どもを大切にしようと思っている。
- 子どもは楽しみを求めている。「今日学校に来て良かった」と感じてほしい。
- 声かけ、ほめる、励ます等、一日の中で全員と会話することを心掛けている。コロナ禍での検温チェックは良い機会になっている。
- 厳しく指導することもあるが、直そう、頑張ろうとしていることをみつけ、納得させてから帰すようにしている。指導が終わった後は、そのことには触れない。
- ちょっとしたことを見逃さず、「ありがとう」という気持ちを伝えるようにしている。
- 来年は6年生になるので、自分達で考えて行動できるようにさせていきたい。

訪問所感 ・「自己肯定感を高める」を学校経営の中心に置いて取り組まれていた。今回の意識調査の趣旨と一致しており、結果を参考にしていることを心強く感じた。

- ・算数の授業の後半と帰りの会の様子を参観したが、子どもたちがのびのびとしており、一人一人が自分の役割を進んで果たしながらスムーズに活動が展開されていた。
- ・教諭は、上から目線ではなく、子どもの目線に立って接していると感じた。
- ・インタビューでは、「あたり前のこと」と話しながらも、子どもたち一人一人を大切に思い、心を寄せて接している様子が感じられた。
- ・下校の際は、昇降口で担任の先生が見送ることとなっている。新型コロナ対策で握手はできないため、肘タッチで一人一人に声を掛けながら見送っていた。

事例2 盛岡市立B小学校 5年〇組

訪問日時：令和2年10月22日（木）15：00～16：00

校長より：

- 担任は、本年度転入した。自分のアイデアをもっているいろいろな取り組む先生である。
- 昨年度は、保護者からの訴えもあった。
- 学級通信は、教諭からの他に児童からも出させている。毎日仕掛けがある。
- 本人は、子どもの自主性やリーダー性を高めたいと話している。

担任より：教職32年目 女性教諭

- 主役は子ども。あまり入り込まず、待つてあげることを心掛けている。その子によって時間は違うので、その子に合わせている。
- コロナ禍で行事等が中止となり時間があつたので、じっくりと進めることができた。
- 昨年大変だった子に気を遣った。まずは要求を聞き取った。現象を見るとマイナスもあるが、背景や家での立場等、学校にランドセル以外にも背負ってきているものがある。
- 子どもたちには、合意を得るようにした。「どうする？」「どうしたい？」とよく聞いてきた。
- 生活を作るのは子ども。
- ほめることは、タイミングが大事。本人が頑張っている時にほめる。全体にほめることもあるが、個人的にはノートを活用している。現象もあるが、内面や人間性をほめるようにしている。例えば、やさしさの気持ちの変容について。
- 叱るべき時は、叱っている。ダメはダメだが、何故やったのか考えさせる。
- 「あなたがいないと学級がまわらない」「一人の存在は大きい」と話している。
- 子どもたちには「ありがたい」と思うし、そう話している。

訪問所感・6校時は、校外学習について、ポスターセッション形式で4年生に発表する場面であった。体験してきたことをグループ毎に発表していた。子どもたちのペースで和気あいあいとした雰囲気の中で発表が進められていた。

- ・時折、先生が良さを見つけて、「すばらしい～」と拍手を促したりして、子どもと同じ目線からのアドバイスや支援をしていることが印象的であった。
- ・帰りの会では、一人勉強ノートの例を黒板に掲示して良さを紹介したり、今日の良かったことを評価したり、限られた時間の中で様々な事についてポイントを捉えて確認していた。
- ・先生の気取らない人柄が、子どもたちとの良好な関係につながっていることが感じられた。

事例3 盛岡市立C小学校 5年O組

訪問日時：令和2年10月27日（火）15：00～16：00

校長より：

- 「仲よしの言葉」として「おはよう」「ありがとう」「ごめんなさい」の3つの言葉を取り上げ昇降口に掲示している。
- 本年度で定年を迎える先生だが、意欲的である。
- 初任の2組の担任と共に熱心に指導している。家庭訪問も一緒に行ってくれた。
- 学級には、支援が必要な子もいる。母親に子どもの様子をきめ細かく伝えて、理解と協力を得ている。
- ダンスの指導場面では、体育館のステージ上からフロアに飛び降りてきて子どもに寄り添う等、精力的に指導していた。

担任より：教職38年目 女性教諭

- いっぱいほめている。伸びた子をほめるが、ほめられる子がいつも同じにならないようにしている。
- ほめる時は、みんなの前でほめる。周囲からひがまれずに受け止められるように気を配っている。
- 注意する時は、個別に短く話す。ガミガミ言ってもだめだ。説諭する時は、その子の心の状態を受け入れて聞いている。（イライラしている時も、それを受け入れて指導する）
- 自分から寄ってくる子ばかりでなく、後ろで見ている子にも話しかけることを意識している。
- 授業では、机間巡視して声をかけたり、分からない人に挙手させたりしている。
- 欠席した時は、家に「いかがですか？」「具合はどうですか？」と電話を入れ、できれば子どもとも直接話すようにしている。
- 「ありがとう」はいつでも、「私は完璧ではない。間違えることもある。」と話している。
- 担任と一人の子どもとの関係が、周囲に広がっていくと思う。「〇〇さんありがとう」の声掛けが、子ども同士の「ありがとう」につながっていく。
- 毎日が楽しい。子どもとの年齢的なギャップは感じない。子どもと同じになる。

訪問所感・授業の後半と、帰りの会を参観した。先生は、一人一人の児童を愛情深く受け入れ、落ち着いて対応しながら授業を進めていた。結果として、どの子ども一緒になって学習活動に参加していた。愛情と忍耐の積み重ねの結果が、意識調査に見事に反映していたことを思うと、頭が下がる思いであった。

- ・インタビューに答えるマスク越しの表情は、生き生きとして意欲にあふれていた。

事例4 盛岡市立A中学校 2年〇組

訪問日時：令和2年10月23日（金）15：00～16：00

校長より：

- 1年生からの持ち上がりである。
- 学年全体で生徒を育てようとして取り組んでいる。
- 教諭のパーソナリティ、子どもとの関わりの良さは資質的なものだろう。（これまでの教職経験、母親としての子育て等々）
- 子どもにまんべんなく声かけや目配りをしている。
- 子どもが安心して居る。母親のような感覚かもしれない。
- 自身の子育ての経験から中学生の心情がわかり、いい結果につながっている。

担任より：教職23年目 女性教諭

- 叱っても引きずらないように、次の瞬間はニコッとできるようにしている。
- 「目に見える現象は、心の動き」とザックの乱れ等についても指導している。
- 10分休み、昼休みも教室にいるようにしていて、そこから授業に向かっている。1年生の頃から、担任と一緒にいるのがあたり前になっている。いつも見守り、声かけをしている。
- 「ありがとう」とよく言っている。
- ダメはダメと指導しており、叱ることは沢山あるが、反抗期になってきているので、叱りすぎないように心掛けている。
- 役職を盾に叱らない。「あなたは〇〇委員だから・・・」とは言わず、一人の人間として「それはダメなんじゃないでしょうか」と話すようにしている。
- コロナ禍で楽しみにしていたことが無くなったので、レクを企画した。「百人一首大会」は大いに盛り上がった。
- いっぱいほめる。伸びた子をほめる。

訪問所感 ・一日を振り返る「黙想」にはじまり、落ち着いた雰囲気の中で帰りの会が進められていた。

- ・担任が「10分休みや昼休みも教室にいて、教室から授業に向かう」ということからわかるように、日常から生徒に目を配り、声を掛け、愛情を注いでいる。生徒も先生の存在に安心して教室で生活している様子が見られた。
- ・授業の学級が常に変わり、様々な業務も担っている中学校の教員にとっては休み時間も教室にいることはそう簡単なことではないと思われるが、常に子どもの近くにいるという姿勢には生徒への愛情と、担任教師としての覚悟が感じられた。
- ・一人一人の生徒に声をかけ、日常の積み重ねを通して「関係性」が深まり、「承認」「貢献」「存在感」等の要素が高まっていくことを実感した。

事例5 盛岡市立B中学校 2年〇組

訪問日時：令和2年10月20日（火）15：00～16：00

校長より：

- 3年生まで持ち上がることを考えて、今年度から2年担任とした。
- 自己肯定感を高めることによって様々なことに影響していくものである。自己肯定感
は目的ではない。
- 行事の振り返り等を通して、生徒を評価しほめるように指導している。
- コロナ禍で県立病院へのメッセージを掲示したところ、病院からも感謝の言葉が届
けられ、多くの方からおほめの言葉を頂いた。校内も大切だが、外からほめられるこ
とは更に効果があると感じた。

担任より：教職9年目 男性教諭

- 子どもたちに恵まれていると感じている。
- 子どもと向き合う事が何より大切だと思う。
- しっかりしている学年であり、明るく温かい学級である。
- 子どもたちにとってプラスになるとしたら、出来る限りのことをやろうと思う。
- 「向日葵プロジェクト」として、中庭に向日葵を植えた。校内合唱コンクールでは、
その種を生徒が一粒ずつお守りとして胸に入れて本番に臨み、最優秀賞を獲得した。
- 決めた事をやり切ろうとするリーダーである。リーダーが話せば、先生から話すこ
とはないこともある。
- 人を傷つけること、イジメは絶対にいけないと強く指導している。
- 前日の生活や記録ノートから見つけ出して、朝はほめることを心掛けている。
- 「ありがとう」「ごめんなさい」とよく話している。
- 生徒は担任との学活・道徳・総合を楽しみにしている。

訪問所感 ・帰りのHRを参観した。教育実習期間の終盤であり、廊下から実習生が教室を参
観していた。

- ・先生は、教室の窓側に立って見守り、司会の生徒が会を進行していた。今日の反省、
明日の連絡、忘れ物の注意までリーダーの生徒が行っており、それを見守りながら
生徒の主体性を尊重しているように見受けられた。
- ・「教育実習生から」の場面では、サイコロを振って出た目によって発表者やテーマが
決まり、その都度生徒から歓声が上がった。実習生のコメントでもまた歓声と拍手
が沸き、生徒達は学級での生活をのびのびと心から楽しんでいる様子がうかがえた。

事例6 盛岡市立C中学校 2年O組

訪問日時：令和2年10月19日（月）9：30～10：30

校長より：（校長は他用務で不在のため、副校長が対応）

- 教諭は、本年度新採用で配置された職員である。
- 当然のことではあるが、初任者ということで、学校としても様々な配慮をしている。
- いつもニコニコと笑顔で接し、感情的になったりすることもないので、生徒に安心感を与えていると感じている。
- 授業では、担任学級ばかりではなく、どの学級でもグループ活動が上手に実施できている。
- 校長は、常日頃から職員に対して「生徒が未熟なのは当然なのだから、否定せずに指導するように」と話している。

担任より：教職1年目 女性教諭

- 初任研で指導されたことに心掛けながら取り組んでいる。
- 朝、帰りに生徒とあいさつを交わす時は、名前を付けて声をかけるようにしている。
- はじめてということで、生徒が色々と教えてくれる。
- 「ありがとう」という時は、理由を付けて伝えるようにしている。
- 声の大きい生徒に号令係を頼む等、一人一人に合わせて仕事をお願いしている。
- 月に1度は学級通信を発行している。裏面に生徒の写真を掲載するようにしている。保護者から、子どもの様子がわかって嬉しいと言われている。
- 個別の配慮が必要な生徒もいるが、保護者の了解を得て生徒達にも事情を伝え理解を求めている。
- 経験がないので、他の先生方のように子どもの能力を引き出せているのだろうかと思う時がある。

訪問所感

- ・学級に入ると、温かく和やかな雰囲気が感じられた。
- ・初任の先生ということで、生徒が支えよう協力しようという気持ちで、互いに声を掛け合う様子も見られ、学級に一体感が生まれていた。
- ・授業では、「あいさつ」～「前時の学習内容の確認」と、明るい雰囲気の中で反応良く活発に生徒とやり取りが行われていた。カラフルなアヒルの人形を使う等、生徒が楽しくグループでの英語学習に入れるような工夫が見られた。

IV まとめ

<まとめ>

- 今回の調査は次の点に配慮して実施した。
 - ① 前回調査と同一の設問構成により、マークシート方式で行った。
 - ② 別集計としていた特別支援学級を、通常学級と一括で集計した。(前回は別集計としていたが、通常学級に含めることによる全体の数値への影響は少ないと判断した)
 - ③ 選択肢の「とてもあてはまる」・「少しあてはまる」を肯定的回答、「あまりあてはまらない」・「まったくはてはまらない」を否定的回答として、その双方の比率をダイアグラムにまとめ、一目で特徴が把握できるように表記上の工夫をした。
 - ④ ①～③により作業効率を高めたことで、市全体との比較や、否定的回答の状況を含めた集計が短期間で行われ、2学期前半には各校に結果をフィードバックし、教育活動や指導上の参考として活用することができるようにした。

- 調査結果は大きく次のようにまとめることができる。
 - (1) 市全体としては、多くの児童生徒が【友だち・学級】【先生・担任】【家族】との関わりを通じて、安心して自己有用感を感じながら生活や学習に取り組んでいる。とりわけ、【家族】が安心の場であり、児童生徒にとっての生活の基盤となっていることがデータから裏付けられた。
 - (2) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、教育活動が大きく制限され、先行きの見通しが立たない時期の調査であったが、【担任・先生】への肯定的回答が増加、否定的回答の減少がみられた。【担任・先生】が児童生徒の安心・安全を第一にしながら、一人一人に声をかけ、心を配り、様々な工夫や配慮をしながら教育活動を進めてきたことが伝わっている結果と捉えることができる。
 - (3) 前回調査と比較すると、小学校では否定的回答が減少、中学校では肯定的回答の増加と否定的回答の減少が見られ、全体として自己有用感が高まっていると捉えることができる。
 - (4) 他の要素と比較して〔承認〕〔貢献〕の肯定的回答率がやや低いことから、「ほめる」「ありがとうと伝える」等により児童生徒一人一人の頑張りや成長、果たしている役割をていねいに認めることにより、自己有用感の一層の向上が期待できる。
 - (5) 数は少ないものの否定的回答が多い児童生徒がいることが気付きである。一人一人の状況を捉えた個別の配慮が必要である。
 - (6) 小学校5年生と中学校2年生の比較、及び前回の小学校5年生と今回の中学校2年生の追跡比較から、成長にともなう若干の変化は見られるものの、全体としては小学校と中学校に大きな変化は見られず、小中の連結が円滑に進んでいると思われる。
 - (7) 学校や学級毎の分析結果からは、多様な類型が見られた。肯定的回答率が非常に高い学級がある反面、課題を抱えている学級も見られた。各校においては、調査結果を踏まえながら必要に応じて状況把握に務め、組織的な取組を期待したい。
 - (8) 自己有用感を効果的に高めている学級を訪問し、校長及び学級担任との面接と参観を実施した。児童生徒への関わり方や指導、担任としての心構え等について多くの示唆を得ることができた。子どもの気持ちを細やかに汲み取りながら、一人一人の頑張りや成長を認め、声を掛けている点が共通していた。

<おわりに>

当研究所でこれまで長い間継続実施してきた「児童生徒に関する意識調査」ですが、自己肯定感を高めるという盛岡市教育委員会の方針を受け、平成29年の前回調査から「自己有用感」に焦点を当て、栃木県総合教育センターの研究を参考としたアンケート調査に切り替えました。今回は、それから3年後の再調査となりました。

経済格差の拡大に伴う家庭環境の変化やスマートフォンをはじめとする情報機器利用の普及拡大をはじめ、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化しています。それに加えて新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い教育活動が制約を受ける中で、子どもたちの自己有用感はどうなっているのだろうかとの危惧をもちながら調査を進めてきました。

これまで述べてきた通り、全体としては前回調査より改善が見られ、先生方が子どもたちと真正面から向き合い、一人一人に心を配っていることが反映された結果でした。小中のギャップも減少していました。その結果を基に、何校か訪問させて頂きましたが、そこには素晴らしい実践をされている先生と、生き生きと充実感一杯に学校生活を送っている子どもたちの姿がありました。調査結果がそれを指し示していたことを実感しました。本調査は、「自己有用感」を切り口としながら、学級の実態を客観的に把握するツールとしても活用できそうだと感じました。いくつかの学校の校長先生からは、「他の学年で実施したい」「年内にもう一度やってみたい」等の声もいただきました。本調査が、子どもたちがより安心して学校生活を送り、自己有用感を感じ、可能性を広げていくための一助となれば幸いです。

最後に、調査の実施にあたってご協力いただいた、各校の校長先生をはじめとする先生方、関係の皆様へ深く感謝申し上げます。

<参考文献>

「児童生徒に関する意識調査」研究紀要 626

2018年1月 盛岡市教育研究所

「高めよう！自己有用感」 2013年3月 栃木県総合教育センター

「生徒指導リーフ 自尊感情？それとも自己有用感？」

2015年3月 文部科学省 国立教育政策研究所

「自己肯定感・自己有用感の考え方と育み方」

2016年11月 文部科学省 国立教育政策研究所



小学生のみなさんへのアンケート調査

小学5年 組 番 (男・女)

このアンケートは、学校をもっとすこしやすく学びやすい場にしていくために行うものです。成せきにはいっさい関係ありませんので、ふだんのくらしで感じていることをそのまま記入してください。答えたくないものには、むりに答えなくてもいいです。

自分があてはまる答えのマークをていねいにぬりつぶしてください。

○: 空白マーク ●: 正しいぬりつぶし /: 不十分なぬりつぶし

文章で答える問いの場合は、わくからはみ出さないように書いてください。必要な場所以外に書いたり、紙をよごしたり、おり目を付けたりしないようにしてください。

(1) 自分があてはまる答えを右から1つ選んでマークしてください

		1つ選んでマークしてください				
		とてもあてはまる	少しあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
1	学級は、わたしにとって安心できるところだ	○	○	○	○	○
2	学級のみんなは、わたしがこまったときなど、ささえてくれる	○	○	○	○	○
3	わたしには、話しかけてくれる友だちがいる	○	○	○	○	○
4	わたしには、なやみを話せる友だちがいる	○	○	○	○	○
5	わたしは、休み時間（業間休み、昼休み）が楽しみだ	○	○	○	○	○

(2) 休み時間の過ごし方について、自分の考えに近いものはどれですか。1つ選んでマークしてください。

- ひとりで好きなことをして過ごしたい ○ なかのいい友だちと、2人で過したい
 ○ なかのいい友だちと過したい（3人～4人くらいで） ○ たくさんの友だちとすごしたい

(3) 自分があてはまる答えを右から1つ選んでマークしてください

		1つ選んでマークしてください				
		とてもあてはまる	少しあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
1	わたしは、たんにんの先生がいると安心する	○	○	○	○	○
2	たんにんの先生は、わたしが困ったときなど、支えてくれる	○	○	○	○	○
3	たんにんの先生は、わたしに話しかけてくれる	○	○	○	○	○
4	なやんだとき、たんにんの先生に相談できる	○	○	○	○	○
5	家は、わたしにとって安心できるところだ	○	○	○	○	○
6	家族は、わたしがこまったときなど、ささえてくれる	○	○	○	○	○
7	わたしは、家族とよくおしゃべりをする	○	○	○	○	○
8	なやんだとき、家族に相談できる	○	○	○	○	○

(4) わたしには、今、なやんでいることがある

- なやんでいることはない ○ 少しなやんでいることがある ○ とてもなやんでいることがある⇒

(5) ⇒前のしつもんで、「とてもなやんでいることがある」を選んだ人は、どんなことでなやんでいるか2つまで答えてください。※「なやんでいることはない」「少しなやんでいることがある」を選んだ人は答えずに(7)に進んでください。

- 学校の友だちのこと ○ 勉強のこと ○ スポ少の友だちのこと
 ○ 体のこと ○ 児童館（センター）の友だちのこと ○ その他 うらの(6)の空欄に記入⇒

★マークのしかた



(6) ⇒上のしつもんで「(6)その他」を選んだ人は、どんななやみか書いてください。書けるはんいでかまいません。

(7) 自分があてはまる答えを右から1つ選んでマークしてください

		1つ選んでマークしてください				
		とてもあてはまる	少しあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
1	学級のみんなは、わたしの発表をしっかりと聞いてくれる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2	わたしが学校を休んだら、学級のみんなは心配してくれる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3	わたしは「学級の大切な一員」だ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4	たんにんの先生は、わたしの話をしっかりと聞いてくれる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5	わたしが学校を休んだら、たんにんの先生は心配してくれる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6	わたしは、たんにんの先生にとって「大切な生徒」だ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7	家族は、わたしの話をしっかりと聞いてくれる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8	わたしが学校を休んだら、家族は心配してくれる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9	わたしは「家族の大切な一員」だ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(8) 自分があてはまる答えを右から1つ選んでマークしてください

		1つ選んでマークしてください				
		とてもあてはまる	少しあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
1	わたしは、学級のみんなのためになる仕事をしている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2	わたしは、学級のみんながなっとくする意見を言うことがある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3	わたしは、たんにんの先生に対して、協力的なたい度をとっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4	わたしは、たんにんの先生がなっとくする意見を言うことがある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5	わたしは、家族の役にたつ仕事をしている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6	わたしは、家族がなっとくする意見を言うことがある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7	わたしは、学級の人から「ありがとう」と言われることがある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8	わたしは、学級の人からほめられることがある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9	わたしは、たんにんの先生から「ありがとう」と言われることがある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10	わたしは、たんにんの先生からほめられることがある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
11	わたしは、家族から「ありがとう」と言われることがある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
12	わたしは、家族からほめられることがある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

ご協力ありがとうございました。

★マークのしかた



(5) ⇒前の質問で、「とてもなやんでいることがある」を選んだ方は、どんなことでなやんでいるか2つまで教えてください。※「なやんでいることはない」「少しなやんでいることがある」を選んだ人は答えずに(7)に進んでください。

- 学校の友だちのこと 勉強のこと 進路のこと
 部活の人間関係のこと 体のこと その他 下の(6)の空欄に記入⇒

(6) ⇒上の質問で「(6)その他」を選んだ人は、どんななやみか書いてください。書ける範囲でかまいません。

(7) 自分があてはまる答えを右から1つ選んでマークしてください

		1つ選んでマークしてください				
		とてもあてはまる	少しあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
1	学級みんなは、わたしの発表をしっかりと聞いてくれる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2	わたしが学校を休んだら、学級みんなは心配してくれる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3	わたしは「学級の大切な一員」だ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4	担任の先生は、わたしの話をしっかりと聞いてくれる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5	わたしが学校を休んだら、担任の先生は心配してくれる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6	わたしは、担任の先生にとって「大切な生徒」だ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7	家族は、わたしの話をしっかりと聞いてくれる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8	わたしが学校を休んだら、家族は心配してくれる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9	わたしは「家族の大切な一員」だ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(8) 自分があてはまる答えを右から1つ選んでマークしてください

		1つ選んでマークしてください				
		とてもあてはまる	少しあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
1	わたしは、学級みんなのためになる仕事をしている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2	わたしは、学級みんなが納得する意見を言うことがある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3	わたしは、担任の先生に対して、協力的な態度をとっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4	わたしは、担任の先生が納得する意見を言うことがある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5	わたしは、家族の役にたつ仕事をしている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6	わたしは、家族が納得する意見を言うことがある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7	わたしは、学級の人から「ありがとう」と言われることがある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8	わたしは、学級の人からほめられることがある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9	わたしは、担任の先生から「ありがとう」と言われることがある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10	わたしは、担任の先生からほめられることがある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
11	わたしは、家族から「ありがとう」と言われることがある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
12	わたしは、家族からほめられることがある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

小学生用アンケート
5年生 総回答数 2,309

		1つ選んでください					5+4	2+1
		5 とても あてはまる	4 少し あてはまる	3 どちらとも いえない	2 あまりあて はまらない	1 全くあては まらない	肯定的 回答	否定的 回答
学級・友 たち	【学級／友だち】関係性							
	1 学級は、わたしにとって安心できるところだ	1160 50%	753 33%	273 12%	75 3%	47 2%	1913 83%	122 5%
	2 学級のみんなは、わたしが困ったときなど、支えてくれる	1191 52%	746 32%	246 11%	87 4%	32 1%	1937 84%	119 5%
	3 わたしには、話しかけてくれる友だちがいる	1940 84%	277 12%	53 2%	19 1%	13 1%	2217 96%	32 1%
	4 わたしには、なやみを話せる友だちがいる	1342 58%	484 21%	240 10%	108 5%	122 5%	1826 80%	230 10%
	5 わたしは、休み時間(業間休み、昼休み)が楽しみだ	1883 82%	255 11%	109 5%	36 2%	22 1%	2138 93%	58 3%
6 ☆休み時間の過ごし方について自分の考えに近いものは、 どれですか。1つ選んで、記号で答えてください。 ア ひとりで好きなことをして過ごしたい イ 仲のいい友だちと、2人で過ごしたい ウ 仲のいい友だちとすごしたい(3～4人くらいで) エ たくさんの友だちと過ごしたい		ア ひとりで 163 8%	イ 2人で 212 11%	ウ 3～4人で 689 34%	エ たくさんと 948 47%		10031 87%	561 5%

		1つ選んでください					5+4	2+1
		5 とても あてはまる	4 少し あてはまる	3 どちらとも いえない	2 あまりあて はまらない	1 全くあては まらない	肯定的 回答	否定的 回答
先生	【担任・先生】関係性							
	7 わたしは担任の先生がいると安心する	1405 61%	535 23%	271 12%	50 2%	40 2%	1940 84%	90 4%
	8 担任の先生は、わたしが困っているときなど、支えてくれる	1491 65%	526 23%	225 10%	34 1%	20 1%	2017 88%	54 2%
	9 担任の先生は、わたしに話しかけてくれる	1290 56%	656 29%	253 11%	63 3%	32 1%	1946 85%	95 4%
	10 なやんだとき、担任の先生に相談できる	1064 46%	560 24%	398 17%	150 7%	126 5%	1624 71%	276 12%
							7527 82%	515 6%

		1つ選んでください					5+4	2+1
		5 とても あてはまる	4 少し あてはまる	3 どちらとも いえない	2 あまりあて はまらない	1 全くあては まらない	肯定的 回答	否定的 回答
家族	【家族】関係性							
	11 家は、わたしにとって安心できるところだ	2025 88%	161 7%	66 3%	31 1%	16 1%	2186 95%	47 2%
	12 家族は、わたしが困ったときなど、支えてくれる	1824 79%	305 13%	114 5%	37 2%	23 1%	2129 92%	60 3%
	13 わたしは家族とよくおしゃべりをする	1920 83%	262 11%	71 3%	42 2%	11 0%	2182 95%	53 2%
	14 なやんだとき、家族に相談できる	1513 66%	411 18%	225 10%	74 3%	83 4%	1924 83%	157 7%
							8421 91%	317 3%

		3 ややんでいることはない	2 少しなやんで いることがある	1 とてもなやんで いることがある
15	わたしには、今悩んでいることがある	1547 69%	495 22%	202 9%

		ア	イ	ウ	エ	オ	カ
16	☆「とてもなやんでいることがある」に○をした方は、どんなことで悩んでいるか答えてください。(2つまで)	128 36%	76 22%	13 4%	60 17%	5 1%	70 20%
	ア 学校の友だちのこと イ 勉強のこと ウ スポ少の友だちのこと エ 体のこと オ 児童館や児童センターの友だちのこと カ その他						

<カ その他>の内容

- ・ 親・家・家族のこと(32)
- ・ 先生のこと(2) ・進路のこと(2) ・自分自身の性格のこと(6) ・あだな、暴言、冷やかしなど(8) ・その他

		1つ選んでください					5+4	2+1
		5 とても あてはまる	4 少し あてはまる	3 どちらとも いえない	2 あまりあて はまらない	1 全くあては まらない	肯定的 回答	否定的 回答
学級 友 たち	【学級・友だち】存在感							
	17 学級のみんなは、わたしの発表をしっかりと聞いてくれる	1275 55%	754 33%	230 10%	26 1%	19 1%	2029 88%	45 2%
	18 わたしが学校を休んだら、学級のみんなは心配してくれる	892 39%	651 29%	531 23%	117 5%	84 4%	1543 68%	201 9%
	19 わたしは「学級の大切な一員」だ	1015 44%	590 26%	453 20%	128 6%	100 4%	1605 70%	228 10%
							5177 75%	474 7%

【担任・先生】存在感

先生 存在 感	20	担任の先生は、わたしの話をしっかり聞いてくれる	1704	386	158	33	14	2090	47
			74%	17%	7%	1%	1%	91%	2%
	21	わたしが学校を休んだら、担任の先生は心配してくれる	1412	430	362	33	40	1842	73
		62%	19%	16%	1%	2%	81%	3%	
22	わたしは担任の先生にとって「大切な生徒」だ	1202	501	437	71	62	1703	133	
			53%	22%	19%	3%	3%	75%	6%
								5635	253
								82%	4%

【家族】存在感

家族 存在 感	23	家族は、わたしの話をしっかり聞いてくれる	1751	349	108	59	26	2100	85
			76%	15%	5%	3%	1%	92%	4%
	24	わたしが学校を休んだら、家族は心配してくれる	1767	300	136	45	43	2067	88
		77%	13%	6%	2%	2%	90%	4%	
25	わたしは「家族の大切な一員」だ	1821	268	117	46	41	2089	87	
			79%	12%	5%	2%	2%	91%	4%
								6256	260
								91%	4%

【学級・友だち】貢献

		1つ選んでください					5+4	2+1	
		5	4	3	2	1	肯定的 回答	否定的 回答	
		とても あてはまる	少し あてはまる	どちらとも いえない	あまりあて はまらない	全くあては まらない			
学級・友	26	わたしは、学級のみみんなのためになる仕事をしている	1057	805	328	57	56	1862	113
			46%	35%	14%	2%	2%	81%	5%
27	わたしは、学級のみみんなが納得する意見を言うことがある	590	789	603	180	128	1379	308	
			26%	34%	26%	8%	6%	60%	13%
							3241	421	
							71%	9%	

【先生・担任】貢献

先生 貢献	28	わたしは、担任の先生に対して、協力的な態度をとっている	900	728	496	85	76	1628	161
			39%	32%	22%	4%	3%	71%	7%
	29	わたしは、担任の先生が納得する意見を言うことがある	605	751	631	171	137	1356	308
		26%	33%	27%	7%	6%	59%	13%	
								2984	469
								65%	10%

【家族】貢献

家族 貢献	30	わたしは、家族の役に立つ仕事をしている	1184	652	282	106	74	1836	180
			52%	28%	12%	5%	3%	80%	8%
	31	わたしは、家族が納得する意見を言うことがある	994	612	428	124	137	1606	261
		43%	27%	19%	5%	6%	70%	11%	
								3442	441
								75%	10%

【学級・友だち】承認

		1つ選んでください					5+4	2+1	
		5	4	3	2	1	肯定的 回答	否定的 回答	
		とても あてはまる	少し あてはまる	どちらとも いえない	あまりあて はまらない	全くあては まらない			
学級・友	32	わたしは、学級の人から「ありがとう」と言われることがある	1173	695	259	99	74	1868	173
			51%	30%	11%	4%	3%	81%	8%
33	わたしは、学級の人からほめられることがある	861	731	421	168	116	1592	284	
			37%	32%	18%	7%	5%	69%	12%
							3460	457	
							75%	10%	

【先生・担任】承認

先生 承認	34	わたしは、担任の先生から「ありがとう」と言われることがある	906	703	454	132	97	1609	229
			40%	31%	20%	6%	4%	70%	10%
	35	わたしは、担任の先生からほめられることがある	833	789	449	130	91	1622	221
		36%	34%	20%	6%	4%	71%	10%	
								3231	450
								70%	10%

【家族】承認

家族 承認	36	わたしは、家族から「ありがとう」と言われることがある	1580	435	152	74	54	2015	128
			69%	19%	7%	3%	2%	88%	6%
	37	わたしは、家族からほめられることがある	1607	419	151	72	56	2026	128
		70%	18%	7%	3%	2%	88%	6%	
								4041	256
								88%	6%

R2中学生用アンケート
2年生 総回答数 2,348

		1つ選んでください					5+4	2+1
		5	4	3	2	1	肯定的回答	否定的回答
		とてもあてはまる	少しあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	全くあてはまらない		
学級・友だち	【学級／友だち】関連性							
	1 学級は、わたしにとって安心できるところだ	1122 49%	702 30%	317 14%	118 5%	51 2%	1824 79%	169 7%
	2 学級のみんなは、わたしが困ったときなど、支えてくれる	1164 50%	704 30%	362 16%	60 3%	19 1%	1868 81%	79 3%
	3 わたしには、話しかけてくれる友だちがいる	1874 81%	349 15%	58 3%	22 1%	6 0%	2223 96%	28 1%
	4 わたしには、なやみを話せる友だちがいる	1577 68%	427 19%	192 8%	64 3%	46 2%	2004 87%	110 5%
	5 わたしは、休み時間(業間休み, 昼休み)が楽しみだ	1663 72%	376 16%	186 8%	56 2%	29 1%	2039 88%	85 4%
6 ☆休み時間の過ごし方について自分の考えに近いものは、どれですか。1つ選んで、記号で教えてください。	ア ひとり	イ 2人で	ウ 3~4人で	エ たくさん				
	173 7%	362 15%	1215 51%	643 27%				
	オ 体動かして	カ 部活動の準備	キ 生徒会等	ク 勉強	ケ 読書	コ その他	合計	
	370 48%	35 5%	18 2%	132 17%	116 15%	96 13%	767 100%	
		9958	471					
		86%	4%					

		1つ選んでください					5+4	2+1
		5	4	3	2	1	肯定的回答	否定的回答
		とてもあてはまる	少しあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	全くあてはまらない		
先生	【担任】関連性							
	7 わたしは担任の先生がいると安心する	969 42%	689 30%	465 20%	88 4%	95 4%	1658 72%	183 8%
	8 担任の先生は、わたしが困っているときなど、支えてくれる	1311 57%	572 25%	355 15%	33 1%	35 2%	1883 82%	68 3%
	9 担任の先生は、わたしに話しかけてくれる	1203 52%	682 30%	338 15%	46 2%	36 2%	1885 82%	82 4%
	10 なやんだとき、担任の先生に相談できる	889 39%	605 26%	508 22%	152 7%	147 6%	1494 65%	299 13%
		6920	632					
		75%	7%					

		5	4	3	2	1	5+4	2+1
		とてもあてはまる	少しあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	肯定的回答	否定的回答
家族	【家族】関連性							
	11 家は、わたしにとって安心できるところだ	1845 80%	253 11%	137 6%	47 2%	24 1%	2098 91%	71 3%
	12 家族は、わたしが困ったときなど、支えてくれる	1683 73%	376 16%	185 8%	43 2%	22 1%	2059 89%	65 3%
	13 わたしは家族とよくおしゃべりする	1614 70%	409 18%	178 8%	67 3%	37 2%	2023 88%	104 5%
	14 なやんだとき、家族に相談できる	1337 58%	489 21%	280 12%	108 5%	97 4%	1826 79%	205 9%
		8006	445					
		87%	5%					

		3	2	1
		なやんでいることはない	少しなやんでいることがある	とてもなやんでいることがある
15	わたしには、今悩んでいることがある	1326 62%	671 31%	157 7%

		友だち	勉強	進路	部活	体	その他
16	☆「とてもなやんでいることがある」に○をした方は、どんなことで悩んでいるか教えてください。(2つまで)	63 15%	96 22%	102 24%	69 16%	32 7%	66 15%
	ア 学校の友だちのこと						
	イ 勉強のこと						
	ウ 進路のこと						
	エ 部活の人間関係のこと						
	オ 体のこと						
	カ その他						

<カ その他>の内容

- ・親のこと(9)
- ・家・家族のこと(3)
- ・先生のこと(9)
- ・気力がでない
- ・家にいたくない
- ・異性のこと

		1つ選んでください					5+4	2+1
		5	4	3	2	1	肯定的回答	否定的回答
		とてもあてはまる	少しあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	全くあてはまらない		
学級友だち	存在感							
	17 学級のみんなは、わたしの発表をしっかりと聞いてくれる	1338 58%	655 28%	271 12%	31 1%	6 0%	1993 87%	37 2%
	18 わたしが学校を休んだら、学級のみんなは心配してくれる	722 32%	596 26%	790 35%	100 4%	72 3%	1318 58%	172 8%
	19 わたしは「学級の大切な一員」だ	846 37%	633 28%	632 28%	106 5%	75 3%	1479 65%	181 8%
		4790	390					
		70%	6%					

先生存在感	20	担任の先生は、わたしの話をしっかり聞いてくれる	1516 66%	481 21%	245 11%	34 1%	18 1%	1997 87%	52 2%
	21	わたしが学校を休んだら、担任の先生は心配してくれる	1171 51%	481 21%	563 25%	38 2%	29 1%	1652 72%	67 3%
	22	わたしは担任の先生にとって「大切な生徒」だ	999 44%	570 25%	607 27%	61 3%	52 2%	1569 69%	113 5%
								5218 76%	232 3%

家族存在感	23	家族は、わたしの話をしっかり聞いてくれる	1581 69%	447 19%	190 8%	60 3%	20 1%	2028 88%	80 3%
	24	わたしが学校を休んだら、家族は心配してくれる	1544 67%	377 16%	273 12%	52 2%	47 2%	1921 84%	99 4%
	25	わたしは「家族の大切な一員」だ	1653 72%	349 15%	216 9%	48 2%	32 1%	2002 87%	80 3%
								5951 86%	259 4%

		1つ選んでください							
		5	4	3	2	1	5+4	2+1	
		とてもあてはまる	少しあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	肯定的回答	否定的回答	
学級・友	26	わたしは、学級のみんなのためになる仕事をしている	982 43%	837 36%	375 16%	58 3%	49 2%	1819 79%	107 5%
	27	わたしは、学級のみんなが納得する意見を言うことがある	539 23%	672 29%	776 34%	204 9%	109 5%	1211 53%	313 14%
								3030 66%	420 9%

先生貢献	28	わたしは、担任の先生に対して、協力的な態度をとっている	945 41%	766 33%	486 21%	58 3%	43 2%	1711 74%	101 4%
	29	わたしは、担任の先生が納得する意見を言うことがある	565 25%	642 28%	831 36%	165 7%	87 4%	1207 53%	252 11%
								2918 64%	353 8%

家族貢献	30	わたしは、家族の役に立つ仕事をしている	976 42%	720 31%	418 18%	113 5%	73 3%	1696 74%	186 8%
	31	わたしは、家族が納得する意見を言うことがある	978 43%	637 28%	492 21%	105 5%	84 4%	1615 70%	189 8%
								3311 72%	375 8%

		1つ選んでください							
		5	4	3	2	1	5+4	2+1	
		とてもあてはまる	少しあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	肯定的回答	否定的回答	
学級・友	32	わたしは、学級の人から「ありがとう」と言われることがある	1223 53%	719 31%	274 12%	51 2%	37 2%	1942 84%	88 4%
	33	わたしは、学級の人からほめられることがある	954 42%	690 30%	491 21%	97 4%	65 3%	1644 72%	162 7%
								3586 78%	250 5%

先生承認	34	わたしは、担任の先生から「ありがとう」と言われることがある	960 42%	675 29%	514 22%	76 3%	71 3%	1635 71%	147 6%
	35	わたしは、担任の先生からほめられることがある	831 36%	706 31%	606 26%	83 4%	71 3%	1537 67%	154 7%
								3172 69%	301 7%

家族承認	36	わたしは、家族から「ありがとう」と言われることがある	1397 61%	570 25%	218 9%	76 3%	41 2%	1967 85%	117 5%
	37	わたしは、家族からほめられることがある	1340 58%	579 25%	254 11%	82 4%	50 2%	1919 83%	132 6%
								3886 84%	249 5%

————— 研究担当者 —————

盛岡市教育研究所
専門研究員 岩崎 雅司

研 究 紀 要 655 号

発 行 令和3年1月
発行所 盛岡市教育研究所
〒020-8532
盛岡市津志田 41-37-2
☎019-651-4111 (代)

印刷所 盛岡市下の橋町 2-23
(有)セーコー印刷
☎019-651-3606